

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウセイン センシュウダイガク 学校法人 専修大学								
フリガナ大学の名称	センシュウダイガク 専修大学 (Senshu University)								
大学本部の位置	東京都千代田区神田神保町3丁目8番地1								
大学の目的	本大学は、社会現象に対する自由でとらわれない研究を基礎とし、古い権威や強力に対してあくまで批判的であることを精神とし、人間の値打ちを尊重する平和的な良心と民主的な訓練を身に付けた若い日本人を創り上げることを目的とする。								
新設学部等の目的	経営学部ビジネスデザイン学科は、経営学を構成している学問領域に関する教育研究を通して、広く社会に貢献することを目的として、顧客、市場、事業創造等に関する専門的な知識を身に付け、その専門知識を活用して世の中に存在する様々な情報から顧客のニーズやビジネスの種を発見し、それを新規事業として立ち上げることができるような行動力及びこれに関係する様々な人々を集め成功に導くことができる強いリーダーシップを有する人材を養成することを旨とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	経営学部 [School of Business Administration] ビジネスデザイン学科 [Department of Business Design] 計	4年	180人	—年次人	720人	学士（経営学）	平成31年4月 第1年次	神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	経営学部 ビジネスデザイン学科 (180) 文学部 ジャーナリズム学科 (124) 文学部 人文・ジャーナリズム学科 (廃止) (△93) *平成31年4月学生募集停止 経営学部 経営学科 [定員減] (△169) (平成31年4月) 経済学部二部 経済学科 [定員減] (△14) (平成31年4月) 法学部二部 法律学科 [定員減] (△14) (平成31年4月) 商学部二部 マーケティング学科 [定員減] (△14) (平成31年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	経営学部ビジネスデザイン学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位			
		222 科目	211 科目	3 科目	436 科目				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任	任用
	新設	経営学部 ビジネスデザイン学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	等
			9人 (9)	2人 (2)	1人 (1)	0人 (0)	12人 (12)	0人 (0)	42人 (42)
			11人 (11)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	12人 (12)	0人 (0)	48人 (48)
	文学部 ジャーナリズム学科								
	計	20人 (20)	3人 (3)	1人 (1)	0人 (0)	24人 (24)	0人 (0)	—	
既設	経済学部 経済学科	29人 (29)	6人 (6)	0人 (0)	0人 (0)	35人 (35)	0人 (0)	22人 (22)	
		国際経済学科	13人 (13)	2人 (2)	1人 (1)	1人 (1)	17人 (17)	0人 (0)	8人 (8)
		法学部 法律学科	26人 (26)	8人 (8)	1人 (1)	1人 (1)	36人 (36)	0人 (0)	26人 (26)
		政治学科	7人 (7)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	11人 (11)
計	経営学部 経営学科	16人 (16)	8人 (8)	0人 (0)	0人 (0)	24人 (24)	0人 (0)	28人 (28)	

平成30年4月届出済み（予定）

教 員 組 織 の 概 分	既	商学部 マーケティング学科	23 (23)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	30 (30)	0 (0)	20 (20)
		会計学科	14 (14)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	6 (6)
		文学部 日本語学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	4 (4)
		日本文学文化学科	11 (11)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	11 (11)
		英語英米文学科	14 (14)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	19 (19)
		哲学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	24 (24)
		歴史学科	12 (12)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	25 (25)
		環境地理学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	18 (18)
		人文・ジャーナリズム学科	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	21 (21)
		ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科	10 (10)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	34 (34)
		人間科学部 心理学科	11 (11)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	44 (44)
		社会学科	13 (13)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	23 (23)
		経済学部二部 経済学科	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	7 (7)
		法学部二部 法律学科	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	7 (7)
		商学部二部 マーケティング学科	3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	7 (7)
		教養教育	34 (34)	11 (11)	5 (5)	0 (0)	50 (50)	0 (0)	337 (337)
		計	270 (270)	76 (76)	11 (11)	6 (6)	363 (363)	0 (0)	—
	要	合 計	290 (290)	79 (79)	12 (12)	6 (6)	387 (387)	0 (0)	—
	教員以外の職員の概要	職 種	専 任	兼 任		計			
事 務 職 員		301 (301)	48 (48)		349 (349)				
技 術 職 員		18 (18)	2 (2)		20 (20)				
図 書 館 専 門 職 員		23 (23)	8 (8)		31 (31)				
そ の 他 の 職 員		11 (11)	22 (22)		33 (33)				
	計	353 (353)	80 (80)		433 (433)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	125,786.17㎡	0.00㎡	0.00㎡	125,786.17㎡					
	運 動 場 用 地	150,241.12㎡	0.00㎡	0.00㎡	150,241.12㎡					
	小 計	276,027.29㎡	0.00㎡	0.00㎡	276,027.29㎡					
	そ の 他	67.80㎡	0.00㎡	0.00㎡	67.80㎡					
合 計	276,095.09㎡	0.00㎡	0.00㎡	276,095.09㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		168,484.66㎡ (0.00㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	168,484.66㎡ (0.00㎡)					
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	174室	95室	103室	40室 (補助職員 12人)	7室 (補助職員 5人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		経営学部ビジネスデザイン学科		11 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標本	学部単位での特定 不能なため、大学 全体の数		
	経営学部ビジネスデザイン学科	冊	種	点	点	点	点			
	計	1,976,997 [695,003] (1,897,797 [676,391])	22,895 [8,529] (22,695 [8,525])	10,806 [10,152] (10,606 [9,919])	18,666 (17,866)	37,072 (37,072)	4 (4)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体				
		25161.00㎡	1,930	2,359,000						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		17628.35㎡	テニスコート 3面			多目的フィールド 1面				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備 費、電子ブックを 含む。	
		教員1人当り研究費等		385千円	385千円	385千円	385千円	— 千円		— 千円
		共同研究費等		10,337千円	10,337千円	10,337千円	10,337千円	— 千円		— 千円
		図書購入費	1,724千円	1,724千円	3,447千円	5,171千円	6,895千円	— 千円		— 千円
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,242千円	982千円	982千円	982千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入 等							
既 設 大 学 の 状 況	大 学 の 名 称	専修大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	経済学部一部 経済学科	4	490	—	1,950	学士(経済学)	1.13 1.14	昭和24年度	神奈川県川崎市多摩区東三田 2丁目1-1	平成28年度入学生 員増(10人)
	国際経済学科	4	205	—	815	学士(経済学)	1.13	平成8年度		平成28年度入学生 員増(5人)
	法学部一部 法律学科	4	562	—	2,236	学士(法学)	1.15 1.16	昭和24年度	東京都千代田区神田神保町3 丁目8番地1	平成28年度入学生 員増(12人)
	政治学科	4	153	—	609	学士(政治学)	1.14	平成18年度		平成28年度入学生 員増(3人)
	経営学部 経営学科	4	542	—	2,156	学士(経営学)	1.12 1.12	昭和37年度		平成28年度入学生 員増(12人)
	商学部一部 マーケティング学科	4	455	—	1,805	学士(商学)	1.12 1.14	昭和40年度		平成28年度入学生 員増(15人)
	会計学科	4	220	—	880	学士(商学)	1.09	昭和43年度		
	文学部 日本語学科	4	71	—	283	学士(文学)	1.16 1.16	平成22年度		平成28年度入学生 員増(1人)
	日本文学文化学科	4	114	—	452	学士(文学)	1.16	平成22年度		平成28年度入学生 員増(4人)
	英語英米文学科	4	142	—	566	学士(文学)	1.13	昭和41年度		平成28年度入学生 員増(2人)
	哲学科	4	71	—	283	学士(文学)	1.13	平成22年度		平成28年度入学生 員増(1人)
	歴史学科	4	132	—	526	学士(文学)	1.21	平成22年度		平成28年度入学生 員増(2人)
	環境地理学科	4	51	—	203	学士(文学)	1.18	平成22年度		平成28年度入学生 員増(1人)
	人文・ジャーナリズム学科	4	93	—	369	学士(文学)	1.14	平成22年度		平成28年度入学生 員増(3人)
	ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科	4	235	—	935	学士(情報学)	1.07 1.07	平成13年度		平成28年度入学生 員増(5人)

既	人間科学部 心理学科	4	72	—	286	学士（心理学）	1.12 1.06	平成22年度	平成28年度入学生 員増（2人）
	社会学科	4	122	—	486	学士（社会学）	1.15	平成22年度	
設	経済学部二部 経済学科	4	90	—	370	学士（経済学）	0.97 0.97	昭和24年度	平成28年度入学生 員減（10人）
	法学部二部 法律学科	4	90	—	420	学士（法学）	0.97 0.97	昭和24年度	
大	商学部二部 マーケティング学科	4	90	—	370	学士（商学）	1.01 1.01	昭和40年度	平成28年度入学生 員減（10人）
	経済学研究科 修士課程 経済学専攻	2	30	—	60	修士（経済学）	0.36 0.36	昭和27年度	
学	博士後期課程 経済学専攻	3	3	—	9	博士（経済学）	0.11 0.11	昭和30年度	平成28年度入学生 員減（10人）
	法学研究科 修士課程 法学専攻	2	25	—	50	修士（法学）	0.32 0.32	平成16年度	
等	博士後期課程 民法学専攻	3	3	—	9	博士（法学）	0.16 0	昭和30年度	平成28年度入学生 員減（10人）
	公法学専攻	3	3	—	9	博士（法学）	0.33	昭和49年度	
の	文学研究科 修士課程 日本語日本文学専攻	2	10	—	20	修士（文学）	0.64 0.85	昭和46年度	平成28年度入学生 員減（10人）
	英語英米文学専攻	2	5	—	10	修士（文学）	0.3	昭和46年度	
状	哲学専攻	2	5	—	10	修士（哲学）	0.5	昭和46年度	平成28年度入学生 員減（10人）
	歴史学専攻	2	10	—	20	修士（歴史学）	0.55	平成4年度	
の	地理学専攻	2	5	—	10	修士（地理学）	0	平成4年度	平成28年度入学生 員減（10人）
	社会学専攻	2	5	—	10	修士（社会学）	0.4	平成4年度	
状	心理学専攻	2	10	—	20	修士（心理学）	1.2	平成4年度	平成28年度入学生 員減（10人）
	博士後期課程 日本語日本文学専攻	3	3	—	9	博士（文学）	0.26 0.77	昭和48年度	
の	英語英米文学専攻	3	2	—	6	博士（文学）	0.16	昭和48年度	平成28年度入学生 員減（10人）
	哲学専攻	3	2	—	6	博士（哲学）	0	昭和48年度	
状	歴史学専攻	3	5	—	15	博士（歴史学）	0.13	平成6年度	平成28年度入学生 員減（10人）
	地理学専攻	3	3	—	9	博士（地理学）	0.11	平成6年度	
の	社会学専攻	3	3	—	9	博士（社会学）	0.22	平成6年度	平成28年度入学生 員減（10人）
	心理学専攻	3	3	—	9	博士（心理学）	0.44	平成6年度	
状	経営学研究科 修士課程 経営学専攻	2	20	—	40	修士（経営学） 修士（情報管理）	0.3 0.3	昭和50年度	平成28年度入学生 員減（10人）
	博士後期課程 経営学専攻	3	3	—	9	博士（経営学） 博士（情報管理）	0.44 0.44	昭和52年度	
の	商学研究科 修士課程 商学専攻	2	10	—	20	修士（商学）	0.88 0.95	昭和50年度	平成28年度入学生 員減（10人）
	会計学専攻	2	15	—	30	修士（商学）	0.83	平成22年度	

既設	博士後期課程 商学専攻	3	2	—	6	博士（商学）	0.5 0.16	昭和52年度		
	会計学専攻	3	2	—	6	博士（商学）	0.83	平成22年度		
	法務研究科 専門職学位課程 法務専攻	3	28	—	84	法務博士（専門職）	0.56 0.56	平成16年度		
	大学の名称	石巻専修大学								
大 学 等 の 状 況	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定員 超過率	開設 年度	所在地	
	理工学部	年	人	年次人	人		倍			
	食環境学科	4	40	—	160	学士（工学）	0.76 0.48	平成25年度	宮城県石巻市南境新水戸1番地	平成28年度入学定員増（15人）
	生物科学科	4	55	—	205	学士（理学）	1.15	平成25年度		
	機械工学科	4	40	—	160	学士（工学）	0.58	平成元年度		
	情報電子工学科	4	35	—	145	学士（工学）	0.73	平成元年度		
	経営学部 経営学科	4	190	—	770	学士（経営学）	0.62 0.62	昭和37年度		平成28年度入学定員減（5人）
	人間学部 人間文化学科	4	40	—	160	学士（人間文化学）	0.79 0.72	平成25年度		平成28年度入学定員減（10人）
	人間教育学科	4	40	—	160	学士（人間教育学）	0.86	平成25年度		
	理工学研究科 修士課程						0.23			
	物質工学専攻	2	5	—	10	修士（工学）	0.1	平成5年度		
	機械システム工学専攻	2	5	—	10	修士（工学）	0.1	平成5年度		
	生命科学専攻	2	5	—	10	修士（理学）	0.5	平成5年度		
	博士後期課程 生命環境科学専攻	3	3	—	9	博士（理学）	0 0	平成7年度		
	物質機能工学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	0	平成7年度		
	経営学研究科 修士課程 経営学専攻	2	5	—	10	修士（経営学）	0.4 0.4	昭和50年度		
博士後期課程 経営学専攻	3	3	—	9	博士（経営学）	0 0	昭和50年度			
附属施設の概要	該当なし									

教育課程等の概要																
(経営学部ビジネスデザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	経営入門A	1前	2			○			1					兼1		
	経営入門B	1後	2			○			1					兼1		
	会計入門A	1前	2			○								兼2		
	会計入門B	1後	2			○								兼2		
	経済入門	1前・後	2			○								兼2		
	マーケティング入門A	1前	2			○			2							
	マーケティング入門B	1後	2			○			2							
	情報処理入門	1前	2			○								兼5		
	情報システム入門	1前・後	2			○								兼2		
	統計入門	1前・後	2			○								兼2		
	経営管理総論A	2前・後	2			○			1	1						
	経営管理総論B	2前・後	2			○			1	1						
	小計(12科目)	—	—	24	0	0	—	—	—	4	1	0	0	0	兼13	—
	専門科目	簿記基礎演習	1・2後	2			○								兼2	
論理基礎演習		1・2後	2			○								兼3		
情報リテラシー基礎演習		1後	2			○								兼5		
グローバル基礎演習		1・2前	2			○								兼1		
経営数学基礎演習(線形代数A)		1・2前	2			○								兼1		
経営数学基礎演習(線形代数B)		1・2後	2			○								兼1		
経営数学基礎演習(微分積分A)		1・2前	2			○								兼1		
経営数学基礎演習(微分積分B)		1・2後	2			○								兼1		
ビジネスデザイン基礎演習A		2前	2			○			3	1				共同		
ビジネスデザイン基礎演習B		2後	2			○			3	1				共同		
調査の基本		2・3前	2			○								兼1		
経営データ解析演習		2・3前	2			○								兼1		
インターンシップ基礎		2・3前	1			○				1						
インターンシップ		2・3後	1			○			1							
ビジネス研究A		2・3・4前	2			○								兼2		
ビジネス研究B		2・3・4後	2			○								兼2		
ビジネス研究C		2・3・4前	2			○			1					兼1		
ビジネス研究D		2・3・4前・後	2			○			1	1	1			兼3		
ビジネス研究BD		2・3・4後	2			○			2	1						
社会課題発見・解決演習		2・3・4通	2			○			1							
商業簿記応用演習	2・3・4後	2			○								兼1			
工業簿記応用演習	2・3・4後	2			○								兼1			
グローバルリテラシー演習	3前・後	2			○			3	1	1						
ゼミナールA	3通	4			○			7	2	1						
ゼミナールB	4通	4			○			7	2	1						
卒業論文	4通	4			○			7	2	1						
小計(26科目)	—	—	6	50	0	—	—	—	9	2	1	0	0	兼20	—	
基幹科目	マクロ経済学	2・3・4前	2			○								兼1		
	ミクロ経済学	2・3・4前	2			○			1							
	民法A	2・3・4前	2			○								兼1		
	ベンチャー・ビジネス論	2・3・4前	2			○				1						
	日本経営史A	2・3・4前	2			○			1							
	企業家論	2・3・4前	2			○					1					
	流通論A	2・3・4前	2			○			1							
	マーケティング・マネジメント	2・3・4前	2			○			1							
	マーケティング・リサーチ	2・3・4後	2			○			1							
	経営倫理	2・3・4後	2			○			1							
	コーポレート・ガバナンス	2・3・4後	2			○			1							
	景気と政策	2・3・4後	2			○								兼1		
	民法B	2・3・4後	2			○								兼1		
	グローバルイノベーション	2・3・4後	2			○			1							
日本経営史B	2・3・4後	2			○			1								

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基幹科目	事業継承論	2・3・4後		2		○				1						
	ベンチャー企業経営論	2・3・4後		2		○				1						
	流通論B	2・3・4後		2		○			1							
	製品開発論	2・3・4後		2		○			1							
	環境経営論	3・4前		2		○			1							
	経営学史	3・4前		2		○			1							
	会社法A	3・4前		2		○									兼1	
	会社法B	3・4後		2		○									兼1	
	経済法A	3・4前		2		○									兼1	
	経済法B	3・4後		2		○									兼1	
	事業創造	3・4前		2		○			1							
	消費者行動論A	3・4前		2		○			1							
	消費者行動論B	3・4後		2		○			1							
	ブランド論	3・4前		2		○			1							
	広告論	3・4前		2		○			1							
	マーケティングコミュニケーション	3・4後		2		○			1							
	ビジネス・マーケティング	3・4前		2		○									兼1	
サービス・マーケティング	3・4後		2		○									兼1		
ビジネスデザイン特講	3・4前・後		2		○			1								
小計(34科目)		—	0	68	0	—			8	1	1	0	0	兼5	—	
専門科目	研究開発とイノベーションA	2・3・4前		2		○			1							
	応用経済学	2・3・4前		2		○					1					
	マーケティング戦略論A	2・3・4前		2		○									兼1	
	国際ビジネス概論	2・3・4前		2		○									兼1	
	日本経済論A	2・3・4前		2		○									兼1	
	地域研究	2・3・4前		2		○			1							
	中期留学プログラムA	2・3・4前・後		2		○				1						
	中期留学プログラムB	2・3・4前・後		2		○				1						
	ファイナンスの基礎	2・3・4前		2		○									兼1	
	経営分析	2・3・4前		2		○									兼1	
	金融論A	2・3・4前		2		○									兼1	
	商業簿記論A	2・3・4前		2		○									兼1	
	商業簿記論B	2・3・4後		2		○									兼1	
	工業簿記論	2・3・4前		2		○									兼1	
	組織行動論	2・3・4前		2		○									兼1	
	経営学とキャリア開発	2・3・4前		2		○			1							
	経営情報論A	2・3・4前		2		○									兼1	
	オペレーションズ・リサーチA	2・3・4前		2		○									兼1	
	情報システムの分析	2・3・4前		2		○									兼1	
	情報システム基礎	2・3・4前		2		○									兼1	
情報管理概論A	2・3・4前		2		○									兼1		
プログラミング基礎	2・3・4前		2		○									兼1		
小計(22科目)		—	0	44	0	—			2	1	1	0	0	兼12	—	
応用科目	企業経済学	2・3・4後		2		○					1					
	マーケティング戦略論B	2・3・4後		2		○									兼1	
	産業組織論	2・3・4後		2		○			1							
	研究開発とイノベーションB	2・3・4後		2		○			1							
	新興市場ビジネス論	2・3・4後		2		○									兼1	
	国際経営論	2・3・4後		2		○									兼1	
	日本経済論B	2・3・4後		2		○									兼1	
	ビジネス英語	2・3・4後		2		○									兼1	
	異文化コミュニケーション	2・3・4後		2		○									兼1	
	ファイナンスと統計	2・3・4後		2		○									兼1	
	財務管理論A	2・3・4後		2		○									兼1	
	金融論B	2・3・4後		2		○									兼1	
証券論	2・3・4後		2		○									兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	応用科目	企業法と会計情報		2		○										兼1	
		原価計算	2・3・4後	2		○										兼1	
		管理会計	2・3・4後	2		○										兼1	
		税金の基礎	2・3・4後	2		○										兼1	
		リーダーシップ論	2・3・4後	2		○										兼1	
		雇用関係法	2・3・4後	2		○										兼1	
		経営情報論B	2・3・4後	2		○										兼1	
		情報システムの開発	2・3・4後	2		○										兼1	
		オペレーションズ・リサーチB	2・3・4後	2		○										兼1	
		プログラミング応用	2・3・4後	2		○										兼1	
		情報管理概論B	2・3・4後	2		○										兼1	
		データベース論	2・3・4後	2		○										兼1	
		シミュレーション論	2・3・4後	2		○										兼1	
		情報セキュリティ	2・3・4後	2		○										兼1	
		経営組織論	3・4前	2		○										兼1	
		戦略経営論	3・4前	2		○					1						
		外国経営史A	3・4前	2		○										兼1	
		外国経営史B	3・4後	2		○										兼1	
		国際経済論	3・4前	2		○										兼1	
		財務管理論B	3・4前	2		○										兼1	
		リスク・マネジメント論	3・4前	2		○										兼1	
		財務諸表論	3・4前	2		○										兼1	
		コスト・マネジメント	3・4前	2		○										兼1	
		監査論	3・4前	2		○										兼1	
		税務会計論	3・4前	2		○										兼1	
		連結会計	3・4前	2		○										兼1	
		人的資源管理論A	3・4前	2		○										兼1	
		人的資源管理論B	3・4後	2		○										兼1	
		労使関係法	3・4前	2		○										兼1	
		経営戦略論	3・4前	2		○										兼1	
		経営システム論	3・4前	2		○										兼1	
		生産管理論A	3・4前	2		○										兼1	
		生産管理論B	3・4後	2		○										兼1	
		会計システムとソリューションA	3・4前	2		○										兼1	
		マーケティングとソリューションA	3・4前	2		○										兼1	
		会計システムとソリューションB	3・4後	2		○										兼1	
		マーケティングとソリューションB	3・4後	2		○										兼1	
		Webプログラミング	3・4前	2		○										兼1	
		マルチメディア情報処理論A	3・4前	2		○										兼1	
		マルチメディア情報処理論B	3・4後	2		○										兼1	
		情報通信ネットワーク論A	3・4前	2		○										兼1	
		情報通信ネットワーク論B	3・4後	2		○										兼1	
		経営学特講	3・4前・後	2		○					1						
		小計(56科目)		—	0	112	0	—			3	1	1	0	0	兼32	—
		関連科目	リーダーシップ開発プログラム	1・2・3・4通		4		○									兼1
			寄付講座	2・3・4前・後		2		○			1						兼2
			特殊講義	2・3・4前・後		2		○									兼1
			小計(3科目)	—	0	8	0	—			1	0	0	0	0	兼3	—
		転換・導入科目	専修大学入門ゼミナール	1前		2			○		7	2	1				
			小計(1科目)	—	0	2	0	—			7	2	1	0	0		—

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
転換・導入科目	キャリア入門	1前・後		2			○								兼1		
	小計(1科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1	—	
	基礎自然科学	1前・後		2		○									兼1		
	小計(1科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1	—	
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー スポーツウェルネス	1前・後 1前・後	1 1				○ ○								兼2 兼2	
教養科目	小計(2科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2	—	
	人文科学基礎科目	日本の文化	1・2前		2		○									兼1	
		日本の文学	1・2前・後		2		○									兼1	
		世界の文学	1・2前		2		○									兼1	
		文学と現代世界	1・2後		2		○									兼1	
		英語圏文学への招待	1・2前		2		○									兼1	
		歴史の視点	1・2前		2		○									兼1	
		歴史と地域・民衆	1・2後		2		○									兼1	
		歴史と社会・文化	1・2前・後		2		○									兼1	
		基礎心理学入門	1・2前		2		○									兼1	
		応用心理学入門	1・2後		2		○									兼1	
		哲学	1・2前・後		2		○									兼1	
		倫理学	1・2前・後		2		○									兼1	
		論理学入門	1・2前・後		2		○									兼1	
		ことばと論理	1・2前・後		2		○									兼1	
		芸術学入門	1・2前		2		○									兼1	
		異文化理解の人類学	1・2前		2		○									兼1	
ジャーナリズムと現代	1・2後		2		○									兼1			
小計(17科目)	—	0	34	0	—			0	0	0	0	0	0	兼13	—		
社会科学基礎科目	日本国憲法	1・2前		2		○									兼1		
	法と社会	1・2後		2		○									兼1		
	政治学入門	1・2前		2		○									兼1		
	政治の世界	1・2後		2		○									兼1		
	地理学への招待	1・2前・後		2		○									兼1		
	社会学入門	1・2前・後		2		○									兼1		
	現代の社会学	1・2前・後		2		○									兼1		
	社会科学論	1・2前・後		2		○									兼1		
	社会思想	1・2前・後		2		○									兼1		
	教育学入門	1・2前		2		○									兼1		
	子どもと社会の教育学	1・2前・後		2		○									兼1		
小計(11科目)	—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	0	兼9	—		
自然科学系科目	自然科学実験演習1	1・2・3・4後		2			○								兼1		
	自然科学実験演習2	1・2・3・4前		4			○								兼1		
	生物科学1a	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	生物科学1b	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	生物科学2a	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	生物科学2b	1・2・3・4後		2		○									兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養科目	自然科学系科目	生物科学3a		2		○									兼1			
		生物科学3b		2		○									兼1			
		宇宙地球科学1a		2		○									兼1			
		宇宙地球科学1b		2		○									兼1			
		宇宙地球科学2a		2		○									兼1			
		宇宙地球科学2b		2		○									兼1			
		化学1a		2		○									兼1			
		化学1b		2		○									兼1			
		化学2a		2		○									兼1			
		化学2b		2		○									兼1			
		物理学1a		2		○									兼1			
		物理学1b		2		○									兼1			
		物理学2a		2		○									兼1			
		物理学2b		2		○									兼1			
		数理学1a		2		○									兼1			
		数理学1b		2		○									兼1			
		数理学2a		2		○									兼1			
		数理学2b		2		○									兼1			
		数理学3a		2		○									兼1			
		数理学3b		2		○									兼1			
		科学論1a		2		○									兼1			
		科学論1b		2		○									兼1			
		科学論2a		2		○									兼1			
		科学論2b		2		○									兼1			
		小計(30科目)		—	0	62	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11	—
		教養科目	融合領域科目	学際科目1		2		○									兼1	
				学際科目2		2		○									兼1	
				学際科目3		2		○									兼1	
				学際科目4		2		○									兼1	
				学際科目5		2		○									兼1	
学際科目6				2		○									兼1			
学際科目7				2		○									兼1			
学際科目8				2		○									兼1			
学際科目9				2		○									兼1			
学際科目10				2		○									兼1			
学際科目11				4		○									兼1			
学際科目12				4		○									兼1			
テーマ科目	2・3・4前・後			2		○										兼1		
新領域科目1	2・3・4後			2		○										兼1		
新領域科目2	2・3・4前			2		○										兼1		
新領域科目3	2・3・4後			2		○										兼1		
新領域科目4	2・3・4後			2		○										兼1		
新領域科目5	2・3・4後			2		○										兼1		
キャリア科目1	2・3・4前			2		○										兼1		
キャリア科目2	2・3・4後			2		○										兼1		
教養テーマゼミナール1	2通			4				○								兼1		
教養テーマゼミナール2	3通			4				○								兼1		
教養テーマゼミナール3	4通			4				○								兼1		
教養テーマゼミナール論文	3・4通			2				○								兼1		
小計(24科目)		—	0	58	0	—			0	0	0	0	0	0	兼17	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目 保健体育系科目	アドバンススポーツ	2・3・4前・後		2				○							兼2
	スポーツ論(健康と生涯スポーツ)	2・3・4後		2			○								兼1
	スポーツ論(オリンピックとスポーツ)	2・3・4前・後		2			○								兼1
	スポーツ論(スポーツコーチング)	2・3・4前・後		2			○								兼1
	スポーツ論(スポーツライフデザイン論)	2・3・4前・後		2			○								兼1
	スポーツ論(人類とスポーツ)	2・3・4前・後		2			○								兼1
	スポーツ論(トレーニング科学)	2・3・4後		2			○								兼1
	小計(7科目)	—	—	0	14	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0
外国語科目	Basics of English (RL) 1a	1前		1				○							兼2
	Basics of English (RL) 1b	1後		1				○							兼2
	Intermediate English (RL) 1a	1前		1				○							兼2
	Intermediate English (RL) 1b	1後		1				○							兼2
	Basics of English (SW) 1a	1前		1				○							兼2
	Basics of English (SW) 1b	1後		1				○							兼2
	Intermediate English (SW) 1a	1前		1				○							兼2
	Intermediate English (SW) 1b	1後		1				○							兼2
	Basics of English (RL) 2a	2前		1				○							兼1
	Basics of English (RL) 2b	2後		1				○							兼1
	Intermediate English (RL) 2a	2前		1				○							兼1
	Intermediate English (RL) 2b	2後		1				○							兼1
	Basics of English (SW) 2a	2前		1				○							兼1
	Basics of English (SW) 2b	2後		1				○							兼1
	Intermediate English (SW) 2a	2前		1				○							兼1
	Intermediate English (SW) 2b	2後		1				○							兼1
	General English	2・3・4前・後		1				○							兼1
	English Speaking a	1・2・3・4前		1				○							兼1
	English Speaking b	1・2・3・4後		1				○							兼1
	Computer Aided Instruction a	1・2・3・4前		1				○							兼1
	Computer Aided Instruction b	1・2・3・4後		1				○							兼1
	Computer Aided Instruction for TOEIC a	1・2・3・4前		1				○							兼1
	Computer Aided Instruction for TOEIC b	1・2・3・4後		1				○							兼1
	Advanced English a	2・3・4前		2				○							兼1
	Advanced English b	2・3・4後		2				○							兼1
	English Language and Cultures a	2・3・4前		2				○							兼1
	English Language and Cultures b	2・3・4後		2				○							兼1
	English Presentation a	2・3・4前		2				○							兼1
	English Presentation b	2・3・4後		2				○							兼1
	English Writing a	2・3・4前		2				○							兼1
	English Writing b	2・3・4後		2				○							兼1
	Screen English a	2・3・4前		2				○							兼1
	Screen English b	2・3・4後		2				○							兼1
小計(33科目)	—	—	0	43	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼11
英語以外の外国語	ドイツ語初級1a	1・2・3・4前		1				○							兼1
	ドイツ語初級1b	1・2・3・4前・後		1				○							兼1
	ドイツ語初級2a	1・2・3・4前		1				○							兼1
	ドイツ語初級2b	1・2・3・4前・後		1				○							兼1
	フランス語初級1a	1・2・3・4前		1				○							兼1
	フランス語初級1b	1・2・3・4前・後		1				○							兼1
	フランス語初級2a	1・2・3・4前		1				○							兼1
	フランス語初級2b	1・2・3・4前・後		1				○							兼1
	中国語初級1a	1・2・3・4前		1				○							兼1
	中国語初級1b	1・2・3・4前・後		1				○							兼1
	中国語初級2a	1・2・3・4前		1				○							兼1
	中国語初級2b	1・2・3・4前・後		1				○							兼1
	スペイン語初級1a	1・2・3・4前		1				○							兼1
	スペイン語初級1b	1・2・3・4前・後		1				○							兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
外国語科目	英語以外の外国語	スペイン語初級2a	1・2・3・4前	1			○							兼1
		スペイン語初級2b	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		ロシア語初級1a	1・2・3・4前	1			○							兼1
		ロシア語初級1b	1・2・3・4後	1			○							兼1
		ロシア語初級2a	1・2・3・4前	1			○							兼1
		ロシア語初級2b	1・2・3・4後	1			○							兼1
		インドネシア語初級1a	1・2・3・4前	1			○							兼1
		インドネシア語初級1b	1・2・3・4後	1			○							兼1
		インドネシア語初級2a	1・2・3・4前	1			○							兼1
		インドネシア語初級2b	1・2・3・4後	1			○							兼1
		ロシア語初級1a	1・2・3・4前	1			○							兼1
		ロシア語初級1b	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		ロシア語初級2a	1・2・3・4前	1			○							兼1
		ロシア語初級2b	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		ドイツ語中級1a	2・3・4前	1			○							兼1
		ドイツ語中級1b	2・3・4後	1			○							兼1
		ドイツ語中級2a	2・3・4前	1			○							兼1
		ドイツ語中級2b	2・3・4後	1			○							兼1
		フランス語中級1a	2・3・4前	1			○							兼1
		フランス語中級1b	2・3・4後	1			○							兼1
		フランス語中級2a	2・3・4前	1			○							兼1
		フランス語中級2b	2・3・4後	1			○							兼1
		中国語中級1a	2・3・4前	1			○							兼1
		中国語中級1b	2・3・4後	1			○							兼1
		中国語中級2a	2・3・4前	1			○							兼1
		中国語中級2b	2・3・4後	1			○							兼1
		スペイン語中級1a	2・3・4前	1			○							兼1
		スペイン語中級1b	2・3・4後	1			○							兼1
		スペイン語中級2a	2・3・4前	1			○							兼1
		スペイン語中級2b	2・3・4後	1			○							兼1
		ロシア語中級1a	2・3・4前	1			○							兼1
		ロシア語中級1b	2・3・4後	1			○							兼1
		ロシア語中級2a	2・3・4前	1			○							兼1
		ロシア語中級2b	2・3・4後	1			○							兼1
		インドネシア語中級1a	2・3・4前	1			○							兼1
		インドネシア語中級1b	2・3・4後	1			○							兼1
		インドネシア語中級2a	2・3・4前	1			○							兼1
		インドネシア語中級2b	2・3・4後	1			○							兼1
		ロシア語中級1a	2・3・4前	1			○							兼1
		ロシア語中級1b	2・3・4後	1			○							兼1
		ロシア語中級2a	2・3・4前	1			○							兼1
		ロシア語中級2b	2・3・4後	1			○							兼1
ドイツ語上級1a	3・4前	1			○							兼1		
ドイツ語上級1b	3・4後	1			○							兼1		
フランス語上級1a	3・4前	1			○							兼1		
フランス語上級1b	3・4後	1			○							兼1		
中国語上級1a	3・4前	1			○							兼1		
中国語上級1b	3・4後	1			○							兼1		
スペイン語上級1a	3・4前	1			○							兼1		
スペイン語上級1b	3・4後	1			○							兼1		
ロシア語上級1a	3・4前	1			○							兼1		
ロシア語上級1b	3・4後	1			○							兼1		
インドネシア語上級1a	3・4前	1			○							兼1		
インドネシア語上級1b	3・4後	1			○							兼1		
ロシア語上級1a	3・4前	1			○							兼1		
ロシア語上級1b	3・4後	1			○							兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
英語 以外 の 外 国 語	選択ドイツ語1a	2・3・4前		1			○								兼1	
	選択ドイツ語1b	2・3・4後		1			○								兼1	
	選択フランス語1a	2・3・4前		1			○								兼1	
	選択フランス語1b	2・3・4後		1			○								兼1	
	選択中国語1a	2・3・4前		1			○								兼1	
	選択中国語1b	2・3・4後		1			○								兼1	
	選択スペイン語1a	2・3・4前		1			○								兼1	
	選択スペイン語1b	2・3・4後		1			○								兼1	
	選択韓国語1a	2・3・4前		1			○								兼1	
	選択韓国語1b	2・3・4後		1			○								兼1	
	選択アラビア語1a	2・3・4前		1			○								兼1	
	選択アラビア語1b	2・3・4後		1			○								兼1	
	選択イタリア語1a	2・3・4前		1			○								兼1	
	選択イタリア語1b	2・3・4後		1			○								兼1	
	世界の言語と文化(ドイツ語)	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	世界の言語と文化(フランス語)	1・2・3・4前・後		2			○								兼1	
	世界の言語と文化(中国語)	1・2・3・4前・後		2			○								兼1	
	世界の言語と文化(スペイン語)	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	世界の言語と文化(ロシア語)	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	世界の言語と文化(インドネシア語)	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	世界の言語と文化(韓国語)	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	世界の言語と文化(韓国語)	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	言語文化研究(ヨーロッパ)1	2・3・4前		2			○								兼1	
	言語文化研究(ヨーロッパ)2	2・3・4後		2			○								兼1	
	言語文化研究(アジア)1	2・3・4前・後		2			○								兼1	
	言語文化研究(アジア)2	2・3・4後		2			○								兼1	
言語文化研究(アメリカ)	2・3・4前・後		2			○								兼1		
小計(96科目)		—	0	108	0	—			0	0	0	0	0	0	兼33	—
外 国 語 科 目	海外語学短期研修1(英語)	1・2・3前		2			○								兼1	
	海外語学短期研修2(英語)	1・2・3後		2			○								兼1	
	海外語学短期研修1(ドイツ語)	1・2・3前		2			○								兼1	
	海外語学短期研修2(ドイツ語)	1・2・3後		2			○								兼1	
	海外語学短期研修1(フランス語)	1・2・3前		2			○								兼1	
	海外語学短期研修2(フランス語)	1・2・3後		2			○								兼1	
	海外語学短期研修1(中国語)	1・2・3前		2			○								兼1	
	海外語学短期研修2(中国語)	1・2・3後		2			○								兼1	
	海外語学短期研修1(スペイン語)	1・2・3前		2			○								兼1	
	海外語学短期研修2(スペイン語)	1・2・3後		2			○								兼1	
	海外語学短期研修1(韓国語)	1・2・3前		2			○								兼1	
	海外語学短期研修2(韓国語)	1・2・3後		2			○								兼1	
	海外語学中期研修1(英語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修2(英語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修3(英語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修4(英語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修5(英語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修6(英語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修7(英語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修8(英語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修1(ドイツ語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修2(ドイツ語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修3(ドイツ語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修4(ドイツ語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修5(ドイツ語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修6(ドイツ語)	2・3・4通		2			○								兼1	
海外語学中期研修7(ドイツ語)	2・3・4通		2			○								兼1		
海外語学中期研修8(ドイツ語)	2・3・4通		2			○								兼1		
海外語学中期研修1(フランス語)	2・3・4通		2			○								兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
外国語科目 海外語学研修	海外語学中期研修2(フランス語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修3(フランス語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修4(フランス語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修5(フランス語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修6(フランス語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修7(フランス語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修8(フランス語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修1(中国語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修2(中国語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修3(中国語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修4(中国語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修5(中国語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修6(中国語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修7(中国語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修8(中国語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修1(スペイン語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修2(スペイン語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修3(スペイン語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修4(スペイン語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修5(スペイン語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修6(スペイン語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修7(スペイン語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修8(スペイン語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修1(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修2(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修3(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修4(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修5(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修6(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1	
	海外語学中期研修7(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1	
海外語学中期研修8(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1		
小計(60科目)		—	0	120	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	—
合計 (436科目)		—	32	749	0	—			9	2	1	0	0	0	兼129	—
学位又は称号		学士(経営学)		学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
専門科目から76単位以上を修得する。そのうち、基礎科目の必修科目から24単位、演習科目の必修科目の6単位を含む16単位以上、基幹科目から18単位以上を修得する。 転換・導入科目から、必修科目の2単位を修得する。 教養科目、外国語科目から22単位以上を修得する。 合計124単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限:44単位(年間))						1学年の学期区分			2期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	基 礎 科 目	経営入門A	現代社会は「企業社会」と呼んでも過言でないほど日常生活に対する企業の影響力は大きくなっています。本科目では、高校から大学への橋渡しとなる科目として、「企業」および「経営」という概念を理解し、企業経営の問題に対する興味を喚起することを目的に講義します。 本科目では、仕事へのやる気を引き出すにはどうすればよいか、組織をうまくまとめるためのリーダーシップ、顧客とのよい関係のつくり方、ヒット商品のつくり方、等のさまざまな経営課題について、実際のビジネスケースなどを用いながら受講生一人ひとりに考えてもらいます。
		経営入門B	現代社会は「企業社会」と呼んでも過言でないほど日常生活に対する企業の影響力は大きくなっています。本科目では、まず「企業」および「経営」という概念を理解し、これを基礎として社会をみる目を養うことを目的としています。高校から大学への橋渡しとなる科目と位置付けられます。経営学の専門的学習を始める準備段階として、現代の企業はどのような仕組みで経営されているのか、どのような課題を抱えているのか、働く喜びとは何か、企業は人間を幸せにしてくれるのだろうかといった疑問に対して、まず日常感覚で考えていく手がかりを提供し、企業経営の問題に対する興味を喚起することをめざしています。 本科目では、企業の実例を適宜紹介しながら、企業とは何か、会社とは何か、善い会社とは何か、よい経営はどのようにしたら実現できるかについて学びます。また、大企業の経営戦略と国際化、それに成長する東アジアでどのようなことが起きているのかについて議論します。
		会計入門A	会計とは、個人または企業の経済活動を測定・記録し、その結果を個人または企業に利害を持つ人々に伝達することです。この会計に関する知識、特に企業会計を中心とした会計学全般に関する基礎的知識を習得することが会計入門Aの目的です。 会計の学習は、最初に、企業の活動とそれから生まれた価値を測定し記録する技術としての複式簿記の原理、具体的には仕訳や転記などを学ぶことから始まります。たんに複式簿記の原理を覚えただけでは、実際の経済活動を測定・記録することはできませんので、あわせて実際の経済活動の仕組みも理解する必要があります。企業ではさまざまな取引が行われていますが、その中でも、特に多くの企業で日常よく行われている取引を中心に演習問題を実施しながら、学習していきます。
		会計入門B	会計は、企業が将来にわたって無期限に事業を継続することを前提に行われています。無期限に事業が継続されるということは、儲けているのか、損しているのかを把握することはできません。なぜなら今損失がでていても、将来利益ができれば、結果は変わってくるからです。そのため、人為的に期間を区切って、当該期間で利益が出ているか否かを計算する必要があります。適正な利益を計算するために、各期間の最後にさまざまな調整をします。これを決算と呼びます。会計入門Bでは、この決算において、適正な利益を計算するための基本的な手続きを習得することが目的です。 あわせて企業の内部および外部の人々に伝達する方法も学ぶ必要があります。会計入門Bでは、企業外部の人々への報告の仕方も勉強します。具体的な報告には、基本的に貸借対照表と損益計算書が利用されますので、これらの作成方法や内容も、会計入門Bで学ぶものとなります。
		経済入門	この科目では、経済学の基礎を教授する。標準的な経済学はミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。ミクロ経済学の分野では、①需要曲線と供給曲線から導かれる均衡価格；②独占、寡占、独占的競争等の産業内競争；③税と補助金の効果；④貿易の利益；⑤戦略的思考を持つ経済主体の相互依存関係等について学ぶ。マクロ経済学の分野では、ミクロ経済学の知見をもとに、①マクロ経済統計；②マネーの仕組み；③財政政策と金融政策；④技術進歩と経済成長；⑤起業家の役割；⑥少子高齢化の影響等について学ぶ。経済入門では、ビジネスデザイン学科の特性を踏まえ、適宜最新のニュースを織り交ぜながら、マクロ経済学に比重をおいて講義する。
		マーケティング入門A	マーケティングとは、文字どおり、マーケット(市場)において「消費者を満足させるための理念と方法」を考えようとする学問であります。一方で、マーケット(市場)そのものは、環境変化の影響により時々刻々と変化しており、マーケティングもその都度、変化・修正を繰り返しながら今日に至っています。すなわち、マーケティングは「常に発展・変化しつづける」学問であります。 マーケティング入門Aでは、マーケティングが生まれた背景をはじめ、環境の分析、マーケティング基礎理論と戦略的マーケティングの習得などを目標とします。特に身近な事例にもとづいてマーケティングの基本を修得します。
		マーケティング入門B	マーケティングの本質は、顧客を知りつくし、顧客のニーズに応えることで顧客満足を実現し、継続して購入してもらうための「売れ続ける仕組み」を作ることです。 マーケティング入門Bでは、マーケティング入門Aで学んだマーケティングの基礎を発展させます。具体的には消費者のニーズやウオントの把握、新製品開発、価格設定と流通チャネルの構築、広告などのマーケティング・コミュニケーション活動の計画策定まで、さまざまな方法を検討します。それにより、消費者にとって価値のあるブランドを創り上げていくというマーケティングの課題に挑戦します。

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	情報処理入門	<p>インターネットやスマートフォンの普及を見ても分かるように、コンピュータ・情報システムの社会的応用は、企業はもちろんのこと、自治体をはじめとする公的機関においても、今や必須のものとなっています。コンピュータは、事務系あるいは社会科学分野に属す人々にとっても極めて重要な道具となり、その基本的な操作方法や利用方法(コンピュータリテラシ)を修得しておくことは必要不可欠です。</p> <p>本講義では、パーソナルコンピュータ(パソコン)の基本的な操作方法を始めとして、オペレーティングシステム(OS)の操作と、企業や大学などで日常の情報活動において広く用いられているワープロ、表計算、ブラウザ、電子メール、プレゼンテーション等のための基本的な応用ソフトウェア(アプリ)の使い方を、実習を通して体得してもらいます。</p>	
	情報システム入門	<p>近年の情報社会においては、インターネットやモバイル端末の普及など、ICT(情報通信技術)は日常の様々なシーンで活用され、社会に深く浸透しています。コンピュータをはじめとするICTは、事務系あるいは社会科学分野に属す人々にとっても極めて重要な道具となりつつあります。このため、企業などの組織で情報システムを導入し、効果的に活用するためには、ICTに関する知識が不可欠です。</p> <p>本講義では、情報を収集・処理・伝達する仕組みである情報システムの構成と働きに関して、その仕組みの実現手段であるICTやコンピュータの原理、コンピュータシステムを構成するハードウェアやソフトウェア、コンピュータを結ぶネットワーク、そして、情報システムの構築法や活用法に関して、経営学部生が必要条件として修得しなければならない知識を提供します。またこの他に、コンピュータの歴史などについても触れます。</p>	
	統計入門	<p>この科目の目標は、情報化社会において、データから必要な情報の全体をとらえること(統計)に基づく意思決定のための基礎力を身に付けることである。データの全体像(分布)を把握するために表やグラフを作成すること、さらに分布の特徴をあらわす基本的な指標(平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差など)を取り上げる。</p> <p>実際にデータを得る調査は、分析対象の集団全体(母集団)ではなく、そこから抽出される一部(標本)に対して行われる。この場合、標本に基づいて母集団の特徴を統計的に推測することになる。そこで、推測で用いる代表的な確率分布、推測における推定と検定の基本的な考え方についても学ぶ。特に、ある一つの母集団から一つの変数に対して得られた標本に基づく推測の方法について扱う。</p> <p>授業形態は講義であり、例題による解説を行い、一般的な式を示すが、理解を深めるために同じ指標や方法に対して複数の問題演習を行う。</p>	
	経営管理総論A	<p>経営学を含めた様々な社会科学の理論は、その時代時代に横たわる問題・課題を解決することを目指して生まれ、発展してきました。それゆえ、本講義は、社会や経済の背景とそれらに基づいた職業観、人間観や組織観などを踏まえながら、経営学の諸理論に関する歴史的な流れを概観することから始めます。そして、「組織の中の個」の視点、すなわち個々の従業員という立場から組織を眺める時にとりわけ重要性を帯びる経営現象、具体的にはモチベーション、リーダーシップ、あるいはチームマネジメントなどについて、上記の諸理論を踏まえながら理解することになります。その意味で、温故知新の経営学と言っても良いでしょう。経営管理総論Bの学習内容と合わせて修得すると、マネジメントに関する個と組織の複眼的視点を養えます。</p>	
	経営管理総論B	<p>経営学を含めた様々な社会科学の理論は、その時代時代に横たわる問題・課題を解決することを目指して生まれ、発展してきました。それゆえ、本講義は、社会や経済の背景とそれらに基づいた職業観、人間観や組織観などを踏まえながら、経営学の諸理論に関する歴史的な流れを概観することから始めます。そして、「組織」の視点、すなわち経営者やその他のマネジャーなどの組織をマネジメントする立場から組織を眺める時にとりわけ重要性を帯びる経営現象、具体的には経営環境と適合、経営の理念や戦略、あるいは組織の構造と統制などについて、上記の諸理論を踏まえながら理解することになります。その意味で、温故知新の経営学と言っても良いでしょう。経営管理総論Aの学習内容と合わせて修得すると、マネジメントに関する個と組織の複眼的視点を養えます。</p>	
専門 科目	簿記基礎演習	<p>本演習科目の目的は、会計入門Aおよび会計入門Bで学んだ簿記および会計学の基本を踏まえて、簿記に慣れて、複式簿記の仕組みおよび企業で行われている取引の理解を深めていくことです。目標は、日商簿記検定試験3級水準の簿記が円滑に行えるようになることとなります。</p> <p>会計入門Aや会計入門Bでは簿記や会計学の考え方の説明に比較的多くの時間を割き、練習問題はその考えの確認になるような授業展開となっていますが、本演習は会計入門Aや会計入門Bで得た知識や考え方を、比較的少人数でより多くの練習問題を質疑応答しながら解いていくことにより、正確な知識を確実に定着させるような演習形式の授業となります。</p>	
	論理基礎演習	<p>1年次前期の専修大学入門ゼミナールでは、レポートの書き方やプレゼンテーションの仕方などの基礎を学びますが、レポートを作成してプレゼンテーションするには、その中身が大切です。中身、すなわち問題の本質を見極め、正しい解決法を考えるためには、論理的思考を身につけなければなりません。さらに、論理的表現を学ぶことで、説得力のあるレポートやプレゼンテーションによって他人に自分の考えを伝えることができるようになるでしょう。そのために、論理基礎演習では、様々な問題に対して論理的に考えて報告するトレーニングを行います。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 演 習 科 目	情報リテラシ基礎演習	情報リテラシ基礎演習では、個人レベルでの情報の発信・収集・整理・処理に関する基本を学習し、それぞれに必要なツール類に関して基本と実習を総合した学習を行います。学部における講義、ゼミナール及び卒業論文等の諸活動と、卒業後、就職先または大学院で必要となる情報リテラシの基本を身につけることが目的です。 この講義では、「情報処理入門」で習ったソフトウェアの機能の応用、及びいくつかの新しい機能を利用して実施する必要がある課題を、個人やグループで遂行していきます。この中には、数量情報を含む各種の情報の調査・整理・報告の仕事や、各種レポートの作成等が含まれます。そして最後にプレゼンテーションソフトを用いた発表报告会、ディベート等を行い、しめくります。	
	グローバル基礎演習	大学在学中に期間の長短を問わず、海外留学を考えている学生を対象にグローバル・コンピテンシー(グローバル化対応能力)の基礎を培うため、留学に向けた計画と準備に必要な事項および留学中の注意点を中心に解説します。具体的には、留学によって達成したい目標(現地では何ができるようにしたいのか、そのために今自分がすべきことは何か)をタスクやグループ・ディスカッションによって意識化・顕在化させると同時に、求められる語学力の把握と目標に向かっての学習対策、アカデミック・スキルズを含む英語コミュニケーション力と異文化への適応プロセス、自分の能力にふさわしい留学形態やプログラムの見極め方等について理解を深めることを目指します。また、留学後の将来のキャリア・プランニングを視野に入れて、異文化体験による自己の「成長(失敗)経験」の活かし方についてもシミュレーション・トレーニングを通して考察する機会を提供する予定です。	
	経営数学基礎演習(線形代数A)	経営学上の問題を考える際、問題を数理モデル化し数学的に考えることがしばしばある。こういった手法を理解するために必要な数学を学ぶ。とくにこの科目では線形代数に関連する話題を扱う。線形代数とは行列の理論であり、中学で習った一次関数や連立方程式を体系化したものである。需要と供給や最適化問題といった経営学・経済学の基本的な問題を考える際に、線形代数は必要不可欠である。この講義では行列の基本変形を習得し、行列と連立方程式の関係を理解することを目指す。	
	経営数学基礎演習(線形代数B)	経営学上の問題を考える際、問題を数理モデル化し数学的に考えることがしばしばある。こういった手法を理解するために必要な数学を学ぶ。とくにこの科目では線形代数に関連する話題を扱う。まず行列式と逆行列を学び、それらがどのような役割を持つかを理解する。さらにこれらを使って経済波及効果を試算するのに使われる産業連関問題を学ぶ。次に行列がベクトルの変換であることを理解し、固有値・固有ベクトルの役割について学ぶ。その応用として行列の対角化および行列の冪の計算ができるようになることを目指す。	
	経営数学基礎演習(微分積分A)	今日、経営学や経済学などでは、最適な意思決定をするために数学モデルを構築し、その解を通して考えることが有用となる場面がしばしばあります。そのため、どのような業種においても基本的な数学の知識は必要不可欠です。この科目では、経営学や経済学で論じられる数学モデルと、その解法を理解するために必要となる基礎数学を学びます。 具体的には、特に予備知識は前提としないで、数列や微分などの問題を取り扱います。また、応用としてこれらの問題が経営や経済の場面でどのように用いられているかを紹介します。さらに演習問題を通して、現象を数学モデルで表わし、その解を経営の現場で役立てるための、「数学の問題を解く」技術を習得することを目標とします。	
	経営数学基礎演習(微分積分B)	今日、経営学や経済学などでは、最適な意思決定をするために数学モデルを構築し、その解を通して考えることが有用となる場面がしばしばあります。そのため、どのような業種においても基本的な数学の知識は必要不可欠です。この科目では、経営学や経済学で論じられる数学モデルと、その解法を理解するために必要となる基礎数学を学びます。 具体的には、積分や微分方程式に関する問題を取り扱います。また、応用としてこれらの問題が経営や経済の場面でどのように用いられているかを紹介します。さらに演習問題や数式処理ソフト(Mathematica)を用いた実習を通して、現象を数学モデルで表わし、その解を経営の現場で役立てるための、「数学の問題を解く」技術を習得することを目標とします。なお、経営数学基礎演習(微分積分A)の知識を前提とします。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	演 習 科 目	<p>ビジネスデザイン基礎演習A</p> <p>3年次や4年次において、自ら新たな価値を創造する実践に取り組む前に、企業組織が、製品やサービスの開発にどのように取り組んできたのか、また、新たな事業をどのように起こしてきたのか、あるいはまた、そのために必要な経営環境の変化をどのように認識してきたのか、事例から学び取ります。</p> <p>(調書番号10 奥村経世) 企業が製品やサービスを創造した事例を戦略経営の視点で解題する。取り上げる事例が、戦略上どのような意義をもっているのか、それを実現するために、どのような取り組みが必要とされているのか、理論的な視点を示しつつ、創造的に実践していく際にこれまで指摘されている課題を解説する。</p> <p>(調書番号3 金成洙) 企業が製品やサービスを創造した事例を消費者行動の視点で解題する。取り上げる事例が、消費者行動上どのような意義をもっているのか、企業側と消費者の両面から理論的な視点を示しつつ、創造的に実践していく際にこれまで指摘されている課題を解説する。</p> <p>(調書番号6 馬場杉夫) 企業が製品やサービスを創造した事例を経営管理の視点で解題する。取り上げる事例が、戦略上どのような意義をもっているのか、それを実現させていくために人的資源や組織に何が求められているのか理論的な視点を示しつつ、創造的に実践していく際にこれまで指摘されている課題を解説する。</p> <p>(調書番号4 潜道隆) 企業が製品やサービスを創造した事例をグローバルの視点で解題する。取り上げる事例が、グローバルとローカルの両面からどのような意義をもっているのか、理論的な視点を示しつつ、創造的に実践していく際にこれまで指摘されている課題を解説する。</p>	共同
		<p>ビジネスデザイン基礎演習B</p> <p>3年次や4年次において、自ら新たな価値を創造する実践に取り組む前に、企業組織が、製品やサービスの開発にどのように取り組んできたのか、また、新たな事業をどのように起こしてきたのか、あるいはまた、そのために必要な経営環境の変化をどのように認識してきたのか、事例を参考にしながら、実際に取り組み、その難しさや面白さを学び取ります。</p> <p>(調書番号1 石崎徹) 企業が製品やサービスの良さを消費者に伝えたり、消費者が企業に自身の要望を伝えていく方法について、事例を用いて解説しながら、最終的に学生がその方法を提案する。</p> <p>(調書番号5 橋田洋一郎) 企業が製品やサービスを創造する方法について、事例を用いて解説しながら、最終的に学生がその方法を提案する。</p> <p>(調書番号11 三宅秀道) 起業したり、中小企業が新規事業を創造する方法について、事例を用いて解説しながら、最終的に学生がその方法を提案する。</p> <p>(調書番号8 見山謙一郎) 企業が新規事業を創造する方法について、事例を用いて解説しながら、最終的に学生がその方法を提案する。</p>	共同
		<p>調査の基本</p> <p>調査の基本では、世の中には存在しないものの、組織の運営や創造にかかわる意思決定に欠かせない調査を実施するにあたって必要不可欠な知識やアンケートづくりについて学ぶ。具体的には、新製品に関する顧客のニーズや、従業員満足度に関するアンケート調査の設計とその実施等。</p>	
		<p>経営データ解析演習</p> <p>この科目では、実際にデータを解析しながら、より進んだ推測の方法について理解して、実践的なデータ解析の力を身に付けることを目標とする。 複数の母集団を比較する方法として平均の差の検定と分散分析、また複数の変数の関係を調べる方法として相関分析と回帰分析(単回帰、重回帰)を扱う。さらに、アンケート調査などで得られるカテゴリカルデータを分析する方法として、カイ2乗検定やダミー変数を含む回帰分析も取り上げる。 授業形態は演習であり、コンピュータソフトを利用して様々なデータを分析する。</p>	
		<p>インターンシップ基礎</p> <p>経営学部で受講する様々な講義科目では、ビジネスに関するさまざまな理論を学ぶことができます。しかし、それらの理論が、実践の場でそのまま当てはまるとは限りません。理論が企業でどのように役立つのか、現場の状況に応じて理論がどのように応用されるのかなどのことを、現場での体験を通じて知ることが、インターンシップの第1の目的です。また、企業での体験を手がかりにして、ビジネスに関する関心を高め、在学中に自分が集中的に学びたいと思えるビジネス・経営のテーマを見つけることが、第2の目的です。 当科目では、研修に先立ち、これまでに学んだ経営に関する諸理論から、自分が最も興味を持つテーマを明らかにして研修の目的意識を形成すること、そのテーマから研修したい業種や職種を明確にすることが、主な目的です。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	演 習 科 目	インターンシップ	<p>企業での研修を通じて、体験したことをそのまま鵜呑みにするのではなく、常に学びの目的を意識し、主体的に考える姿勢で臨み、ビジネス・パーソンは何を考へて働いているか、働きがいとは何か、経営者や管理者は何を意図して組織や部下をマネジメントしているか、企業の社会的な存在意義は何かなどの視点から、研修で遭遇した事象を解釈することが、経営諸理論のより深い理解につながる。</p> <p>研修終了後に、研修内容とそれによる学びの成果を報告書にまとめる。</p>	
		ビジネス研究A	<p>ビジネス研究Aは、テーマに関連の深い先端的なトピックについて、2名の教員が協力しながら、それぞれの専門分野の見地からの講義を行います。</p> <p>また、通常の講義形式による解説に加え、学生によるディスカッションやプレゼンテーションなどのグループワークを重視します。</p> <p>(ビジネス会計) 会計と経営に関連する3種類のテーマに取り組みます。1つのテーマは、4つの内容から構成されています。各テーマは、最初に理論について学びます。次に、学んだ理論について実践します。さらに、実践した内容をクラスのメンバーで共有(シェア)します。最後に、学んだ理論と実践から得られた結果が同じであったか、もし違つたとすればなぜ違つたのかを検証します。</p> <p>(調書番号23 岩田弘尚) (調書番号13 青木章通)</p>	共同
		ビジネス研究B	<p>ビジネス研究Bは、複数のテーマに関連の深い先端的なトピックについて、2名の教員が協力しながら、それぞれの専門分野の見地からの講義を行います。</p> <p>また、通常の講義形式による解説に加え、学生によるディスカッションやプレゼンテーションなどのグループワークを重視します。</p> <p>ビジネス研究B(ビジネスゲーム)では、履修者がいくつかのチームに分かれ擬似的な会社経営を行うことにより、大学で学ぶ様々な理論が実際の経営実践の場ではどのような意味を持っているかについて、内省することを目的としています。こうした擬似的な会社経営にあって、経営者や管理者としてとりわけ、情報を合理的に収集し処理するための意思決定プロセスや、チームをマネジメントするためのリーダーシップやモチベーションの重要性を感得してもらいます。</p> <p>(調書番号24 植竹朋文) 経営情報学の諸理論に基づき意思決定の方法論を担当</p> <p>(調書番号93 福原康司) 経営組織論の諸理論に基づきリーダーシップやモチベーションの方法論を担当</p>	共同
		ビジネス研究C	<p>ビジネス研究Cは、テーマに関連の深い先端的なトピックについて、専任教員と外部講師という2名の教員が協力しながら、それぞれの専門分野の見地からの講義を行います。</p> <p>また、通常の講義形式による解説に加え、学生によるディスカッションやプレゼンテーションなどのグループワークを重視します。</p> <p>ビジネス研究C(組織存続の考察)では、組織が存続していくためには、イノベーションの実現と、不正や違法行為が行われない健全な組織運営の両立を目指して、学生が解決策を提案します。前者は自由が求められ、後者は監視が必要です。この矛盾するような取り組みは、従業員の自律をキーワードに、融合可能です。</p> <p>(調書番号6 馬場杉夫) イノベーションの実現に向けた取り組みと経営学の理論上の枠組みを中心に担当</p> <p>(調書番号115 笹村正彦) 不正や違法行為が行われない健全な組織運営と不正防止の実践的視点を中心に担当</p>	共同
		ビジネス研究D	<p>ビジネス研究Dは、テーマに関連の深い先端的なトピックについて、教員が主としてケース教材を用いながら、専門分野の見地からの講義を行います。企業の具体的な事例を中心に、演習形式で授業が進められます。</p> <p>また、通常の講義形式による解説に加え、学生によるディスカッションやプレゼンテーションなどのグループワークを重視します。</p>	
		ビジネス研究BD	<p>ビジネス研究BDは、社会のニーズに応じて設定されたプロジェクトに沿って展開される、産官と連携した演習科目で、グループを構成し、協働しながらプロジェクトを進めて行く講義です。</p> <p>グループでの計画・立案・調査・学習・まとめ・発信といった活動を通じそのプロセスを会得するとともに、外部にその成果を示すことが本講義の目的です。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	社会課題発見・解決演習	本科目においては、履修をする前に社会の諸問題や課題を自ら見出し、実施計画を提出し、面接を受けてその計画が妥当と見なされた者のみが履修を認められます。年間計画を作成し、毎月の活動計画とその進捗状況を教員に報告し指導を受け、修正し、期末には計画の達成度を報告する「プレゼンテーション」が行われます。達成できれば、どこがポイントだったか、未達であれば、その理由を分析することになります。それにより、社会の諸問題を分析できる能力を養います。	
	商業簿記応用演習	本演習講義の目的は、日商簿記2級に合格する水準の商業簿記に関する知識を身につけることである。また、本講義の内容は会計入門で学んだ内容をさらに発展させて理解するものとなっている。会計入門AおよびBで勉強した会計は個人商店を前提としている。しかし、一般の企業を念頭に考えれば、この基礎は非常に重要であるものの、追加的な勉強が必須である。そこで本講義では問題演習を通じて、一般の事業会社の活動や仕組みなどの理解を深めることを目的とする。株式会社の仕組みや、連結決算の方法など、現代の大企業を理解するために必須の内容についても解説する。また、本講義は演習科目であるため、理論の解説も行うが、問題演習を通じて一般の事業会社の活動や仕組みなどの理解を深める方法をとることが特徴的である。	
	工業簿記応用演習	本演習講義の目的は、日商簿記2級に合格する水準の工業簿記に関する知識を身につけることである。また、本講義の内容は会計入門で学んだ内容をさらに発展させて理解するものとなっている。会計入門AおよびBで勉強した会計は個人商店を前提としている。しかし、一般の企業を念頭に考えれば、この基礎は非常に重要であるものの、追加的な勉強が必須である。そこで本講義では問題演習を通じて、工業簿記の主たる対象である製造業の工場における活動や仕組みなどの理解を深めることを目的とする。製品の製造工程の違い、製品の特徴の違いが会計情報にどのような違いをもたらすかについても解説する。また、本講義は演習科目であるため、理論の解説も行うが、問題演習を通じて一般の事業会社の活動や仕組みなどの理解を深める方法をとることが特徴的である。	
	グローバルリテラシ演習	グローバルリテラシ演習は、英語をはじめとする第2言語で書かれた書籍を直接原文で読む作業を通して専門知識の深化をはかることを目標としています。教材として選定される外国書は担当者の専門分野により、経営学・会計学・経済学・マーケティング・経営科学と多岐にわたるが、いずれも1・2年次に習得した各分野の基礎となる概念や知見の理解をもとに、当該言語での論旨展開の方法に習熟するトレーニングを中心におこないます。また同時に、各自が自分の専門分野や関心領域と関連のある授業を選択することによって、日本語のみならず当該言語によるアウトプット(プレゼンテーションなど)ができるようになるための基礎的な訓練もあわせて実施していく予定です。	
	ゼミナールA	ゼミナールAは、2年間にわたって行われるゼミナールの1年目に履修する演習科目です。教員は学生の調査、研究や討議が適切に行われるように助言することはありますが、基本的にゼミナールの進行は学生の自主性に委ねられています。	
	ゼミナールB	ゼミナールBは、ゼミナールAを履修した学生が2年目に履修する演習科目です。2年目のゼミナールでは、指導教員のもとで専門的研究テーマをさらに深く学ぶと同時に、卒業論文の執筆を目指します。	
	卒業論文	卒業論文は2年間のゼミナールの学習成果の集大成として、ゼミナールで学んだ内容を研究し、論文としてまとめます。	
基幹科目	マクロ経済学	この科目の主眼は、経済入門で学ぶ近代経済学の分析手法の一つであるマクロ経済学に関する理解をさらに深めるため、入門的かつ基本的な経済理論を体系的に説明することです。 マクロ経済学の分析対象は、家計、企業、政府そして海外部門から構成される一国全体の経済活動です。マクロ経済学で学ぶ主なテーマは、経済成長や景気の変動、雇用と失業、そしてインフレーションまたはデフレーションの問題などです。さらには、円高・円安といった為替レートの問題や、国際収支の問題など、自国と外国との経済関係をめぐるテーマも含まれます。 これらの経済問題を身近な問題として認識し、考えるために、本科目ではまず国内総生産、消費支出、企業の設備投資、マネーサプライ、利率などの重要な概念を学びます。そして、これら諸指標の決定メカニズムを説明する基礎的な経済理論を習得することをめざします。	
	ミクロ経済学	この講義においては、まず、消費者行動および企業行動の基本原則を教える。次に、市場調整と市場均衡、市場競争と経済厚生などについて説明する。講義では数学的説明は簡単なものとし、言葉や図を用いた説明を多くする。	
	民法A	民法は大別して総則、物権法、債権法、家族法に分かれています。この授業では主として総則にかかわる部分を講義します。 到達目標は「契約の概念を知ること」。扱う事項は法学の基礎知識、民法の体系、権利とは何か、権利の主体、法律行為。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 基 幹 科 目	ベンチャー・ビジネス論	この授業では、特にベンチャービジネスの事業の新規性を担う、商品の新規性、創造される市場の革新性に焦点を当て、ベンチャービジネスについての理解を深めていきます。この授業は、将来的に起業を志す受講者にとっては、むしろその行為の難しさを改めて実感させるものになることが考えられますが、それだからこそ、その社会的意義にも考えが及ぶように設計されています。 具体的には、特に日用消費財の非技術依存型、文化開発的商品開発のプロセスを通してみられるベンチャービジネスならではの創造性について、具体的な企業の商品開発の事例を通して、ディスカッションを多く交えたケーススタディを行います。この場合、既存の技術資源の応用用途開発の可能性について掘り下げながらベンチャー企業家の意思決定にも考察を及ぼすことになります。	
	日本経営史A	経営史という学問には2つの流れがあります。1つは企業者論、もう1つは経営の歴史です。日本経営史Aでは企業者論を学びます。これに大きな影響を与えたのはシュンペーターで、彼によれば経済を発展させられるのは経営者の力しかなく、新製品や新技術、新生産方法の開発、新市場の開拓、新組織の生成といった創造的な経営者の革新活動だけです。そこで日本経営史Aでは、日本を代表する経営者を選び、彼らの経営活動の中に創造的な革新性を探っていきます。	
	企業家論	この講義では、経済学の観点から、企業家の役割について学びます。講義の前半では、マーシャル、シュンペーター、カーズナー、ナイト、ペンローズといった経済学における代表的な研究者らによる企業家論について学び、企業家が市場均衡の実現やその破壊などといったかたちで市場を動かしていく役割を持っていることを学びます。講義の後半では、参入・退出やイノベーションといった実際に市場を動かす企業の競争戦略について、経済理論やケーススタディを用いながら学びます。	
	流通論A	流通とは、商品やサービスを生産から消費に移転させることで、われわれに便利で豊かな消費生活を創造しています。この授業では主に講義形式で流通の基礎的な知識を学習します。 目標としては、流通ビジネスに不可欠な活動である商流、物流、情報流通の特徴や内容を理解し、そうした活動を誰がどのような仕組みのもとで担当するのかの流通の全体像について把握できるようにすることです。 授業計画としては、まず流通とは何を意味するのか、流通の基礎的な内容の理解のために身近な商品を通して流通の必要となる根拠や理由を検討する。そのうえで、流通活動のタイプや評価基準を明らかにし、顧客価値を提供する仕組みと流通イノベーションの出現過程を検討する。さらにそれぞれの流通活動について詳しく講義することで、顧客のニーズや時代の条件を反映した流通のしくみがビジネスの側からどのように実現されてきたかを考察します。あわせて政府の流通行政や法律についても検討します。	
	マーケティング・マネジメント	マーケティング・マネジメントとは、マーケティングに関する情報の収集・分析から計画策定、実行、統制のプロセスであり、企業のマーケティング理念をベースに顧客満足の創造やブランド価値の構築を実現するための重要な役割を担っている。 講義では、マーケティング・マネジメントの役割とその担当者であるマーケティング・マネジャーによって遂行される必要なプロセスを理解できることをねらいとしている。授業内容としては、マーケティング目標の設定、マーケティング予算策定、標的市場の選択、マーケティング・ミックス(製品対応、価格対応、流通対応、コミュニケーション対応)の構築と運用のためのマーケティング計画の策定プロセスを検討する。マーケティング計画に沿って実際のマーケティング活動が実施されるが、計画と実施の間にはズレが生じることがある。このズレを監視し、統制し、さらには当該マーケティング活動を評価し、次のマーケティング計画策定にフィードバックし、顧客満足に結び付けるための一連の活動について、順次学習する。	
	マーケティング・リサーチ	変化する顧客のニーズと熾烈化する競争環境において、顧客の立場に立ち、ニーズに応える活動が実行されてはじめて顧客に選ばれ、顧客満足が実現される。顧客のニーズを的確に把握するためのマーケティング・リサーチが不可欠となっている。 この講義では、マーケティング・リサーチを実施する上で必要となる基本的な知識とリサーチ・プロセスを理解できることをねらいとしている。授業内容としては、リサーチ課題の明確化やリサーチの種類(定量調査・定性調査)の検討、市場に関する1次データの収集方法、分析の仕方、分析結果の判断などを扱う。これらを多角的に学習することによって、現代におけるマーケティングの実証的研究の基礎をマスターすることが期待できる。	
	経営倫理	本講義では、企業においていかにしたら倫理的な実践が可能かを考えます。 1. 企業にとっての倫理とは何かを倫理学に立ち返りながら検討し、さらに2. 企業にまつわる倫理的課題への理解を促すとともに、3. 課題の解決に向けた方策(制度設計など)を例示し、演習に結びつけていきます。	
	コーポレート・ガバナンス	この講義では、まず、株式会社の基本構造・コーポレート・ガバナンスの仕組みと内部のそれぞれのガバナンス機関の機能を概観する。次に、日米のコーポレート・ガバナンスの違いを紹介する。最後に、日米のコーポレート・ガバナンスの変革を考察した上で、今後の日本のコーポレート・ガバナンスの変革の方向を議論する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	基 幹 科 目	景気と政策	この科目では、マクロ経済学で学ぶ国内総生産、消費支出、企業の設備投資、マネーサプライ、利率率など、景気にかかわる基本概念と、それらの決定メカニズムを説明する経済理論をふまえ、現実の経済政策への理解を深めることを目指します。講義では、景気が良くなるとはどういうことか、財政政策と金融政策にはそれぞれのどのような政策手段があり、いかなる効果が期待されるのか、そして両者をいかに組み合わせる目標達成をめざすのか、といった問題を考えていきます。
		民法B	民法は大別して総則、物権法、債権法、家族法に分かれています。この授業では主として物権法と債権法、いわゆる財産法にかかわる部分を講義します。具体的には民法A(総則)で勉強したことを基礎として、物権と債権を少し詳しく検討していきます。 到達目標は「物権・債権の概念を知ること」。扱う事項は物権の概念、物権の変動、担保物権、債権総論、債権各論、事務管理・不当利得・不法行為(これらを準契約といえます)。
		グローバルイノベーション	昨今、グローバル企業がローカルな市場でイノベーション活動に取り組んでいる一方、ローカルな企業であってもグローバル市場に目を向けたイノベーションを余儀なくされています。また、私的利益を目的とした企業活動だけでなく、公的な利益を目的とした地域や社会のイノベーションも希求されています。こうした様々なイノベーションのニーズを捉え、それを実現させていくために、組織内外のどのような経営資源を活用し、マネジメントしていくかが極めて重要になってきます。 こうした種々のソーシャル・イシューを解決し、グローバルにもローカルにもイノベーションを起こしていけるような知識や能力について学習することが、本講義の目的となります。
		日本経営史B	日本経営史Bでは経営の歴史を学びます。経営の歴史といっても多様な歴史が存在します。江戸時代や昭和の経営史といったものもあれば、機械工業やIT産業といった産業史に近い経営史、品質管理やマスプロダクションといった製造法の発達史、等々あります。ここでは「日本的経営」といわれるものの歴史的な動向を検討します。「日本的経営」の開始を江戸時代や明治時代にとる見解もありますが、ここでは1930年代以降にとる立場を基準に、現在に至る流れを追求します。
		事業継承論	この科目は自分の将来ヴィジョンとして、家業の継承を考えている受講者や起業を志す受講者にとって、助けになる授業となるようにデザインされています。 所有と経営が分離していない、いわゆる「オーナー経営」「家族経営」の企業の活動は、日本の産業経済にとって非常に重要なものです。しかし近代経営学が、量産工業の発達とともに登場した大企業の調査研究から始まったために、経営学の下請けのような固定的なイメージで語られることの多い中小企業を、独立自尊の姿勢で事業を展開する主体としてとらえ、その事業展開について理解を深めていきます。具体的には、地域社会との関わりの中で独自の事業展開を行っている中小企業の事例を取り上げ、ディスカッションを多く交えたケーススタディを行います。
		ベンチャー企業経営論	企業活動(企業者精神)が活発であるか否かが、一国の国際競争力に大きな影響を与えているとの認識の深まりの中、ベンチャー企業の創出がますます重要になっていきます。 ベンチャー企業を取り巻く環境の分析として、日本における1)新規開業起業の実態——①企業家像(開業時の年齢、性別、最終学歴、開業の契機、開業動機)、②事業の選択、③資金の調達、④開業後の経営状態、など——の分析、2)ベンチャー企業の創始、維持・発展の各段階で必要不可欠な経営資源、とそれら資源の調達に関わる公的な支援策など——①ビジネス・シーズ / ビジネス・モデル、②ビジネス・パートナー、③技術開発(R&D)、④ベンチャー・キャピタル、などを概観し、最終的には学習者の企業者精神の涵養を目指します。
		流通論B	流通とは、商品やサービスを生産から消費に移転させることで、われわれに便利で豊かな消費生活を創造しています。この授業では主に講義形式で流通ビジネスの解明と戦略的な展開について学習します。 目標としては、流通ビジネスの主な担い手である小売業者、卸売業者、メーカー(生産者)の役割とマーケティング戦略の展開について複数の事例を用いて、そこでの流通問題の発見とそれに対する解決方法のデザインを提案できるようにする。 授業計画としては、まず流通ビジネスの担い手を流通段階別に把握できるように、全体の流通の構図を明らかにする。そのうえで、最終消費者を対象に顧客価値提供を果たす小売業者、中間流通を実現する卸売業者、さらに商品生産を果たすメーカー(生産者)におけるマーケティング戦略を事例をベースに把握する。流通ビジネスが、業種から業態へ、モノからサービスへ、アナログからデジタルへ、さらに有店舗から無店舗へと新たな兆候が生み出されていく過程を明らかにしながら、顧客価値を提供する仕組みとして新たな流通ビジネスのデザインを検討していく。

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基 幹 科 目	製品開発論	<p>新製品は成長する企業の血液であると言われています。私たちのニーズやウォンツの変化、競争の激化、技術の進歩、社会の変化などに対応しながら企業が成長していくためには、いま供給している製品を絶えず吟味し、時には新製品を導入していく必要があります。マーケティング活動にはさまざまな課題がありますが製品を中心に議論されることが多いため、製品はマーケティング活動の中核であると言えるでしょう。このように新製品開発は企業にとって重要であるにもかかわらず、新製品の成功率は決して高くありません。ある研究によれば消費財における新製品の成功率は58%程度、別の研究では8割以上が失敗していると報告しているものもあります。本講義では製品開発にまつわる用語や考え方について、身近な事例をもとに説明を進めていきます。そして、新製品開発の失敗リスクを少しでも低くし、魅力ある製品をいかに開発していくかを検討します。</p>	
		環境経営論	<p>本講義はまず、地球環境の現状認識からはじめます。そしてそれら多くの問題は人類の行動が引き起こしたこと、この地球環境問題の改善無くしては人類自身の将来も危ういこと、しかしそれを知りながら解決できない理由を考察します。そして、国というボーダーを越えて非常に大きな影響力を持つに至った企業の経営者・関係者が、この地球環境問題に対する考察力と実行力を持つことが必須であることを再確認します。その後、各回に教員が解説をしつつ、アクティブラーニング形式も取り入れてチーム分けし、夫々2つのテーマを議論しプレゼンしてもらいます。(1)各チームは独自に同一業界の3社を選定し、各社の環境経営のケース・スタディをおこないます。これは各社の企業活動全体を俯瞰し比較する力を養う目的です。(2)各チームは「エコプロダクツ&エコサービス」について、各年度における受賞製品&サービスを分析します。これは具体的な商品・サービスにどのような環境配慮がなされているかを分析する力を養う目的です。</p>	
		経営学史	<p>本講義では、経営学の史的展開を顧みながら、いかにしたら経営学が組織の経営実践やビジネスのデザインに活用可能かを考えます。</p> <p>経営学には、以下の2つの側面と活用のあり方があります。1つめは、道具的側面です。経営学は、組織の内外環境を分析し、新規事業を生み出したり、組織を活性化させたりする具体的な導きの糸となります。組織の目線からその有効性を促進する視点と言い換えることも出来ます。2つめは、思想的側面です。経営学は、資本主義社会や経営実践に潜む問題を明らかにし、より良い社会を熟考するメガネとなります。社会の目線から組織や社会のあり方を反省する視点と言い換えられます。また、道具的側面では、各研究をその登場背景から引き剥がし現状(組織の有効性)への活用を図りますが、思想的側面では、各研究と登場背景との関係性を理解することで現状(社会の反省)への活用を図ります。企業経営には、両方の視点が不可欠であり、その両方を学ぶのが学史的研究の意義と言えます。</p> <p>本講義では、4つの時代(1900's～管理論、1930's～組織論、1960's～戦略論、1990's～批判論)の研究展開を追い、2つの視点の活用例を示すことで演習に繋げていきます。</p>	
		会社法A	<p>今日の経済社会において会社が果たしている役割は極めて大きく、それだけに会社をめぐる株主、会社債権者等の利害は非常に複雑に絡み合っている。会社法は、そのような複雑な利害の調整を目的とし、会社の設立、組織、運営および管理について定めている。この授業においては、会社法に関する総論、会社の設立、株式、新株予約権、会社の機関等について判例等の具体的な事例を用いて講義する。上記の点に関する基本的な事柄を理解してその重要問題について論述することができることを到達目標とする。</p>	
		会社法B	<p>今日の経済社会において会社が果たしている役割は極めて大きく、それだけに会社をめぐる株主、会社債権者等の利害は非常に複雑に絡み合っている。会社法は、そのような複雑な利害の調整を目的とし、会社の設立、組織、運営および管理について定めている。この授業においては、会社の機関、会社の計算、事業譲渡、社債、会社の合併等について判例等の具体的な事例を用いて講義する。上記の点に関する基本的な事柄を理解してその重要問題について論述することができることを到達目標とする。</p>	
		経済法A	<p>この講義では、独占禁止法について解説する。独占禁止法により禁止される行為のうち不当な取引制限と事業者団体による違反行為を中心に解説する。また、公正取引委員会の事件処理手続(違反行為の調査手続、意見聴取手続、排除措置命令など)や排除措置命令の取り消しを求める訴訟についても解説する。違反行為の抑止等を目的とした課徴金制度についても解説し、合わせて独占禁止法に規定されている刑事罰の規定についても解説する。さらに、独占禁止法に関連の深い官製談合防止法にも触れる。</p>	
		経済法B	<p>本講義では、独占禁止法について解説する。独占禁止法により禁止される行為のうち私的独占と不正な取引方法について解説するとともに、企業結合規制についても解説する。企業結合規制については、市場集中の規制を中心に解説をするが、一般集中の規制にも触れる。不正な取引方法については、多様な違反行為類型のうち、再販売価格維持、不当販売など主要なものについて解説する。また、独占禁止法に関連の深い下請法にも触れる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基 幹 科 目	事業創造	「事業創造」は企業組織や個人が新たな事業を創造する現象についての講義です。経済環境などの変動に対応して、社会には新たな価値提供へのニーズや、それを実現する機会が発生します。しかしそれを持続可能な営為として打ち立て、新たな社会を創造するような力を持った事業として実現するには、様々な経営資源を適切に組みあわせ、その目的に適した新たなビジネスモデルをデザインし、それを遂行できる組織を構築しなければなりません。これらの行為は企業家と組織としての実務能力および創造性の発揮を要求される、困難なプロセスです。「事業創造」はそれについて企業家の役割、組織の意思決定、社会的事業機会の探索、商品価値の構想などの視点から総合的に扱います。	
		消費者行動論A	消費者行動研究は、マーケティングの一分野として考えられます。具体的には、モノを買うときに、どのようなことを考え、どのような情報を必要としていくのか、といったことを解き明かしながら、マーケティングの戦略に役立てようとするものです。 消費者行動論Aの講義では、まず、消費や消費者、消費者行動の概念をはじめ、消費者行動へのアプローチ方法(経済的要因、社会的要因、心理的要因、マーケティング要因)について学び、消費者行動研究がなぜ必要なのかを考えていきます。私たちの行動には実にさまざまな要因が複雑に影響を及ぼしあっています。それは、個人的なことから文化社会的なこと、そしてその状況特有のことといった次元も異なる影響要因です。それらの要因がどのようなものなのか、それを消費者はどう処理しているのかを中心に学んでいきます。	
		消費者行動論B	私たちは全員、消費者です。毎日のように買い物をする。そのときにどのお店で買うのか、どの商品を買うのか、は何も考えずに行っていることもあるし、とても考えたり、雑誌やインターネットや他の人からの情報をたよりに決めたりすることもあります。また、「流行」だからついハマってしまうのは、なぜでしょうか?このように日ごろ、何気なく行っている「買い物」「ショッピング」という行動は実はいろいろな情報の影響を受けたり、いろいろと考えたりしながら行っているものです。 消費者行動論Bの講義では、消費者行動とサービスや消費者の類型化分析などを解説し、また消費者の購買に影響を与える要因のなかで、特に文化を検討したうえ、消費者情報処理理論に焦点を当て、情報としてのブランドと強いブランドの構築について学んでいきます。それらを主に事例を通してながら、理論的に理解して、積極的に考えていけることを目指します。	
		ブランド論	ブランドは「ある売り手の製品を他の売り手の製品と識別するための名称、デザイン、シンボル、およびそれらの組み合わせ」であると定義されています。マーケティング活動においてブランドが重要になるのは、特定の製品(サービス)がブランド化されることにより、それが私たちにとって価値あるものになるためです。消費者は知らないよりは知っているもの、そして強く、好ましく、ユニークな連想をもたらすものに対して価値を見出します。一方で、企業が強いブランドを有することは企業に競争優位性をもたらします。強いブランドを構築するためには長い期間と多大な投資が必要ですが、そのぶん強いブランドは企業にとって利潤を生み出す無形資産となります。このように、私たちにとって価値があり企業にとっても競争優位の源泉となり得るブランドを構築しマネジメントする方法について、身近な事例にもとづきながら本講義では学んでいきます。	
		広告論	マーケティング活動における広告活動は、マーケティング・ミックス要素のマーケティング・コミュニケーション領域の中の重要な要素です。広告は、主に顧客に対する情報提供、説得、購買の刺激づけといった役割を有しています。広告戦略では、広告表現戦略と広告媒体戦略が2つの柱になります。広告表現の方法としては、製品情報をストレートに訴求するものや情緒的に訴求するものなどさまざまな訴求形態があります。一方、広告媒体としてはテレビ、新聞、雑誌、ラジオといったマスコミ媒体をはじめ、交通媒体、屋外媒体、POP、インターネットなど数限りない媒体が使用されています。また現在では、消費者があるブランドとどこでどのように接触しているかという観点から、ブランドと消費者との接点管理という見方でコミュニケーション媒体を中立的にとらえていくメディア・ニュートラルという立場が主流になりつつあります。このように広告論ではわれわれの生活に比較的密接な関係を持つ「広告」をさまざまな角度からとらえていきます。 この講義では、広告/マーケティング・コミュニケーションを理論的、実践的に研究したいと考える受講者に、その基礎理論を提供することを目的とします。受講者は、広告・マーケティング・コミュニケーションの基礎理論を理解し、広告主、メディア、広告会社、および一般社会の立場から広告/マーケティング・コミュニケーションの諸問題に対処する能力を身に付けることができます。	
		マーケティングコミュニケーション	マーケティング・コミュニケーションは、マーケティング活動をコミュニケーションの側から支援する活動と機能の総称です。その内容は広告やセールス・プロモーションなどの明示的な活動から、ブランド、価格、店頭が消費者の心理変容に及ぼす暗示的なものまで大変幅広く広がっています。この講義は「広告論」と密接な関連を持ちつつ、マーケティング関連の様々な科目群と有機的に連携しながら進められていきます。主な学習内容は、広告を除くマーケティングにおけるコミュニケーション活動のすべてです。この授業を受講することで、マーケティングにおけるコミュニケーションの明示的かつ暗示的な活動やその成果についての基礎知識を有することができます。さらにマーケティングの一般的な基礎知識に加えて、マーケティング活動をコミュニケーションの側から評価する能力を身に付けることができるようになります。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基 幹 科 目	ビジネス・マーケティング	<p>企業の取引相手は、最終消費者だけではなく、企業や行政あるいは非営利組織などの場合があり、そこでの活動の重要性が注目されている。この企業間で取引される対象は、消費財に対して、ビジネス財(生産財あるいは業務用財とも呼ばれる)として主要な産業を構成する。そのため科目の名称もビジネス・マーケティングとして展開され、この領域の内容について理解を深め、加えてより発展的な学習が求められる。</p> <p>講義では、企業間取引の目的や方法、組織を相手とするマーケティングの特性、ビジネス・マーケティングのマーケティング・ミックス(製品、価格、流通、コミュニケーション)の特徴を理解できることをねらいにしている。それらを最終消費者へのマーケティングと比較して説明できるようになることが求められる。</p> <p>授業内容としては、ビジネス財のマーケティングと消費財のマーケティングの違いを比較しながら、ビジネス・マーケティングの特性を理解することからスタートする。次にビジネス市場における組織的な購買行動の特性や意思決定プロセスの把握、そしてビジネス・マーケティングにおけるマーケティング・ミックスの理解と複数の事例を踏まえた学習を進める。</p>	
	サービス・マーケティング	<p>われわれの消費生活やビジネスにおいて、サービスに依存する割合が年々高まっている。日本はもちろん経済発展が進む国々においてGDP(国内総生産)に占めるサービス産業のウエイトの拡大、企業におけるサービスの役割の増加、それに家計消費支出に占めるサービス消費支出のウエイトの増大など、サービス需要が拡大している。モノの充足がコトへの関心を高めていることも背景にある。そのため近年では、製品と対比してサービスの中心性やサービス・ドミナント・ロジックを強調する考え方や活動も提案されている。</p> <p>この講義では、主にサービスの商品特性を踏まえたサービス・マーケティングの体系的かつ実践的な学習を行う。そのねらいは、モノを対象とするマーケティングとの違いを明確にし、サービスをどのようにして顧客に提供し、満足してもらうか、それを実現するためにいかなる仕組みが必要となるのかを理解することにある。授業内容としては、サービスの商品特性を考慮した独自のサービスのマーケティング・ミックス(4P+3P=7P)、サービス品質の評価、従業員満足と顧客満足の関係、さらにはサービス・プロフィット・チェーンの検討を行う。</p>	
	ビジネスデザイン特講	<p>専門入門・導入科目を基礎としながら、ビジネスデザイン学科における基幹・基礎科目で学んだ内容をふまえ、経営に関わる様々な領域の最新のトピックや研究動向を教授する講義です。経営学は誕生してからまだ日が浅く、現在でも研究領域が拡張するとともに、研究者が模索しながら深化してきています。まだ十分に議論が尽くされていない領域であっても、時代の変化を念頭におけば、今、伝える意義が高いと判断した内容について、担当者が提供する講義です。</p>	
専 門 科 目	研究開発とイノベーションA	<p>現代の社会や企業経営において、「技術」は非常に身近であり不可欠な存在であると言って良いでしょう。どのような業種においても、また、一企業内のどのような職能部門においても、技術を活用することは有用であると考えられます。経営の視点から技術を積極的に活用していけるような基礎を築くことが本講義の目的です。</p>	
	応用経済学	<p>社会・経済現象の背後では、人々・企業・政府等の多様な意思決定主体が複雑に絡み合っています。社会・経済現象の仕組みや本質を理解するためには、その背後にいる意思決定主体の行動について理解を深める必要があります。</p> <p>この講義では、ゲーム理論を用いた社会・経済現象の分析方法について学びます。ゲーム理論では意思決定者をプレイヤーと呼び、プレイヤーがお互いに行動を予想しながら自らの行動を選択する状況を、数理的な枠組みを用いて分析します。プレイヤー同士の相互作用の分析をとおして、複雑な社会・経済現象の背景にある仕組みや問題の本質にアプローチしていくことができます。講義では、基礎となるゲーム理論の知識や分析モデルについて解説した後に、それを用いて説明される諸現象や企業行動などを順番に取り上げていきます。</p>	
	マーケティング戦略論A	<p>マーケティング戦略は、企業・組織の長期的な設計図である経営戦略に基づき「マーケティング」を用いて戦略策定及び評価などを行ない、経営目標を達成するための活動です。</p> <p>マーケティング戦略論Aでは、初めに企業・組織の内部と外部の環境の正しい理解、企業・組織の外部での競争について構造分析について学びます。次いで市場の選択、市場の分析、市場への対応について検討します。これらを調査し、理解したのちに事業の方向性を定める達成目標を設定し、最も適したマーケティング・ミックス(製品対応、価格対応、流通チャネル対応、コミュニケーション対応)を策定します。</p> <p>マーケティング・リサーチや製品対応、流通チャネル対応、コミュニケーション対応などはそれぞれ個別の科目で深く学ぶことができます。マーケティング戦略論Aではそれらの基本とマーケティング戦略全体から見たそれぞれの要素の組み合わせを学びます。</p>	
発 展 科 目	研究開発とイノベーションA	<p>現代の社会や企業経営において、「技術」は非常に身近であり不可欠な存在であると言って良いでしょう。どのような業種においても、また、一企業内のどのような職能部門においても、技術を活用することは有用であると考えられます。経営の視点から技術を積極的に活用していけるような基礎を築くことが本講義の目的です。</p>	
	応用経済学	<p>社会・経済現象の背後では、人々・企業・政府等の多様な意思決定主体が複雑に絡み合っています。社会・経済現象の仕組みや本質を理解するためには、その背後にいる意思決定主体の行動について理解を深める必要があります。</p> <p>この講義では、ゲーム理論を用いた社会・経済現象の分析方法について学びます。ゲーム理論では意思決定者をプレイヤーと呼び、プレイヤーがお互いに行動を予想しながら自らの行動を選択する状況を、数理的な枠組みを用いて分析します。プレイヤー同士の相互作用の分析をとおして、複雑な社会・経済現象の背景にある仕組みや問題の本質にアプローチしていくことができます。講義では、基礎となるゲーム理論の知識や分析モデルについて解説した後に、それを用いて説明される諸現象や企業行動などを順番に取り上げていきます。</p>	
	マーケティング戦略論A	<p>マーケティング戦略は、企業・組織の長期的な設計図である経営戦略に基づき「マーケティング」を用いて戦略策定及び評価などを行ない、経営目標を達成するための活動です。</p> <p>マーケティング戦略論Aでは、初めに企業・組織の内部と外部の環境の正しい理解、企業・組織の外部での競争について構造分析について学びます。次いで市場の選択、市場の分析、市場への対応について検討します。これらを調査し、理解したのちに事業の方向性を定める達成目標を設定し、最も適したマーケティング・ミックス(製品対応、価格対応、流通チャネル対応、コミュニケーション対応)を策定します。</p> <p>マーケティング・リサーチや製品対応、流通チャネル対応、コミュニケーション対応などはそれぞれ個別の科目で深く学ぶことができます。マーケティング戦略論Aではそれらの基本とマーケティング戦略全体から見たそれぞれの要素の組み合わせを学びます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	発 展 科 目	国際ビジネス概論	本講義はグローバル・マネジメントの基礎科目であり、初学者を対象としています。履修者が「世界に目を向け、社会の動きに興味を持ち、国際ビジネスの面白さを知ること」ができるよう、さまざまなツールを用いた多面的なアプローチを採ります。国境を越えて事業展開することは今や巨大多国籍企業に限ったことではなく、中堅企業や中小企業にまで広がっています。好むと好まざるとにかかわらず、多くの企業人が海外事業に従事する可能性が高まっています。そのようなグローバル社会とは何かについて、国際貿易と直接投資の現状を紹介しながら、理解を深めてもらいます。企業が国境を越えて事業展開することの意味やそうした意思決定のプロセスについても考えます。マーケティング、生産、研究・開発、人的資源管理など、企業の多国籍化に伴って企業の内部でどのようなことが起きるのかを紹介し、異なる文化を背景とする多様な人々が一つの組織のなかで、協業するためには多様な文化をどのようにマネジメントすべきかについても自ら検討してもらいます。	
		日本経済論A	「今日の日本経済が直面する諸問題を理解することは、我が国企業が直面する経営環境を把握する上で欠かすことが出来ません。この講義では、(1)マクロ経済学(基礎知識、分析枠組み)を習得し、(2)今日の日本経済の時事問題に応用します。日本経済論Aでは、一国全体の財市場・資産市場と国民所得との関係を説明するIS-LM曲線モデルを習得し、(1)企業・家計の行動と国民所得の水準との関係、(2)財政政策・金融政策の効果、(3)マクロ経済学における論争等について事例を解説します。	
		地域研究	学生は、この授業を履修したことにより、中国の地理・政治と経済のシステム、中国の経済改革過程などの概要、中国の経済改革過程において光のみならず、影の部分もあることを理解し、また、中国においての民営企業への政策、外資企業への政策、外資企業とりわけ日本企業が中国進出に注意すべきポイントを知り、将来の仕事に役立つと思われる。 まず、中国の地理・行政区画・政治と経済のシステムなどの概要およびいままでの中国統治体制の変遷を紹介する。次に、改革開放以前の中国の経済システム(1949～77年)を概観した上で、1978年から現在までの中国の経済改革を三つの段階に分けて説明する。また、改革開放以後に発生する腐敗問題の原因や政府の対策にも触れる。最後に、中国の外資導入の現状と政府の政策を述べた上で、日本企業の中国進出の成功と失敗の事例と中国進出の注意点を分析する。	
		中期留学プログラムA	中期留学プログラムとは、国際交流協定校・研修校に4～5か月間留学し、外国人留学生を対象に開講されている集中語学コースに参加するプログラムです。英語コースのみならず、中国語、コリア語・ドイツ語・フランス語・スペイン語の外国語コースもあります。また、社会知性開発コースでは、集中語学研修の後に約1か月のインターンシップを実施しています。 事前・事後研修を受講し、現地において所定のコースを修了することが必要です。留学の事前と事後の語学能力試験をもとに、語学能力が大きく向上したと判断された場合には、単位が認定されます。	
		中期留学プログラムB	中期留学プログラムとは、国際交流協定校・研修校に4～5か月間留学し、外国人留学生を対象に開講されている集中語学コースに参加するプログラムです。英語コースのみならず、中国語、コリア語・ドイツ語・フランス語・スペイン語の外国語コースもあります。また、社会知性開発コースでは、集中語学研修の後に約1か月のインターンシップを実施しています。 参加者は、留学先国の言語による実践的なコミュニケーション能力の習得に加え、プレゼンテーションやライティング等のアカデミック・スキルや異文化理解について学ぶことができます。 事前・事後研修を受講し、現地において所定のコースを修了し、帰国後に異文化理解に関するレポートを提出することで、単位が認定されます。	
		ファイナンスの基礎	この科目ではファイナンスの基礎を学びます。学期の前半には現金と預金、預金の決済システム、信用創造、コール市場、短期金利、金融調節について学びます。学期の後半には会社設立のしかた、株主の権利、株式、社債、証券の決済システムについて学びます。 マネーと企業金融の基礎を学ぶことを通して、日本銀行、銀行、信託銀行、短資会社、証券会社、全国銀行資金決済ネットワーク、金融商品取引所、日本証券クリアリング機構、証券保管振替機構の仕事について学ぶ。	
		経営分析	企業の経営活動に対しては、さまざまな人たちが利害と関心を持っています。これらの利害関係者は、当該企業に対してなんらかの経済的行為を行います。たとえば投資家は株式や社債の売買を行い、銀行はお金を貸すことなどをします。このような経済的行為を行うか否かの意思決定を行うときには、利害関係者はそれぞれの立場からその企業を評価することとなります。この評価するときには用いられる手法が経営分析です。 本講義では、貸借対照表、損益計算書およびキャッシュフロー計算書などの財務諸表を中心とした会計データを利用するだけでなく、経営方針や企業理念なども考慮して、企業の状況を把握する手法の習得を目的とします。経営分析では財務諸表分析に比べて、もう少し広い範囲を取り扱います。たとえば企業が行っている戦略は適切であるのか、企業が社会的責任を十分果たしているのかなどが経営分析の対象となります。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 発 展 科 目	金融論A	この講義では、今日の金融システムの概要を金融機関の活動を中心に解説するとともに、金融に関わる問題を考える際に金融の理論がいかに役立つかを解説します。また、金融機関の経営に関する課題を理解し、金融機関のケース・スタディを行う際の基本的考え方や基礎知識を提供することも目標の1つです。 金融論Aでは、(1)金融取引の基本的な仕組みを学んだ後、(2)家計の貯蓄決定、企業の投資決定を説明し、両者の間の資金過不足の調整手段としての金融取引の役割と利率の決定メカニズムについて学びます。続いて、(3)我が国の金融システムについて、各種の金融機関(銀行、協同組織金融機関、保険、証券等)の業務内容や経済的機能、関連法制等を中心に解説します。その際、各業界の発展の経緯や直近の課題、一般事業会社と比べた場合の相違点等についても解説します。	
	商業簿記論A	企業は資本主義経済を構成している構成体として、製品の製造・販売やサービスの提供などの役割を果たすとともに、その成果として利益をあげ、その利益を株主や従業員などに分配しています。このような企業の経済活動は資本主義経済には欠くことのできないものであり、その中心となる仕組みが株式会社です。商業簿記論Aでは、多くの株式会社で行われている取引およびその会計処理を習得することを目的とします。具体的には、株式発行、銀行取引、有価証券、固定資産などに関連する取引を学習します。 当然、会計を学習していくうえで、複式簿記という計算機構を理解することが不可欠となります。基本的な部分については、会計入門において取り上げていますが、商業簿記論Aでは、会計入門で学んだ基礎的な知識を発展させ、中級程度の簿記を中心に学習していきます。	
	商業簿記論B	現在の企業は、グローバルで発展しています。グローバルな発展を遂げるためには、1つの会社だけでなく、複数の子会社を含めたグループで経済活動を行う企業が数多く存在します。また企業の活動範囲も日本に限定されず、海外でも活躍している企業もよく見受けられるようになりました。このような企業が行っている会計は、会計入門で学習した内容を基礎としたものを、より発展させた内容となります。 商業簿記論Bでは、複数の子会社がある連結企業グループを形成し、海外とも取引をしている企業における会計処理の基本を習得することを目的としています。具体的には、外貨建取引の処理、本支店会計、連結会計などを学習します。	
	工業簿記論	本講義の目標は、工業簿記の基礎知識を習得することにあります。工業簿記は、工業経営を行う企業(製造業、メーカー)に適用される簿記です。工業経営には、原材料を完成品(製品)に転換する製造という過程が存在しており、自社で生産した製品を販売して利益を得るといった特徴があります。工業簿記では、材料や人的資源の企業外部からの調達という外部活動に加えて、工業経営において実施される企業内部の製造活動を記録・分類・計算します。内部活動では、原材料を製造過程に投入し、労働者という資源を活用して加工を行い、同時に種々の用役を費やして製品を完成させます。内部活動から生じる取引を記録する点が工業簿記の特徴です。	
	組織行動論	本講義では、組織行動論を「組織内の人間行動」と「集団・組織の行動」という2つの側面から捉え、組織行動論の多様な理論や考え、ケースについて学ぶ。本講義の主な目的は、次の2つである。1つは、組織行動論の多様な理論や考え方、ケースを学ぶことによって、組織内の人間・集団・組織行動についての理解をより深めることである。もう1つは、組織内で起きる多様な問題を発見し、その原因を突き止め、解決策を見つける能力やスキルを身につける。	
	経営学とキャリア開発	「人的資源管理論」「組織行動論」「経営組織論」など経営学の諸理論を、組織側の視点では無く、個人の観点に立って考えを深め、経営学と結び付けながら、自分の人生とキャリアを自分の考えと力で切り拓いていくことを目的とする。	
	経営情報論A	経営情報論では、情報あるいは情報システムをいかに組織の経営に役立てるか、また役立つような情報システムをいかに構築するかを、情報システムを活用する組織の立場に立って学びます。そのためにまず総論として、情報システムとは何か、また何を目的として活用されるのかを、現在に至る発展の歴史を踏まえて振り返ります。また、組織が情報システムを作り上げる際の課題と、それに影響を与える情報産業との関係を理解します。さらに、ネットワーク社会あるいはユビキタス社会と言われる現代の情報システムの方向性や、社会インフラとなっている大規模な情報システムの動向について学びます。以上の総論を踏まえた上で各論では、経営の状況を数値を用いて科学的に把握するビジネスインテリジェンス(BI)の基本概念や応用事例、典型的な業務における業務とデータの関係の捉え方、および次々に出現する新たな情報通信技術を効用の観点からいかに捉えるべきかを深堀します。各論では、演習を交えてスキルを確かなものにし、経営情報論Aでは、このうち、情報システムとは何かを含め、幅広く総論について学びます。	
	オペレーションズ・リサーチA	本講義の目標の一つは、問題解決のための論理的な思考法と具体的なデータ解析法を修得することです。このオペレーションズ・リサーチAでは、主に線形計画法などの最適化について演習を多く取り入れ学びます。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展 科目	情報システムの分析	この講義では、情報システムの重要性と情報システムを分析する手法について学びます。最初に、経営戦略実行のための手段としての情報システムの重要性を認識してもらいます。そして、このような情報システムを構築するために必要な分析、すなわち、経営戦略立案や、企業の経営課題を解決するためのICTソリューションの企画・提案の各項目について講義します。更に、簡単な情報システムの分析を、ケーススタディを通して体得してもらいます。また、情報システム構築のためのプロジェクト体制や管理手法、コミュニケーション技法についても学びます。	
	情報システム基礎	情報システムの構築や運用のための基本知識や、効果的に利用するための方法等、情報技術に関する幅広い領域を総合的に学びます。具体的には、業務の情報化を利用者の立場から推進するための知識や技能、さらに、情報システムの開発におけるプログラムの設計や開発を行うための知識や技能について学びます。 また、情報処理入門等で学んだ表計算ソフトウェアに代表される各種アプリケーションソフトを、実務に利用するために必要な知識と技能についても総合的に学びます。具体的には、アンケート集計等、実際のケースを用いてデータのチェックや、集計・分析方法等について学びます。さらに、特定の操作手順を記述して自動化する、簡単なプログラミングについても学習します。	
	情報管理概論A	本講義の目標の一つは、経営学部所属する学生が、経営学や経済学の知識を活用し、現実の問題解決を図る際に必要と思われる「情報の取り扱い方」を学ぶことです。ある特定の分野を深く学ぶのではなく視野を大きく広げ、様々な視点から経営学を学ぶきっかけとなる科目です。 情報を効率的に収集・蓄積し、それを適切に分析・加工し、第三者に対して提供・伝達することは、広い意味での情報管理といえます。この情報管理概論Aでは情報社会の特質について考察した後、次に上述の広い意味での情報管理技術を、社会科学的应用に力点を置きながら紹介していきます。また情報社会における情報倫理などについて述べ、ネットワークを利用する場合の注意点や情報社会の問題点についても考えていきます。	
	プログラミング基礎	プログラミング基礎では、Excel上で動作するプログラムの作成を実習形式で行います。プログラミングの基礎を習得してもらうことが講義の目的です。	
専門 科目	企業経済学	講義では、既存研究やケーススタディの紹介を交えながら、企業経済学のエッセンスを、数学を用いず(簡単な四則演算程度は用いますが)、言葉で解説していきます。講義で解説する企業経済学の分析のフレームワークは、企業の吸収合併や事業売却といった企業行動の説明や、多様な企業組織や企業内部の諸制度等が生み出されてきた理由を理解する上で役立つ。	
	マーケティング戦略論B	マーケティング戦略論Bでは、マーケティング戦略の中心的な位置を占めるマーケティング・ミックスについて取り扱いますが、他の「戦略デザイン」のテーマ科目および「顧客満足とマーケティング」のテーマ科目で展開される各論とのバランスなどを考慮し、「価格戦略」を取り上げます。 また、市場セグメントやポジショニング、製品ポートフォリオ、流通チャネル対応、コミュニケーション対応を考慮して価格設定について検討し、価格戦略に関する法規や規制についても併せて学習していきます。	
	産業組織論	産業組織論は、市場構造、市場行動、市場成果を考察の対象とし、公共政策へ理論的・実証的基礎を提供する学問である。産業組織論では、産業の主要参加者企業の行動についての分析が不可欠なので、経営戦略論と密接に関連する。本講義では、まず必要なミクロ経済学理論を教えた上で、産業組織論の概要および市場集中の測定や決定要因などを紹介する。次に実例を用いて製品差別化・参入阻止・経営の多角化と合併・研究開発に関する企業の戦略的行動を分析する。最後に政府の独占禁止政策の必要性も紹介する。	
	研究開発とイノベーションB	現代の社会や企業経営において、「技術」は非常に身近であり不可欠な存在であると言って良いでしょう。どのような業種においても、また、一企業内のどのような機能部門においても、技術を活用することは有用であると考えられます。経営の視点から技術を積極的に活用していけるような基礎を築くことが本講義の目的です。	
応用 科目	新興市場ビジネス論	本講義はグローバル・マネジメントの応用科目です。国際ビジネスのなかでも、近年とりわけ注目を浴びる新興市場に着目し、理論的かつ実証的な検討を試みます。新興市場というのは、一般に市場経済を基本とし、着実に成長しつつある先進国以外の国々のことです。ここでは主にユーラシアの新興市場、すなわちロシア、中東欧、中近東、南アジア、東アジア(東南アジアを含む)が対象となります。「新興市場に目を向け、さまざまなビジネス活動に興味を持つこと」を目標とし、さまざまなツールを用いて、多面的なアプローチを採用し、履修者の関心を喚起します。 国際経営の3つのジレンマへの解答として近年、国際ビジネス研究が進展してきたこと、その現在の到達点が新興市場であることを解説します。そのうえで、新興市場をどのように特徴付けるべきか、新興市場の現実と現状を整理します。そして、ロシア市場、東アジア市場といった地理的なアプローチと、イスラームビジネス、BOPビジネス、リバース・イノベーションといったテーマ別アプローチを併用し、理解を深めます。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	国際経営論	<p>戦後日本経済は資源を輸入し製品を輸出する加工貿易を主体とする「輸出立国」型成長モデルから出発したが、1985年のG5、いわゆるプラザ合意を境に、海外現地生産の展開を主体とする多国籍化段階を経て、1990年代日本企業のグローバル化は決定的となりました。今や企業は新興国を含めて最適な製造拠点を自由に選択する「グローバル立国」への道を歩んでいます。</p> <p>国際経営論は、こうした企業進化の流れの観点から、グローバル企業を多角的に研究し、そこに生じる経営・管理の諸問題を有機的に分析する能力を養うことに主眼を置いています。</p> <p>講義は、まず多国籍企業の生成から発展までの各段階に即して、総合的に多国籍企業の経営戦略、組織、管理などに関する基本理論を説明します。そして初期の基幹産業を代表する自動車産業を事例に、国際化の必然性とその過程および競争戦略を具体的に分析します。さらに国際経営の基礎となる各地域の経営風土を十分に理解する必要から欧米と日本企業の比較研究を行い、日本的経営ならびに異文化マネジメントについても言及します。そして最後に対決から協調の時代を迎えた現在、国際分業、国際提携を中心とするグローバル戦略の方向性をIT、航空宇宙などのハイテク産業および先端的流通・サービス産業を例にとり説明していきます。</p>	
	日本経済論B	<p>今日の日本経済が直面する諸問題を理解することは、我が国企業が直面する経営環境を把握する上で欠かすことが出来ません。この講義では、(1)マクロ経済学(基礎知識、分析枠組み)を習得し、(2)今日の日本経済の時事問題に応用します。</p> <p>日本経済論Bでは、IS-LM曲線モデルを労働市場が存在し、物価水準が変動するケースに拡張した総需要・総供給曲線モデルを習得し、(1)財政政策、金融政策およびサプライサイド改革の効果、(2)失業・物価水準・インフレ期待とマクロ経済との関係等について事例を解説します。</p>	
	ビジネス英語	<p>本科目はグローバル・マネジメントの応用科目です。世界経済、国際ビジネスの動きを把握するとともに、国際ビジネスに従事する企業の現場でどのようなことが行われているのかを、英語を使って学びます。さまざまなビジネスシーンで交わされる短い会話を聞き、ビジネス英会話に慣れることを目的とします。また、企業経営に関する記事を講読し、その背景に触れたり、外国企業との売買を中心としたコミュニケーションの仕方や輸出入の仕組みについて学び、国際ビジネスを身近なものとしします。</p>	
	異文化コミュニケーション	<p>世界の多くの地域でグローバル化が進み、直接的であれ、間接的であれ、文化的背景の異なる人々との接触が日常的になっている現状認識にもとづき、異文化コミュニケーション上の諸問題について基礎的理解を得ることを目標とします。具体的には、自民族中心主義における自己観と多文化共生社会における自己観、異文化コミュニケーションの障壁となる偏見・ステレオタイプの成り立ちと構造、言語メッセージと非言語メッセージの特徴と役割、異文化理解・適応プロセスと多面化する自己等のトピックを各種事例にもとづいて解説します。また、経営学部生の関心領域である国際ビジネスの現場を取り上げ、表面上の仕事観の背後に隠れた労働観・労働倫理の相違から生じる異文化コミュニケーションの問題等についても、ロール・プレイングやグループ・ディスカッションを通して理解を深める。</p>	
	ファイナンスと統計	<p>将来の結果の予測が難しい状況、すなわちリスクがある状況で企業は収益を得て、その価値を高め、存続できるよう意思決定し活動している。この科目では、ファイナンスにおいてリターンとリスクをデータから客観的に評価するのに役立つ統計的手法を学ぶ。そして、平均・分散ポートフォリオ理論の基礎とバリュアット・リスクを理解し、ファイナンスに役立つ統計的な基礎知識と分析力を身に付けることが、この科目の目標である。</p> <p>まず「統計入門」で学んだ平均、分散、標準偏差、正規分布を確認し、平均・分散ポートフォリオ理論を学ぶのに必要な相関係数を解説する。その後、平均・分散ポートフォリオ理論の基礎とバリュアット・リスクを学ぶ。さらに、理解を深めて分析力を身に付けるために、実際のデータをコンピュータソフトで分析する。</p> <p>授業形態として、全体の4分の3は講義とし、4分の1はコンピュータソフトを用いた演習とする。</p>	
	財務管理論A	<p>財務管理論は、企業が長期的に資金を増やすために効果的な事業の選択方法や事業活動を支える資本調達の方法を学ぶ科目である。専門用語や概念を事例や数値例を交えながら座学形式にて学ぶ。</p> <p>企業はその諸活動を資金面で支えるために適時適切な資本調達を行う必要がある。効果的な資本調達には投資家との対話が重要である。投資家は、対象企業の様々な活動の過去・現在・将来を見据えながら投資の可否を判断する。財務管理論はそうした投資家との対話に必要な考え方を学ぶ。</p> <p>財務管理論Aでは次の5点を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 投資家の要求する利益率と比較することのできる指標。 2. 収益力の源泉を企業の諸活動に分解して探索する考え方。 3. 営業・投資・財務の3側面からの資金の流れの把握や資金繰りの状況を知る方法。 4. 財務面で問題を起こすことのない企業の成長に必要な管理手法と対策。 5. 負債利用の長所・短所と適切な量の負債による資本調達の検討。 	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	応 用 科 目	金融論B	この講義では、今日の金融システムの概要を金融機関の活動を中心に解説するとともに、金融に関わる問題を考える際に金融の理論がいかに役立つかを解説します。また、金融機関の経営に関する課題を理解し、金融機関のケース・スタディを行う際の基本的考え方と基礎知識を提供することも目標の1つです。 金融論Bは理論の解説が中心となります。具体的には、(1)不確実性下の意思決定を捉えるための基礎理論、(2)株式・債券等の資産価格の決定理論、(3)公正な保険の理論、(4)非対称情報下の契約理論、の4点となります。これらの理論を習得することで、金融論Aで学んだ金融取引の仕組みや金融機関の業務、経済的機能等を一層理解することができます。	
		証券論	この科目では投資家の立場で証券投資について考えます。学期の前半には、個人投資家増加の背景、証券の種類、証券の売買のしかた、リスクとリターン、ポートフォリオについて学びます。学期の後半には、市場ポートフォリオ、資本市場線、パッシブ運用、アクティブ運用、証券市場線、利益機会と裁定取引について学びます。講義で学ぶ理論と実際をもとに、あるべき投資家像について考察する。	
		企業法と会計情報	本科目は、現代社会における代表的な企業形態である株式会社の会計を中心に扱います。株式会社会計は、会社法、金融商品取引法、法人税法などの法律と会計学の境界領域として、一般に認識されている財務会計の一つの領域です。すなわち、この会計分野は、商業簿記論や財務諸表論では十分には扱われない株式会社固有の会計上の諸問題について、法律上の規定、とりわけ会社法及び会社計算規則の諸規定を中心に、その解釈及び実務への適用を説明するものです。具体的には、株式会社の設立、株主総会や取締役会などの会社の機関、増資や減資などが、本科目の対象となります。	
		原価計算	この講義の目的は、製品の原価計算に関する知識を習得することである。 本講義では、個別原価計算と総合原価計算についての基本的な事項を確認し、計算例を解いていく。原価情報をどのように経営管理目的に利用するかについても解説する。	
		管理会計	本講義の目標は、管理会計の基礎知識を習得することにあります。管理会計を「戦略の策定と実行を支援するとともに、経営上の意思決定や業績評価を目的とする会計」と定義し、経営者や会計担当者が意思決定や業績評価に必要な会計情報を作成するために利用する概念と技法を企業の事例や計算を通じて学習します。 また、ケーススタディによって、学んだ知識を駆使し、グループで話し合って現実の経営問題の解決を試みます。これらのアクティブラーニングを積極的に取り入れ、管理会計の理論と実務の両方を学ぶことが本講義の狙いです。	
		税金の基礎	本講義では、まず税金に関心を寄せることをスタート目標とし、次に日常的な事例を通じてさまざまな税金について概説します。そのあと、もっとも身近で誰もが支払う所得税や会社が納める法人税などを取り上げ、その内容や計算の仕組みを学習します。最終的には、自分の納めている所得税は自分で正確に計算できるということを目的とします。	
		リーダーシップ論	本講義では、仕事をする上で、誰もが発揮しなければならないリーダーシップについて、その研究の成長・発展の軌跡をたどることから始め、リーダーシップを発揮する際に必要とされる周辺の知識を養ってもらいます。具体的には、組織内の権力や内政治力、交渉と信頼、組織文化の生成や変動、組織変革、あるいは組織の学習と知識創造なテーマについて触れます。 このように本講義では、リーダーシップそのものに関する理論やリーダーを取り巻く経営現象に関わる諸理論を学ぶことで、リーダーシップを発揮する際に具備すべき周辺の知識を体得してもらうことが目的となります。	
		雇用関係法	本科目は講義形式であるが、小テストを頻繁に行うことにより双方向授業を展開する。 内容は人的資源管理論Aに対応する労働法の諸問題を議論する。主として労働基準法、労働契約法ならびにそれに関する政省令が対象となる。 到達目標としては「企業の人的資源管理に関する法的問題点を理解し、コンプライアンスを意識できるようにすること」である。扱う内容はおよそ次の通りとなる。労働法の歴史、採用の法的課題、「人事権」総論、「人事権」の展開、懲戒権、退職における法的問題、解雇における法的問題、賃金における法的問題、賞与・退職金における法的問題、労働時間の原則、労働時間の柔軟化、労働時間の法的諸問題。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 応 用 科 目	経営情報論B	経営情報論では、情報あるいは情報システムをいかに組織の経営に役立てるか、また役立つような情報システムをいかに構築するかを、情報システムを活用する組織の立場に立って学びます。そのためにまず総論として、情報システムとは何か、また何を目的として活用されるのかを、現在に至る発展の歴史を踏まえて振り返ります。また、組織が情報システムを作り上げる際の課題と、それに影響を与える情報産業との関係を理解します。さらに、ネットワーク社会あるいはコビキタス社会と言われる現代の情報システムの方向性や、社会インフラとなっている大規模な情報システムの動向について学びます。以上の総論を踏まえた上で各論では、経営の状況を数値を用いて科学的に把握するビジネスインテリジェンス(BI)の基本概念や応用事例、典型的な業務における業務とデータの関係の捉え方、および次々に出現する新たな情報通信技術を効用の観点からいかに捉えるべきかを深堀します。各論では、演習を交えてスキルを確かなものにします。経営情報論Bでは、このうち、BIを含めて各論について学び、理解をより深めます。	
	情報システムの開発	この講義では、情報システムの重要性と情報システムを開発する手法について学びます。最初に、情報システムの分析で得られた結果に基づいた情報システム活用戦略の具体化について学びます。そして、この戦略を実現するための開発パートナーの選定からプロジェクトの立ち上げ、実装、運用に至るまでに必要な各項目について講義します。更に、情報システム活用戦略の立案や提案依頼書の作成、提案の評価、完成した情報システムによる経営戦略実行の達成度評価までを、ケーススタディを通して体得してもらいます。	
	オペレーションズ・リサーチB	本講義の目標の一つは、問題解決のための論理的な思考法と具体的なデータ分析法を修得することです。オペレーションズ・リサーチBでは、オペレーションズ・リサーチAで学んだ線形計画法のおさらいをした後、行列について学び、線形計画法の理解を深めます。そして在庫問題、サプライチェーン・マネジメント(SCM)、輸送問題などについて考えます。オペレーションズ・リサーチAと同様、演習を多く取り入れながら、講義を進めていきます。	
	プログラミング応用	プログラミング応用は、Visual Basicなどのプログラミング言語を使って、アプリケーション・プログラム(アプリ)を作成することを目的とする実習形式の講義です。プログラミングの基礎を習得していることを前提に講義をします。 アプリケーション・プログラムにおいては、ユーザ・インタフェースも重要です。この講義では、コントロールを用いたフォームの設計など、ユーザ・インタフェースの設計方法についても学びます。さらに、タイマーを用いた計測や状態に応じた制御についての原理についても学びます。 自作のアプリケーション・プログラムが期待通りに動作した瞬間の喜びは何物にも変えがたく、それがプログラミングの醍醐味です。受講生にはそのプログラミングの喜びと達成感を味わって欲しいと思います。そのような経験を繰り返していくうちに、論理的な思考も自然と身につきます。	
	情報管理概論B	本講義の目標の一つは、経営学部所属する学生が、経営学や経済学の知識を活用し、現実の問題解決を図る際に必要と思われる「情報の取り扱い方」を学ぶことです。ある特定の分野を深く学ぶのではなく視野を大きく広げ、様々な視点から経営学を学ぶきっかけとなる科目です。 情報を効率的に収集・蓄積し、それを適切に分析・加工し、第三者に対して提供・伝達することは、広い意味での情報管理といえます。情報管理概論Bでは、情報管理概論Aで考察した内容を概観した後、次に、情報科学、システム科学、計量経済学、オペレーションズ・リサーチ等の諸学問分野の考えを基礎としながら、広い意味での情報管理技術を紹介していきます。また近年話題の多い著作権、特許等の知的財産権およびコンピュータ犯罪についても講義を行います。講義内容を理解し、その内容に対して自分なりの疑問や考えを持つことが大切であると考えており、小テスト・演習等を取り入れながら、講義を進めていきます。	
	データベース論	データベースとは、大量のデータの中から、ユーザが抽出したいデータを検索できるように構成されたデータの集まり、すなわち、データの基地のことです。各企業は財務データ、人事データ、販売データ等、ビジネスに必要なあらゆるデータをデータベースとして管理しており、その利用はビジネスにおいて必要不可欠です。近年は、収集したビッグデータの中から有益な情報を発見し、それを企業戦略やビジネスに活かすこともなされています。 この講義では、リレーショナル・データモデルを用いたRDBの理論と、データベースへの問合せ言語であるSQLを習得することを目的とします。講義の形態は実習形式であり、代表的なデータベース管理のソフトウェアであるAccessを用いて実際にデータベースを操作します。さらに、データベースの検索結果を帳票形式で出力するなど、実務的な使用方法についても学びます。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	シミュレーション論	<p>実際の現象のメカニズムを詳しく解析するのに現象の重要な点を取り出して単純化する「モデル化」と、実際の現象に対して擬似的な状況を設定して解析する「シミュレーション」について、待ち行列と関連づけて学ぶ。そして、この科目では、待ち行列の解析を通じて、モデル化とシミュレーションの技法やその有効性について説明できるようにになるとともに、待ち行列を解析して結果をまとめる力を身に付けることを目標とする。</p> <p>まず、モデル化とシミュレーションの一般的な解説を行う。待ち行列の解析に用いる確率過程論の基礎として、客の単位時間当たりの到着人数が従うポアソン分布と客の到着間隔が従う指数分布を扱う。その後、客の到着間隔やサービス時間に対する客の待ち時間や行列の長さを解析するシミュレータを、コンピュータソフトを用いて自ら構築する。</p> <p>授業形態として、全体の3分の2は講義とし、3分の1はコンピュータソフトを用いた演習とする。</p>	
	情報セキュリティ	<p>本講義では、情報セキュリティに関して、その意義と目的、情報セキュリティの脅威の種類、コンピュータとネットワークの各観点からのセキュリティ対策技術、企業などの組織における情報セキュリティの管理手法、法制度などについて学びます。</p>	
	経営組織論	<p>本科目では、企業活動に関わるさまざまな人や組織との関係について、理論と実際のビジネスケースをもとに講義します。企業がその目的を達成するためには、従業員のみならず、資金を提供してくれる投資家、原材料や部品を納めてくれる供給業者、自社の製品・サービスを購入し、新製品のアイデアを提供してくれる顧客等、外部の関係者とも上手くコミュニケーションをとることが必要となります。</p> <p>本科目を受講することで、企業活動に関係する人と組織との関係性が見えてくると同時に、経営戦略論、労務管理論、マーケティング戦略論、研究開発とイノベーション等、他の専門科目で学んださまざまな知識の関連性も明確になる。</p>	
	戦略経営論	<p>この授業では、経営戦略の策定手法、経営戦略と組織の適合性、企業変革のプロセスなどを中心に講義していき、企業を総合的に見る目を養うことを目的とします。</p>	
	外国経営史A	<p>外国経営史となっているが、日本に対する影響力の大きさを考慮してアメリカ経営史を中心に講義します。講義内容を列記すると、(1)イントロダクション、(2)ジェネラル・マーチャントと綿花プランテーション—商業と農業のアメリカ、(3)ニューイングランド綿工業の発展—スレイター、ローウェル、ボーデーン、(4)鉄道会社の発展と衰退—ペンシルヴェニア鉄道とペン・セントラル、(5)アメリカ鉄鋼業とカーネギー—成長の戦略、(6)ロックフェラーと石油産業—経営戦略と企業形態、(7)デュボン社—多角化戦略と事業部制、(8)自動車産業とフォード—量産体制の成立、(9)フォードとGM—競争の戦略—です。</p>	
	外国経営史B	<p>外国経営史Bでは、外国経営史Aを受けて20世紀中葉から現代に至るアメリカ経営の歴史を講義します。講義内容を列記すると、(1)イントロダクション、(2)ジェネラル・マーチャントと綿花プランテーション—商業と農業のアメリカ、(3)ニューイングランド綿工業の発展—スレイター、ローウェル、ボーデーン、(4)鉄道会社の発展と衰退—ペンシルヴェニア鉄道とペン・セントラル、(5)アメリカ鉄鋼業とカーネギー—成長の戦略、(6)ロックフェラーと石油産業—経営戦略と企業形態、(7)デュボン社—多角化戦略と事業部制、(8)自動車産業とフォード—量産体制の成立、(9)フォードとGM—競争の戦略—です。</p>	
	国際経済論	<p>世界経済はダイナミックに変化し続けています。GATT体制とそれを引継いだWTOのもとで貿易や直接投資の自由化が加速的に進んできたことに加え、情報通信技術の進展により企業活動の国際的展開が活発化してきています。こうした変化の影響に関する考え方を学ぶことが本講義の目的です。グローバリゼーションの進展によって各国経済間の相互依存関係が一層拡大・深化した結果、国際経済の変化を軽視しては日本経済の動きを理解、展望することはできなくなりました。外国経済の変化が日本の経済社会に影響をおよぼすと同時に、日本経済の動向が世界に波及する可能性も高まっているのです。</p> <p>国際経済論では、このような現状を認識し、国際経済問題をみる目を養うために、貿易、直接投資、為替レート、国際収支などの重要な概念、そして関連する時事問題等を学びます。なお、本講義で扱う国際経済論の理論を理解する上で必要な場合、ミクロ・マクロ経済学の基礎理論についての補足説明も行います。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	財務管理論B	<p>財務管理論は、企業が長期的に資金を増やすために効果的な事業の選択方法や事業活動を支える資本調達の方法を学ぶ科目である。専門用語や概念を事例や数値例を交えながら座学形式にて学ぶ。</p> <p>企業はその諸活動を資金面で支えるために適時適切な資本調達を行う必要がある。効果的な資本調達には投資家との対話が重要である。投資家は、対象企業の様々な活動の過去・現在・将来を見据えながら投資の可否を判断する。財務管理論はそうした投資家との対話に必要な考え方を学ぶ。</p> <p>財務管理論Bでは次の6点を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 将来の異なる時点で生まれる資金の価値の評価方法。 2. 株式や債券の価値の算出と評価。 3. 将来の受取額に不確実性がある状況での最適な資産の選択方法。 4. 不確実性下における投資の成果の評価方法とその考え方。 5. 企業の資本調達時に投資家が要求する収益率の見積もり方法とその考え方。 6. 企業の設備投資における適切な投資案の選択方法。 	
	リスク・マネジメント論	<p>本講義では、リスクに対処するための主要な方法の一つとしてリスク・マネジメントにおいて大きな役割を果たしている保険に特に焦点を当てます。具体的には、保険とその他の対処方法との比較、保険の仕組み、保険による対処が可能なリスクであるための要件といった事柄について、可能な限り多くの具体例・実例を用いて講義します。最終的には、「保険というシステムはどのように成り立っているか」、また「保険はどのようなタイプのリスクに対処するのに適した方法か」など、保険がリスク・マネジメントにおいて占める位置や重要性について理解し、説明できるようになることを目標とします。</p>	
	財務諸表論	<p>財務諸表論は、企業外部の利害関係者に会計情報を提供する財務会計の中心科目であるだけでなく、財務諸表利用者の意思決定や利害調整にも有用な情報を提供する機能を果たすことから、企業経営を理解するための必須の学習科目である。よって財務会計に関する基本知識を習得し、企業や業界そして様々なステークホルダーの利害・関係等を的確に読み解く基盤作りをすることが本講義で到達すべき目標となる。授業は原則として講義形式で行われるが、必要に応じて演習問題を解き、学習内容の理解度を確認することがある。財務会計の進展変化は昨今著しいが、企業会計原則・企業会計基準の学習を通じて財務会計の基本概念や財務諸表の構成要素(貸借対照表、損益計算書等)等を理解した上で、さらに会社法・金融商品取引法をベースとした会計制度や企業内容開示等の仕組みも学習する。また経営学部の学生のニーズを踏まえ、財務諸表作成だけでなく、その分析法についても講義を行い、財務諸表の利用者の立場からの理解も深めたい。</p>	
	コスト・マネジメント	<p>この科目はコスト・コントロールと原価低減の両方を取り上げます。</p> <p>まずは、原価管理と原価計算の関係に着目し、標準原価計算や直接原価計算に基づく伝統的なコスト・マネジメント技法に焦点を当てて学習します。</p> <p>その後、原価企画と原価改善に着目し、ABC/ABMや環境コストマネジメントなどの新しいコスト・マネジメントの技法に焦点を当てて学習します。</p>	
	監査論	<p>授業において、財務諸表監査がある目的を持った組織的なプロセス(1)監査契約プロセス、(2)監査実施プロセスおよび(3)監査報告プロセスであることを明らかにし、つぎに、それぞれのプロセスが、さらにいくつかのサブプロセスとえば、(2)は①監査計画の編成プロセス、②監査手続の実施プロセスおよび③監査証拠の評価プロセスに分けられること、(2)のプロセスのゴールが、十分かつ適切な監査証拠であり、それが(3)のスタートラインであることを明らかにします。そのなかで、監査を実施することが、じつは被監査会社の内部統制の信頼性の程度を評価することと表裏一体の関係であることも明らかにする。</p>	
	税務会計論	<p>本科目の目的は、税務会計論の基礎的な知識を習得することです。税務会計論とは、法人税の課税所得を算定するための計算技術や理論を体系的に学ぶ学問です。我が国は、法人税の課税所得の算定に当たっては、確定決算主義を採用しています。したがって、税務会計論を習得するためには、企業会計の知識が必要となります。本科目においてはまず、税務会計論を学ぶために必要な企業会計の基礎知識を学びます。</p> <p>次に、企業会計から導き出される期間利益と課税所得との違いが生じる点を学習します。具体的には、以下の論点を取り上げます。(1)交際費、(2)少額減価償却資産と減価償却費、(3)評価損、(4)寄付金、(5)貸倒引当金及び貸倒損失。上記の論点は、それらについて争われた判例や税務調査などと併せて学習します。</p>	
	連結会計	<p>本科目では、(1)連結財務諸表の概念及びその作成方法を理解すること、(2)連結ベースでの業績の見方を知ること、ならびに(3)実際のグループ企業の行動と会計との関係を理論と実務を踏まえながら理解を深めることを通じて連結会計を学びます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 応 用 科 目	人的資源管理論A	<p>本科目は講義形式であるが、小テストを頻繁に行うことにより双方向授業を展開する。</p> <p>内容は人的資源管理(いわゆる人事労務管理)のうち採用から退職までの雇用管理と賃金・労働時間の労働条件管理に大別される。</p> <p>到達目標としては「企業の人的資源管理の概要を理解し、制度に含まれる企業からのメッセージを把握できること」である。扱う内容はおおよそ次の通りになる。雇用管理の歴史、採用、配置・異動、資格制度、人事考課、教育訓練、退職・解雇、賃金概論0、賞与・退職金、労働時間概論、労働時間の例外、労働時間をめぐる諸問題。</p>	
	人的資源管理論B	<p>本科目は講義形式であるが、小テストを頻繁に行うことにより双方向授業を展開する。</p> <p>内容は人的資源管理(いわゆる人事労務管理)のうち労働組合との関係を論じる労使関係論と近時のトピックに大別される。</p> <p>到達目標としては「企業の人的資源管理の概要を理解し、制度に含まれる企業からのメッセージを把握できること」である。扱う内容はおおよそ次のようなものになる。労働組合の歴史、労働組合の概念、労働組合の組織、日本の労働組合の特色、団体交渉、争議行為、労働組合の日常活動、これからの労働組合、女性労働、高齢者雇用、障がい者雇用、これからの人的資源管理。</p>	
	労使関係法	<p>本科目は講義形式であるが、小テストを頻繁に行うことにより双方向授業を展開する。</p> <p>内容は人的資源管理論Bに対応する労働法の諸問題を議論する。主として労働組合法、労働関係調整法、労働審判法ならびに個別労働紛争解決促進法が対象となる。</p> <p>到達目標としては「企業の人的資源管理に関する法的問題点を理解し、コンプライアンスを意識できるようにすること」である。扱う内容はおおよそ次のようになる。労働組合法総論、法内組合、法外組合、労働協約、争議行為、争議行為の調整、不当労働行為一団交拒否、不当労働行為一不利益取り扱い・支配介入、不当労働行為の審査、労働訴訟総論、労働審判、個別労働紛争解決促進法、労働組合をめぐる法的議論。</p>	
	経営戦略論	<p>経営戦略は、企業活動の基本枠組みと方向性を決定するもので、企業の存続や業績に大きな影響を与える企業経営の基本方針です。本講義では、経営戦略に対する複数のアプローチ、具体的な経営戦略の策定枠組、戦略策定に用いられる分析手法などについて、講義形式で体系的に解説します。</p> <p>経営戦略は、事業領域(ドメイン)の選択といった全社を対象とする企業戦略(全社戦略)と事業レベルでいかに競争優位を構築するかを対象とする競争戦略(事業戦略)に大別できます。講義の前半では、経営戦略への複数のアプローチを概説し、次に企業戦略(全社戦略)に関わる経営目標、自社分析・外部環境分析(SWOT分析)、ドメインの定義、垂直的統合、多角化、M&Aなどのテーマを扱い、後半では主に競争戦略(事業戦略)に関わる業界構造分析、ポーターの基本戦略、複数の競争次元、ビジネスモデルなどのテーマを扱います。本講義では、経営戦略の全体像を理解し、また具体的な戦略分析手法を活用するための基本知識を習得することを目標とします。</p>	
	経営システム論	<p>企業は、様々な意思決定と問題解決のプロセスから構成される一つのシステムと捉えることができます。</p> <p>本講義は、この企業を意思決定システムととらえる立場から、主に行動経済学が明らかにした人間の意思決定にみられる特性(バイアス)、その特性を経営やマーケティングに応用する方法、そして実際の経営課題を解決するための思考法やフレームワーク、アプローチの仕方などについて講義形式で解説します。</p> <p>講義の前半では、経営学分野のH.A.サイモンの意思決定論、行動経済学分野の代表的なヒューリスティクスやプロスペクト理論、またそれらを経営・マーケティングに応用する方法を扱い、後半では様々な個人レベル・集団レベルで用いられる思考法やアイデア創出法を概説し、ビジネス分野でよく用いられるMECEやインシュア・ツリーなどのフレームワークを解説します。本講義では、人間の意思決定特性(バイアス)を把握するとともに、様々な思考法の特徴を理解し、ビジネスで用いられる意思決定フレームワークの基本知識を習得することを目標とします。</p>	
	生産管理論A	<p>生産管理において用いられる標準的な概念とモデル、そして行動科学的な側面について、受講生が理解し説明できることをこの授業の目標とする。管理における計画・組織化・統制のうち、生産管理論Aでは主に計画の側面を扱い、より具体的な内容としては、オペレーションの戦略、(需要等の)予測、製品・プロセスの設計、生産能力、施設立地やレイアウトの計画に関する内容を予定している。なお、授業の形態は講義形式を基本とするが、モデルの理解のため、端末室でのPC演習を適宜取り入れて行う。</p>	
	生産管理論B	<p>生産管理において用いられる標準的な概念とモデル、そして行動科学的な側面について、受講生が理解し説明できることをこの授業の目標とする。生産管理論Bでは、その管理過程における組織化の側面(職務設計、生産・作業標準、作業測定、プロジェクト管理等)、計画の側面(基準生産計画、オペレーションズスケジューリング等)、統制の側面(在庫管理等)に関する内容を予定している。なお、授業の形態は講義形式を基本とするが、モデルの理解のため、端末室でのPC演習を適宜取り入れて行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	会計システムとソリューションA	<p>本講義は、企業の経営活動における意思決定と問題解決の手法について学ぶことを目的としている。</p> <p>昨今、企業経営上の意思決定問題に対して、会計情報や分析手法を用いて問題解決する能力を身につけることが望まれている。そこで、本講義のねらいは、会計の観点から企業の経営活動に生じる意思決定問題を解決するため基礎的考え方を身に付け、分析に役立てるための会計情報の活用方法を修得することである。企業の経営環境が複雑化し、変化の激しい状況にある。本講義では企業の意思決定に関する問題に対して、投資案や資金計画など経済性をもとにした答えを導くことが出来るようになることである。</p> <p>会計システムとソリューションAの講義では、意思決定に役立つコスト、利益構造の分析、有利な製品選択など意思決定に関する基礎的な内容を学ぶ。あわせて、パソコンを自ら操作して、将来的な必要なりテラシー能力を身につけていく。これによって経営者や管理者の立場で、合理的な意思決定、計画、管理を行うための基礎的な内容を修得する。</p>	
	マーケティングとソリューションA	<p>「経営とは意思決定することである」と言われるように、すべての経営活動は意思決定と問題解決のプロセスから構成されています。その中の重要な一つの構成要素が、マーケティングに関する意思決定です。</p> <p>マーケティングとは、企業が市場を創造するために行う市場調査・製品開発・価格設定・プロモーション・流通等の諸活動、及び顧客・環境関係等に関わる諸活動のことを言います。優れた経営成果を実現するためには、企業の中核的活動とも言えるマーケティングに関する意思決定や問題解決を適切に行うことが必要です。マーケティング分野では、市場調査における定量的なデータ分析方法などを代表として、様々な意思決定や問題解決の考え方・コンピュータベースの手法やツールが提案され実際に利用されており本科目はそれらを取り扱います。マーケティングとソリューションAでは、分析手法としてコンジョイント分析等を取り上げます。本講義では、理論の学習とともにコンピュータを用いた演習を行い、コンジョイント分析のような分析手法を使いこなせるスキルの習得を目標とします。</p>	
	会計システムとソリューションB	<p>本講義は、企業の経営活動における意思決定と問題解決の手法について学ぶことを目的としている。</p> <p>昨今、企業経営上の意思決定問題に対して、会計情報や分析手法を用いて問題解決する能力を身につけることが望まれている。そこで、本講義のねらいは、会計の観点から企業の経営活動に生じる意思決定問題を解決するため基礎的考え方を身に付け、分析に役立てるための会計情報の活用方法を修得することである。企業の経営環境が複雑化し、変化の激しい状況にある。本講義では企業の意思決定に関する問題に対して、投資案や資金計画など経済性をもとにした答えを導くことが出来るようになることである。</p> <p>会計システムとソリューションBの講義では、キャッシュフローと評価、企業の利益計画、予算管理、投資案の選択などを中心に意思決定に関する発展的な内容を学ぶ。会計システムとソリューションAと合わせて、意思決定のための経済性評価を体系的に理解して、企業のマネジメントに活用するための知識を修得する。</p>	
	マーケティングとソリューションB	<p>「経営とは意思決定することである」と言われるように、すべての経営活動は意思決定と問題解決のプロセスから構成されています。その中の重要な一つの構成要素が、マーケティングに関する意思決定です。</p> <p>マーケティングとは、企業が市場を創造するために行う市場調査・製品開発・価格設定・プロモーション・流通等の諸活動、及び顧客・環境関係等に関わる諸活動のことを言います。優れた経営成果を実現するためには、企業の中核的活動とも言えるマーケティングに関する意思決定や問題解決を適切に行うことが必要です。マーケティング分野では、市場調査における定量的なデータ分析方法などを代表として、様々な意思決定や問題解決の考え方・コンピュータベースの手法やツールが提案され実際に利用されており本科目はそれらを取り扱います。マーケティングとソリューションBでは、Aで紹介した分析手法をもとに、さらに売上に代表される数量や来店確率に代表される確率を説明するためのモデル、製品選択の影響度の高い要因を見つけるロジックモデル等の習得を目指します。本講義では、理論の学習とともにコンピュータを用いた演習を行い、取り上げた分析手法を使いこなせるスキルの習得を目標とします。</p>	
	Webプログラミング	<p>本講義では、プログラミング基礎で学んだアルゴリズムの考え方とプログラミング技術を用いて、World Wide Webで使われるWebアプリケーションのプログラミング(Webプログラミング)を学び、論理的な思考能力を身につけることを目的とします。</p> <p>Webプログラミングでは、外部とのやりとりを行うため、状況やデータ等の計測や制御が必要となります。そのために本講義では、外部と情報をやり取りする方法や、状況やデータを計測したり制御するための原理についても学びます。また、サーバ側で動作するプログラムとクライアント側で動作するプログラムの両方を開発しなければなりません。本講義では、一般ユーザでも扱いやすいクライアント側でのプログラミングに注力します。</p> <p>なお、この講義は演習主体であり、プログラミング基礎の内容を修得していることを前提として講義を進めます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	マルチメディア情報処理論A	コンピュータは、数値データの処理ばかりでなく、文字、画像、音声、映像等さまざまなメディアに対する情報処理に使用されています。さらにコンピュータ技術やソフトウェアの機能の高度化に伴い、コンピュータは、従来からの計算、情報処理や通信手段の用途の他に、マルチメディアコンテンツ制作の重要な手段としても使用されています。 そこで本講義では、マルチメディア情報学を中核にした講義を行います。具体的には、マルチメディア情報学の基礎となる、数値や文字、画像、音声、映像といった情報の表現技術についての講義と、これらの情報を扱うアプリケーションソフトウェアの実習を行い、これらに関連した演習も行います。		
	マルチメディア情報処理論B	コンピュータは、数値データの処理ばかりでなく、文字、画像、音声、映像等さまざまなメディアに対する情報処理に使用されています。さらにコンピュータ技術やソフトウェアの機能の高度化に伴い、コンピュータは、従来からの計算、情報処理や通信手段の用途の他に、マルチメディアコンテンツ制作の重要な手段としても使用されています。 そこで本講義では、マルチメディア情報学を中核にした講義を行います。具体的には、数値や文字、画像、音声、映像といった情報の作品制作やデザインの方法等についての講義や実習と、これらの情報を統合的に扱うオーサリングソフトウェアを利用した実習を行います。そして最後に、さまざまなメディアを統合するオーサリングの演習も行います。		
	情報通信ネットワーク論A	本講義では、現代の情報通信ネットワークを用いたサービスの提案と活用のために必要となる基礎知識を学ぶとともに、情報通信の将来動向と可能性についても言及します。インターネット、ブロードバンド回線(光ファイバなど)、WiFi(無線LAN)などについて解説します。さらに、実習を通して、情報通信ネットワークの活用法を体得する。		
	情報通信ネットワーク論B	本講義では、現代の情報通信ネットワークを用いたサービスの提案と活用のために必要となる基礎知識を学ぶとともに、情報通信の将来動向と可能性についても言及します。移動通信(携帯電話)、ネットワークセキュリティ、電気通信事業の制度などについて解説します。さらに、実習を通して、情報通信ネットワークの活用法を体得する。		
	経営学特講	ビジネスデザイン学科における発展・応用科目で学んだ内容をふまえ、経営に関わる様々な領域の最新のトピックや研究動向を教授する講義です。経営学は誕生してからまだ日が浅く、現在でも研究領域が拡張するとともに、研究者が模索しながら深化してきています。また十分に議論が尽くされていない領域であっても、時代の変化を念頭におけば、今、伝える意義が高いと判断した内容について、担当者が提供する講義です。		
関 連 科 目	リーダーシップ開発プログラム	本プログラムでは、プログラム参加者を複数のチームに分け、学外での様々な活動に取り組んでもらいます。このチーム活動を行いながら、演習編(グループ・ワーク、ケース・メソッド、ロールプレイングなど)と理論編(演習後の参加者による振り返りや意味づけのための理論的解釈の提供など)から構成されるプログラムの各回で、チーム活動やその中のリーダーシップ発揮における問題・課題に対するヒントが学内外の講師からフィードバックされ、チームでの振り返り(内省)が行われます。 このように、実践、理論、内省のサイクルを回しながら、ビジョン(目的)を自ら創造し、多様な他者を理解しながら、そのビジョンを実現していくために他者と協働するリーダーシップ能力を体得すること、それが本プログラムの目的となります。		
	寄付講座	本講義は学外の業界トップの組織が、専修大学経営学部のために提供する講座であり、年度により提供されるものが異なります。本講義を受講することで、授業で学んだ知識や理論が実際の世界でどのように使われているかを即座にイメージし、さらに、最先端の現場を知る人々の知識と経験に触れ、より実務に近い学習をする。		
	特殊講義	この講義では、社会において最新の動向や知識を学術的・実践的に学ぶために、ゲストとして企業人や経営者を招いたり、外国からの教員によって展開する。		
転 換 ・ 導 入 科 目	専修大学入門ゼミナール	大学における学修では、講義を聴くことや教科書など基礎文献を読むことに加え、自らの問題関心や勉学の目的に沿って、自主的に勉強に取り組まなければならない。そのためには、必要な資料を収集し、その内容をまとめ、教員や他の学生に報告し、議論を重ね、勉学の成果を論文やレポートにまとめることなど、積極的な姿勢でのぞむことが求められる。本科目は、専修大学の学生としての自覚を持つために専修大学の歴史を学ぶとともに、少人数のゼミナール形式の授業における実践的な作業を通して、大学で学ぶことの意義や、「講義でのノートのとり方」、「資料の収集方法」、「報告の方法」、「討論の方法」、「論文・レポートの書き方」など、大学で学ぶための基本的な技法、すなわち大学における学修方法の習得を目的としている。		

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
転換・ 導入科目	キャリア入門	本科目は「キャリアを理解するための基礎知識」「自分を知る」「環境を理解する」「キャリアデザインに必要な力」を学び、ゲストスピーカーの話に関連付けることを通じて、大学生活における様々な選択肢の中から自分の生き方を主体的に考え行動することを目的とする。ここでは「キャリアデザイン＝自分の立場や役割を認識し、それにふさわしい己の有り様について構想を練ること」と捉え、学生生活で何をやるかを明確にし(考える)、多くの経験をして自分の可能性を探り(試す)、なりたいたい自分になるために挑戦し(挑む)、具体的目標に向けて活動する(磨く)というサイクルを身につける。さらに講義での学びを、他の正課科目をはじめ、課外講座やインターシッブ、部活動、留学などに反映し、目的意識を持った学生生活とその延長線上にあるキャリアの実現に向けて踏み出す後押しをする。	
	あなたと自然科学	教養教育科目自然科学系科目の導入科目として、「科学」とは何か、「科学的な」思考法とは何か、「科学的に」問題を解決すること、社会に貢献することはどういうことかを、「あなた(受講生)」の身の回りの自然現象や「あなた」の生活を便利にしている技術などに触れながら講義形式で論じる。「あなた」の身の回り、あるいは「あなた」自身にも自然科学が密接に関わっていることを理解し、科学的な視点や考え方を身につけ、科学リテラシー(科学や技術に対する理解度)を向上させることが本科目の目的である。「あなた」を取り巻く6つのテーマについて、生命を支えるための基本的な仕組み、生物の進化と多様性、健康という状態と病気という状態の違い、私たちが存在できる地球という惑星の特徴、資源とエネルギー、現代社会と環境問題について論ずる。	
	スポーツリテラシー	授業形態:実技形式。目標:多様な文化的価値を持つスポーツについて、適切な理解と解釈をもって実践できる能力を養う。スポーツによる学士力の養成と心身の健康の保持増進に取り組むことができる能力を身につける。概要:スポーツは、年齢・性別・障がいの有無を問わず広く行われており、コミュニケーションツールとしてもその価値は高い。その楽しみ方は、競技的なものからレクリエーション的なものまで多岐に渡る。スポーツが有する様々な可能性に触れて身体知を養うことでスポーツ文化を総合的に理解し、問題解決に取り組むことのできる能力を身につけ、共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践する。併せて、スポーツを媒介にして学生間の意思疎通能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養い、共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践する。スポーツの様々な可能性について理解するとともに、生涯スポーツへつなげる足がかりとする。	
	スポーツウェルネス	授業形態:実技形式。目標:スポーツの価値を認識し、その活動を学生生活に取り込み、自分の心身の状態を認識し、健康の保持増進に継続して取り組む事ができる。概要:スポーツの実践を通じて健康の保持・増進や生活習慣病の予防・体力の向上、ストレスの解消といった体と心に関する効果をはじめ、仲間作りやフェアプレー、チームワークの醸成といった社会的効果(=スポーツの価値)が認められている。また、スポーツには「する」だけでなく「見る」「支える」スポーツによる生き甲斐づくりにも貢献できる特徴がある。スポーツウェルネスとはこのような様々な効果を有するスポーツを通じたウェルネスの活動である。スポーツの効果や価値を認識し、自分の価値観や人生観に基づき、より良く生きるための手段としての健康を追求し、自らスポーツを実践できる能力を身につけ、生涯にわたって何らかのスポーツを継続していくことができる能力を養う。	
教養科目	日本の文化	日本文化についての研究は、今日ますます広がりと深化をみせており、日本人のみならず、世界の人びとの関心の的になっている。この講義では、古今の、日本のさまざまな文化(たとえば短歌、俳句、小説、茶道、書道など)の成り立ちから発展、今日的現状などについて幅広く学ぶことを通じて、日本文化のこれまでとこれからについて深く思索する能力を養うことを目的とする。小説や書道に関する授業においては、実践も重視し、受講生たちが実際に作品を創り、互いに批評する機会も設けることとする。	
	日本の文学	日本文学についての研究は、今日ますます広がりと深化をみせており、古代から現代にいたる長い時間の中で生み出されてきた諸作品は、日本人のみならず、世界の人びとの関心の的にもなっている。また研究方法においても、歴史学・社会学・心理学・文化人類学・民俗学・ジェンダー論など、周辺領域との連携によって、新しい局面がひらかれつつある。この講義では、そうした最新の成果・方法論を紹介しながら、日本の古典文学および近現代文学を実際に読解することを通じて、文学作品を生み出した背景や歴史などについて深く理解し、作品そのものを十分に鑑賞する能力を養うことを目的とする。	
	世界の文学	古今東西の文学について、幅広く教養を身につけるための入門的な講義。英語圏の文学にかぎらず、多彩な地域からその代表的な作者・作品・流派をとりあげて、学生が読書という名の「知」の大洋の魅力を理解することを目指す。一般に国際社会で常識とされる基礎知識として、ギリシア悲劇、唐詩、『トリスタンとイゾー』などに始まり、近代の有名な詩・戯曲・小説をへて、さらにブルースト、カフカ、魯迅、サルトル、ガルシア=マルケス、クンデラなどの二〇世紀まで、世界の文学をほぼ時代順に読んでいく予定。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文科学 基礎科目 教養科目	文学と現代世界	この講義では、文学が現代世界とどのように関わるのかを学生が理解することを目指す。第一に、現代文学の理解の前提となる批評・文学理論を学ぶ。また現代文学は従来の文学の領域に止まらず、国境や言語を横断し、詩や小説や戯曲といった文学ジャンルを横断し、「作者」と「読者」の境界を横断する。このようにこれまで自明と思われていた文学の輪郭が溶解し流動化している現況を、現代社会との関係の中で学生が理解できるよう、初歩的な教養のレベルでわかりやすく解説する。	
	英語圏文学への招待	グローバル化の時代において(国民文学)の境界線の溶融がますます顕著になっており、英語圏文学の人種的・言語的多様化の傾向も強まっている。このような現象を踏まえ、多様化しつつある英語圏文学を「イギリス文学」や「アメリカ文学」といった呼称によって分断することはできない。本講義では、英語圏文化の現状を押さえながら、(初期近代)以降の英語圏文学の展開を従来とは異なる視点から捉えらるような知識を習得することを目的とする。対象は、イギリスやアメリカに限らず、アイルランド、南アフリカ、オーストラリア、カリブ海域の国々の文学を含み。テーマとしては、小説、演劇、詩のさまざまな手法の変化に注目する。	
	歴史の視点	学生の多くにとって、講義科目としての歴史(世界史、日本史)は暗記科目として認識されていると思われる。この講義では、中学あるいは高校時代に得た知識を基礎にしつつ、暗記科目ではない学問としての歴史学の基礎を理解することを目的とする。歴史学とはどのような学問なのか、さまざまな時代と地域を対象とする研究や事例を通じて、歴史学における考え方や方法を具体的に知ることがその方法となる。また、そのような方法を学ぶことにより、現代社会に対する歴史的理解を深めることができる。	
	歴史と地域・民衆	歴史学とは、現在の私たちが暮らす社会のあり方や課題について考えるという問題意識から、歴史上の人びとの営みやその生活等について調べ、考察する学問である。人びとの関係性の中から形成される社会は、当然その時代や地域における特徴を持つこととなる。また、そうした地域のなかで、歴史上の著名な人物として名前や生涯を知りうる人間は、全体の中のごく少数に過ぎない。圧倒的多数は、名前もわからない民衆である。しかし、そうした個々の民衆の営みが社会の土台をなし、大きな社会的変革の原動力ともなっている。したがって、歴史研究の対象としての民衆の活動を解き明かすことには大きな意味がある。以上のことを念頭に置きながら、この講義では具体的な時代や地域を題材としながら、民衆におけるさまざまな意識や行動について明らかにすることを目的とする。	
	歴史と社会・文化	現在の歴史学では、伝統的な政治史や経済史のように特定の著名な人物や国家あるいは経済政策を事件史として研究するだけでなく、より全体的な視角から人間や人間集団をとらえて研究することが盛んになった。研究されるテーマも、従来の研究が取り上げなかった家族、性、出産、育児、衣食住、貧困、犯罪、心性などの領域を、今まで利用されなかった資料を使って解明し、研究方法も自然科学・人類学・民俗学・人文地理学などの隣接諸科学の方法・視点をとり入れ、人間とこの社会を全体的・具体的に分析しようとしている。この講義では、近年の社会・文化の領域における研究の方法と成果を、上記のようなテーマに即して分かりやすく紹介することを目指す。受講者は歴史における社会や文化の多様性を知るとともに、現代社会を構成する歴史・文化的基盤への理解を深めることができる。	
	基礎心理学入門	心理学は、人間の精神活動や行動を科学的な方法を用い、実験・調査・観察によって客観的なデータを得ることにより心・行動を解明する学問と体系化している。心理学は大きく分けて、基礎・実験的領域、および応用・実践的領域に分けることができるが、本講義では、基礎的・実験的領域に関連する心理学を概説する。本講義を通じ、「直感や思いこみで心を語るのではなく、客観的・実証的な手法で解明する」という縛りを自らに課した心理学のアプローチの重要性・面白さ・難しさ等の理解を深める。	
	応用心理学入門	心理学は、人間の精神活動や行動を科学的な方法を用い、実験・調査・観察によって客観的なデータを得ることにより心・行動を解明する学問として体系化している。心理学は大きく分けて、基礎・実験的領域、および応用・実践的領域に分けることができるが、本講義では、応用・実践的領域に関連する心理学を中心に概説する。理論にとどまらず、できるだけ具体的に、日常生活でのできごとや社会的現象なども取り上げながら、さまざまな分野へ広がりを見せる心理学を解説する。	
	哲学	本講義の目的は、哲学的な考え方の初歩を解説し、人文・社会科学一般への知的関心を刺激するとともに、そもそも、身の回りの事柄について疑問を抱き、それについて、考えとはどのようなことか、また、それによってどのような地平がひらけ、さらに、考えている自分自身について、どのような見方ができるのか、学生に理解してもらうことにある。具体的には、西洋哲学古来の普遍の本質についての問い、近世以来の主体や自我についての問いがどのようなものであったのか、またそれが現代哲学においてどのように問い直されたのかを解説することが、本講義の内容である。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文科学 基礎科目	倫理学	倫理とは、狭義には、人に対して「していい・いけない」という区別を核とする行動規範(狭義での道徳)であるが、広義には、「どういう人でありたいか」「どう生きるべきか」という間にかかわる規範をも包括する。この授業では、わたしたちが日々下している道徳判断に即して、倫理とはそもそもどのような規範であり、合理性や効率性といった規範とどう関係しているのか、といった問題を検討する。各自が習慣的にやってきた道徳判断について、主体的にとらえかえすことを目標としている。	
	論理学入門	論理学では、「仮定や前提から、演繹的に正しい仕方 で結論に到達する」ということが、どのようなことなのか、それを支えている原理やメカニズムがどのようなものか、を明らかにする。この講義では、そのための基本的な技法として、(1)命題論理の形式言語を構成し、形式言語を使用することの意義を確認し、論証構造の抽出方法を講義する。さらに(2)論理結合子の真理関数的解釈に基づいて、妥当な推論の判別方法の習得を目指す。また、命題論理における妥当な推論を選別する方法として、ゲンツェンによって開発された自然演繹の方法を解説し、そこでの具体的な証明方法の習得を目指す。	
	ことばと論理	命題論理における妥当な推論を選別する方法として自然演繹の方法を解説し、その上で、命題論理の言語を一階述語論理へと拡張する。これによって、日本語文の一階言語への翻訳方法を習得し、日本語文の背後にある論理構造の抽出方法を学ぶとともに、一階述語論理の自然演繹体系での証明を独力で構成できるようにする。さらに、非古典論理の一部、様相論理や多値論理、直観主義論理を取り上げ、メタ論理的な概念への入門を試みるとともに、論理学成立のための諸前提を哲学的に検討しながら、ことばと論理の間の関係を考えていく。	
	芸術学入門	この講義は、芸術とは何かという「芸術の本質」を探求する入門的な概論である。つまりこの講義の目的は、例えば諸々の具体的な芸術作品の分析を通じて、歴史的な時代背景やこのジャンル以外の学問分野との連関を探ることによって、一つの芸術ジャンルにはとどまらない広い文化的構造において「芸術の本質」を見通しうるような視点を習得しうるようにすることにある。そのために、様々な芸術作品に言及しつつ、できるだけ理解しやすい説明で進行する。	
	異文化理解の人類学	文化人類学は、フィールドワークすなわち長期にわたる住み込み調査を特徴としてきた。いわば、身をもって異文化を体験することが出発点になる。そのようにして異文化接触の現場で得てきたさまざまな知識、すなわち、衣食住にはじまる暮らしの基本要素や、家族や近隣などの人間関係のあり方、経済、政治、宗教等々の事象について、さまざまな社会と文化の具体的な諸様態を紹介しつつ、人類の社会と文化のあり方について考えていく。	
	ジャーナリズムと現代	いまや誰でもが世界に向けて情報発信が可能な時代である。だからこそ、その溢れかえる情報のなかから必要な情報を取捨選択し、理解し、発言する力が求められている。そのためには、身の回りにあるさまざまな「メディア」、携帯やパソコン、テレビやラジオ、新聞や雑誌、さらには映画や舞台などについて、そのなりわいや社会的意味合いを改めて考え、理解することが大切である。同時に、デジタル・ネットワーク化がメディアを通じて社会に与える個別具体的な影響や、コミュニケーション理論の基礎的修得を通じて、現代日本における「ジャーナリズム」とは何かについてのイメージを、各自が持つことができるようにする。	
社会科学 基礎科目	日本国憲法	憲法の重要性は、国の「最高法規」であり、かつ「人権保障の基本法」という点にある。近・現代の憲法は、基本的人権の保障の条項と、権力分立を定める政治(統治)機構の条項の部分から成り立っているが、両者は密接な関係にある。すなわち、基本的人権の保障とは、国家権力による人権侵害に対する保障を意味し、その保障を確保するために、権力を立法・行政・司法にわけ、異なる機関に分立させているのである。この考え方を「近代立憲主義」と言い、この原理に基づいて制定された憲法を「近代憲法」とよぶ。この講義では、身近な政治・社会経問題や実際に裁判で争われた事件を素材にして、日本国憲法の人権保障と権力分立の仕組みを考察する。	
	法と社会	人間は、いつの時代でも、いかなる地域でも、他者との関わりなしに生きることができない社会的存在である。そのような人間の社会では、様々な規範(ルール)が必要となる。「社会あるところ、法あり」といわれる所以である。本講義では、法学に初めて接する人を対象に、社会における法の意義や役割、法の基本思想、法の実現のための裁判制度について学ぶ。とくに現代社会は、技術発展、価値観の多様化、家族のかたちの変化など、伝統的なものから多くの変容を余儀なくされている。このような社会の変化に応じて、法のあり方も大きく変容してきている。現代社会が抱える諸問題に対して、法学の視点からアプローチできるようにするための力を涵養することも本講義の重要な課題である。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	社 会 科 学 基 礎 科 目	政治学入門	本講義は、権力、自由といった政治学の基礎的概念や、選挙、政党、議会、官僚制といった政治制度・政治集団の原則や行動パターンを理解するための、まさに政治学入門講義である。他の人文・社会科学(文学、経済学など)に対する知的関心や学習意欲を側面から鼓舞することを目的としている。政治学的な発想という眼鏡をかけて眺めてみることによって、国内政治、国際政治、身近な組織の運営などを、それまでとは違った角度から観察する。それらの基礎的な学習を踏まえ、国内政治、国際政治についての最新の事態と動向を確認しながら、現状の問題点についても考えていく。
		政治の世界	一口に「政治」を学ぶと言っても、北米、南米、欧州、アジア等々、地域によってその実態は様々である。本講義は、そのような多様な政治の世界を理解するために、地域研究的な視点並びに歴史分析的視点を用いて、各国の政治の実態を知り、考えることを目的としている。具体的には、女性の活躍度合という視点で複数の地域の政治を比較分析したり、政治学の古典的なテキストで展開されている分析視角を用いて過去並びに現代の政治現象の意味を考えたりするといった、様々な課題にチャレンジしていく。
		地理学への招待	初学者を対象とする講義形式の科目で、地理学が地表の科学として、環境・景観・地域とそこに展開する空間現象を研究対象とすることを示し、その説明と分析の方法についての理解を深めてもらうことを目的とする。とりあつかうテーマは自然・人文にわたる現象・事象であり、両者に通底する知的体系に気づくことによって、これまでとは違う地球観や世界観に接近してもらえるよう解説する。対象を捉える視角として、位置、距離、分布とその要因、地表(気圏・地圏・水圏)と地表形成営力、地域と地域構造(パターン)・地域区分、景観と生態、起源と伝播(拡散)、時空間と動態などを用いる。
		社会学入門	講義形式。本講義は、「社会的理解の基礎を学ぶ」を講義の基本テーマとし、社会的な「ものの見方」「発想」「方法」「概念」「理論」等に関する履修者の関心や基礎的な理解を身に付けることを目的とする。ただし社会学は、多種多様な現実分析の「発想」「視点」「理論」「方法」を含むので、あくまでも本講義では、各講義担当者の専門領域での研究成果を尊重しつつ、各専門領域における多様な個性的な研究成果を生かした講義を展開することで、履修者には、最終的に、「社会学とは何か」に関する基礎的な理解の習得を促すことを意図している。
		現代の社会学	講義形式。本講義は、「社会的理解の基礎を学ぶ」を講義の基本テーマとし、社会的な「ものの見方」「発想」「方法」「概念」「理論」等に関する履修者の関心や理解を深めることを目的とする。講義担当者の専門領域での研究成果をもとに、多様な個性的な研究成果や研究知見に関する講義を行うことで、最終的には社会的な発想や視点、社会学の基礎概念、方法論、理論、研究事例等に関する履修者の理解を深めることを目的とする。講義担当者の研究内容に則しつつ、社会学の研究事例に関するより発展的で深い理解を促すことを目的とする。
		社会科学論	社会を形作っている基本的な制度や組織等と、そこで生きている人びとの営みを分析対象とする社会科学は、ホッブズ、ロック、アダム・スミス、マルクス、ヴェーバー、ケインズ、ハイエクといった多くの先人による理論構築を経て、客観的・批判的検討を行う「科学」として昇華されてきた歴史がある。この科目では、社会科学における方法論を素材として取り上げ、1)「社会」を対象とする社会科学がどのようにして科学として発展してきたのか、その歩みを理解すること、2)「自然」を対象とする自然科学との方法論の違いや、社会科学の諸領域における方法論の異同について理解を深めていくことなどを目的とする。
		社会思想	われわれの生きている現代の政治・経済・社会領域で、当然と思われている共通規範—例えば政治における権力分割と民主主義、経済における合理的資源配分、社会における諸個人の自立とつながり—これらは、近代の生成とともに前近代の思考枠と戦いつつ培われてきたものである。「社会思想」では、近代の淵源をたどり、そこからさかのぼって現代へと至る歴史の中で、その節目節目に現れて現代に通底する諸思想を紹介し、さらには現代までに形成された価値(幸福、自由、平等、正義、共同体、民主主義など)を再検討し、現代と将来に生きる学生たちの社会知性の涵養を目指す。
		教育学入門	教育とは何か、子どもが育つとはどういうことか、そうした問いを念頭におきながら教育という営みについて知ろうというのがこの授業である。近代社会の教育のひとつのエポックは学校の登場だ。子どもが学び育つプロセス、人が新たな知見と感動を手にするプロセス、そうした営みを集約的に展開させる場として、近代社会は学校を用意した。家庭と社会と学校の連携の中で子どもたちはどのように育っていくのか、あるいは育っていくのがよいのか。子どもたちの育ちを観察し、そして思索してきた先人たちの英知と苦悩に学ぶ。
		子どもと社会の教育学	学校、家庭、地域コミュニティ、そして国家も含めて、社会全体を視野に入れるスケールで教育にアプローチしてみようというのがこの授業である。ある社会が教育をどのように構想するかは、その社会のさまざまな理想と利害と力関係の集積としてある。この授業では、近代の教育が国家や地方の政治が関与しながら制度化されたものとしてあるということを念頭に、教育を制度構想、組織経営、政策分析においてみていく。社会を変化させる可能性を持つ学校が、同時に既存の社会の枠組みを再生産する装置としても機能していることをみてもこれらの関係は単純ではない。ぜひ、教育と社会の相互関係のダイナミズムに触れて欲しい。

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 自然科学系科目	自然科学実験演習1	我々の身の周りの「科学」を、実験と演習、講義形式を織り交ぜて論じる。講義だけでなく少数人数での実験や演習を行うことで、知識の伝達だけでなく、実験手法、客観的な観察の方法、データの解析法、科学的な思考法、レポートの書き方、発表の方法を総合的に身につけることを目的としている。本科目では物理学、化学、生物学、地学の全ての自然科学の内容を含む。具体的なテーマとしては天体観測、繊維の染色実験、医薬品の合成実験などを行う。	
	自然科学実験演習2	我々の身の周りの「科学」を、実験と演習、講義形式を織り交ぜて論じる。講義だけでなく少数人数での実験や演習を行うことで、知識の伝達だけでなく、実験手法、客観的な観察の方法、データの解析法、科学的な思考法、レポートの書き方、発表の方法を総合的に身につけることを目的としている。本科目では物理学、化学、生物学、地学の全ての自然科学の内容を含む。具体的なテーマとしては食品に含まれる物質に関する実験、音や光に関する実験、人の感覚に関する実験、生物の代謝に関する実験などを行う。	
	生物科学1a	生物体の基本単位となる「細胞」について、その造りや営みを理解させることは、生物学教育の最もベーシックで、しかも核となるところである。本科目では、主に細胞学の立場から生命現象が現れる仕組みを教授することに重点を置く。例えばミトコンドリアにおける好気呼吸や葉緑体における光合成のように、細胞の構造と機能は見事なまでに表裏一体となっていて、その巧妙さは生物進化40億年の過程で獲得されたものである。この科目を通して生命の素晴らしさと尊厳に対するより深い認識と眼差しを育むことを目指している。	
	生物科学1b	生物学教育におけるもう一つの重要な柱は、DNAと遺伝子についての理解を深めさせることである。本科目では遺伝学の立場から生命現象が現れる仕組みを講ずることに重点を置く。遺伝子はタンパク質を作り出し、そのタンパク質が生命現象を引き起こす役割を演じる。発生と老化、さらには進化に至るまで、遺伝子レベルの研究からその謎が解明されつつある。本科目では遺伝学の古典から近年の研究成果に至るまで幅広く取り扱うことによって生命への畏敬を深め、ハイテク時代を生きる我々が避けて通ることのできない遺伝子操作や生命倫理などの諸問題とも向き合い、人間の未来を正しく選択していくための素養や考える力を養うことを目標とするものである。	
	生物科学2a	この講義のテーマである地球における生物進化を学ぶにあたって、重要な観点が2つある。1つは地球上で進行した進化の事実を知ることであり、これは、化石の研究や、現生生物がもつ様々な機能の比較、そして生物がもつ遺伝子であるDNAの比較による系統の解析(分子系統解析)によってなされる。もう1つは、なぜ進化が起こったのかを知ることである。ここでいう「なぜ」とは、進化が起こる自然界のメカニズムを指している。遺伝子DNAがもつ特性から生じる遺伝的変異の発生と、生物個体の生存率と繁殖率に作用する自然選択がこのメカニズムの両輪である。この講義では、この2つの観点を正しく区別しながら、生物進化を広く理解しようとする。	
	生物科学2b	この講義の目的は、生物学の一分野である生態学の基礎を学ぶことである。生態学の目的は、なぜその生物は、その場所に、それだけの数、存在するのか、に答えることである。野外調査や実験操作を行う生態学は机上の学問ではない。しかし、数理解析のような理論的研究も行われる。生態学は古くから個体群生態学と群集生態学に分けられてきたが、近年、これに生態系生態学が加わり、このような基礎生態学の応用として環境科学や保全生態学も加わるようになった。この講義では、微生物、動物、植物など、地球上に存在する様々な生物たちの生物相互間の関係や、生物と非生物的環境との関係がどうなっているのか、またそれらをどのように研究するのかを学ぶ。	
	生物科学3a	生物科学3aは「生き物としての人間」という観点から、まず他の動物と共通する遺伝子や細胞レベルの基本的な生命現象を理解した上で、ホメオスタシス維持の理解を目的に、消化・吸収、内分泌機能などの器官レベルの生理機能を学ぶ。次に誕生から死に至るまでの生物学的に考えるヒトの一生、さらには集団として生活していることの意味や、このことに伴って生じる問題についても考える。また「ヘルスリテラシー」を念頭に、例えばアレルギーなど免疫系の疾患、患者数の多い糖尿病について発生機序に基づいた予防策、疾病に付随する社会的な問題に対して医学的な側面から学生に問題提起を行う。	
	生物科学3b	生物科学3bは「生き物としての人間」という観点の中で、他の動物と一線を画す脳の機能を中心に論じる。まず脳の素子である神経細胞の情報処理のメカニズム、内外の環境変化を検出する感覚機能のメカニズムなど他の動物とも基本的には共通する機能について学ぶ。次に、言語や精神作用など人間の特徴である脳の高次機能について、他の動物と比較しながら理解する。また進捗著しい学習や記憶のメカニズム、さらには神経回路の機能不全として認識され治療されるようになってきた、いわゆる「こころの病」などへの神経科学的な理解も扱う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 自然科学系科目	宇宙地球科学1a	本講義では「宇宙へのアプローチ」をテーマとして、人と宇宙の関わりを軸に、時代による宇宙像の変化や、さまざまな観測手法・立場から見える多様な宇宙について講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、(1) 宇宙・太陽系の構造を理解し、目に見える天体の動きを説明できる、(2) 人類の宇宙への様々なアプローチを学習し、観測方法による違いを踏まえて、その目的を理解することが出来る、である。この目標を達成するために、宇宙の構造、天体の運動と見かけの動き、観測手法とその変遷、宇宙の理解に対する天文学の進展について、最新の観測結果やデータの解釈も踏まえつつ、論ずる。	
	宇宙地球科学1b	本講義では「宇宙・太陽系のすがた」をテーマとして、最新の宇宙探査で明らかになった太陽系のすがたや、現在の宇宙像について講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、(1) 現在までに明らかになっている太陽系天体のすがたを学習し、それぞれの特徴を説明できる、(2) 恒星の進化および銀河系の構造、さまざまな銀河の存在を理解し、宇宙についての時間的空間的な広がりをイメージすることが出来る、である。この目標を達成するために、恒星の性質や誕生と進化、銀河の誕生と進化、太陽系の諸天体の科学的な特徴について、最新の観測結果やデータの解釈も踏まえつつ、論ずる。	
	宇宙地球科学2a	固体地球科学の基礎を講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、固体地球科学に関して、(1)用語を理解し、正しく用いることができる、(2)プレートテクトニクス・地震・火山活動に関する法則・原理、およびその根拠を理解し、説明することができる、(3)実際の観測結果や観測データ、モデルに基づいて、プレートテクトニクス・地震・火山活動を説明することができる、である。この目標を達成するために、現代の地球科学の基本概念であるプレートテクトニクスの理解を中心に、地球の産状・内部構造、大陸移動説と海洋底拡大説、マグマ形成プロセス、地震・火山と災害について論ずる。各々の事象を単に網羅的に論ずるのではなく、実際の観察・データの解釈やそれに至る歴史的背景も踏まえつつ、論ずる。	
	宇宙地球科学2b	地球史と現在の地球環境について講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、地球史に関して、(1)地球誕生以降、環境がどのように変遷してきたのかを理解し、説明することができる、(2)環境の変化が生じた過程とそう推定される根拠を理解し、説明することができる、(3)過去の環境の変化と現在の地球環境の関連について説明することができる、である。この目標を達成するために、地球史を編むために必要な年代決定や古環境の代理指標で用いられる同位体の知識を基礎としつつ、地球46億年の歴史を概観する。特に、地球進化・生命進化上重要なイベント(地球の誕生、生命の誕生、大陸の進化、全球凍結、生命の繁栄と絶滅)を取り上げ詳細に論ずる。また、現在の地球環境を考える上で重要である顕生代(特に中生代・新生代)の気候変動や資源の問題について、海洋学の成果も含めて論ずる。	
	化学1a	化学の基礎を講義形式で論ずる。化学は物質の科学であり、物質の構造、物性、反応を探求する分野であるが、化学1aでは主に物質の構造について論ずる。化学における基礎的知識や概念を説明することができ、化学の観点から物質の性質や身の回りの自然現象について理解を深めることを目指す。内容としては化学の出発点である原子とその構造、分子、元素の周期表、化学結合などである。原子という肉眼では見えないミクロな粒子が100種類ほどの元素に分類され、それらが結びつくことでできた物質の性質が、原子や元素、化学結合によって説明されることを論ずる。	
	化学1b	化学の基礎を講義形式で論ずる。化学1bでは主に物質の反応と物性について論ずる。化学における基礎的知識や概念を説明することができ、身の回りにおける様々な物質の性質や身の回りで起こっている化学反応について、化学的な視点から理解を深めることを目指す。内容としては代表的な化学反応である酸化還元反応、化学反応の根底にあるエネルギーの概念、物質の状態、代表的な化学の概念である酸や塩基、近年現代社会を支える重要な素材となったプラスチックの特徴や物性などを論ずる。身の回りや自然界で起こる変化がなぜ起こるのか、我々が現代社会を構築する上で化学反応や新素材をどのように利用しているのかを化学的な視点から論ずる。	
	化学2a	現代社会における化学の役割を講義形式で論ずる。化学が現代社会のあらゆる場面で利用され、また貢献しているかを説明することができ、化学の視点・思考法によって科学や技術への理解を深めることを目指す。扱う内容としてはセッケンや洗剤などの界面活性剤、繊維や繊維を染める色素、食品添加物のような日常生活と化学の関わり、フロンや水銀、窒素酸化物などの環境汚染物質、地球温暖化問題など、環境と化学の関わりなどである。いずれの内容においても現代社会が化学によって支えられ、また現代社会が抱える問題が化学によって解決されることを論ずる。	
化学2b	現代社会における化学の役割を講義形式で論ずる。化学が現代社会のあらゆる場面で利用され、また貢献しているかを説明することができ、化学の視点・考え方による科学や技術の理解を深めることを目指す。放射性物質や原子力発電、廃棄物の処理とリサイクル、省エネルギー技術などエネルギー問題と化学の関わり、医薬品やビタミン、アミノ酸とタンパク質、呼吸と光合成など、生命と化学の関わりなどが主な内容である。いずれの内容においても現代社会が化学によって支えられ、また現代社会が抱える問題が化学によって解決されることを論ずる。		

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 自然科学系科目	物理学1a	物理学の基本的な考え方の一つである力学を中心に学ぶ講義科目であり、身近な自然現象を理解していく方法や物理学的な自然観を身につけることを目標とする。ニュートン力学や万有引力などにより、自由落下や潮汐現象などの身近な自然現象から惑星の運行といった極めて大きなスケールの問題まで統一的に理解できることを学ぶ。さらに、ニュートン力学を超えた体系である相対論の初歩にも触れ、物理学がいかに自然現象を体系化してきたかも学ぶ。	
	物理学1b	物理学の基本的な考え方の一つである波動、原子や電磁気学を中心に学ぶ講義科目であり、身近な自然現象を理解していく方法、物理学的な自然観を身につけ、その応用技術を理解する力を養うのを目標とする。波動・原子では音、光で起きる身近な自然現象を学ぶとともに、見ることができない原子の世界でも波動性と粒子性(量子性)が重要になることを学ぶ。また、電磁気学では、身近な現象や電化製品の動作原理を通して、電磁気学が身近に広く応用されていることを学ぶ。	
	物理学2a	現代物理学の中核をなす相対論や統計力学について学ぶ講義科目であり、現代的な自然観や物理学的な思考法を身につけることを目標とする。相対論では、時間や空間、エネルギーや質量、重力の現代的な姿を理解し、それをもとに、ビッグバンやブラックホールなどの宇宙論を理解する。一方、統計力学は、複雑に絡み合う非常に多くの粒子からなる系を扱う方法を学び、熱とエネルギーの関係、エネルギー変換、環境問題を物理学の観点から理解する。これらを通して、現代物理学的な自然観や思考法が、現代社会を思想的な側面から現実的な側面まで如何に変革してきたかをも学ぶ。	
	物理学2b	現代物理学の一つの中心的課題は、物質の構造を探求することである。20世紀において、原子、原子核、クォークと探求が続き、それは、ビッグバン後の宇宙における物質創生のシナリオの解明につながっている。一方、原子核の発見は、相対論・量子論と相まって、物質内部に存在する莫大なエネルギーを解放させることにつながり、原子爆弾や原子力発電の開発へと応用されていった。本講義科目では、現代物理学がもたらした新しい物質観やその応用として、電力とエネルギー、原子力発電について学ぶ。その基礎となる、量子論、相対論の内容も含む。	
	数理科学1a	数理的論理思考力を養うことを主要な目的とする。内容は、広い意味の代数とする。身近な生活や社会で使われている数学を題材に、その数学的理論の理解を目指す。また近年は社会科学や情報科学など様々な学問分野において数学的知識は必要不可欠であるため、他分野への応用を念頭に置いた講義を行う。数学は体系的な学問であるので、理論を理解するためには基礎からの積み重ねが重要である。高校までの数学で学修した初歩的な知識を出発点に、受講者の理解を確かめながら授業を進める。	
	数理科学1b	数理的論理思考力を養うことを主要な目的とする。内容は、広い意味の代数とする。身近な生活や社会で使われている数学を題材に、その数学的理論の理解を目指す。また近年は社会科学や情報科学など様々な学問分野において数学的知識は必要不可欠であるため、他分野への応用を念頭に置いた講義を行う。数学は体系的な学問であるので、理論を理解するためには基礎からの積み重ねが重要である。基礎的な知識を十分に復習しつつ、「数理科学1a」を踏まえた発展的な内容にも触れる。	
	数理科学2a	この科目では、広い意味での解析学・幾何学を取り扱い、数学の問題を通して論理的思考力を養うことを主要な目的とする。 具体的には、位相幾何、非ユークリッド幾何、フラクタル幾何、複素平面、関数論、確率論などの分野から、受講者にとって、興味をもてて適切と思われる題材を選んで講義をする。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目では基礎的な部分に重点を置いて講義する。	
	数理科学2b	この科目では、広い意味での解析学・幾何学を取り扱い、数学の問題を通して論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には、位相幾何、非ユークリッド幾何、フラクタル幾何、複素平面、関数論、確率論などの分野から、受講者にとって、興味をもてて適切と思われる題材を選んで講義をする。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目では「数理科学2a」を踏まえ、より進んだ発展的な内容を講義する。	
	数理科学3a	この科目では、現代社会において必要不可欠な学問である統計学を取り扱い、データ分析の基礎知識、および論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には、平均、標準偏差の定義や、グラフ表現を与えるという記述統計から始める。さらに、推測統計の導入として確率分布の話題を取り扱い、主要な確率分布の性質を紹介する。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目ではデータ分析の基礎的な部分に重点を置いて講義する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然科学系科目	数理科学3b	この科目では、現代社会において必要不可欠な学問である統計学を取り扱い、データ分析の基礎知識、および論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には、標本分布論、推定論、検定論という推測統計の主要な話題を取り扱う。また、ベイズ統計や機械学習などの中から、受講者にとって、興味がもてて適切と思われる題材を選んで講義をする。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目では「数理科学3a」を踏まえ、より進んだ発展的な内容を講義する。	
	科学論1a	実証主義に基づく現代科学の本質およびその方法論について講義形式で授業展開する。到達目標は以下の2つ。(1)現代の科学の根幹は実証主義にあり、観測や実験を通じて自然法則や基本法則の探求を目指している。その方法論が導入された歴史的な経緯を様々な科学史的な事例を通して学び、その科学的方法論の本質について理解すること。(2)科学的方法論が現代の実生活/実社会においてどのように適用、応用されているかを認知すること。科学論1aにおける授業計画としては、次の2つのテーマを主な題材とする。(1)自然淘汰による適応/進化論について、人類がどのような紆余曲折を経て正しい理解へと到達してきたのか(2)宇宙の巨視的な構造を人類がどのように認知してきたのか。	
	科学論1b	実証主義に基づく現代科学の本質およびその方法論について講義形式で授業展開する。到達目標は以下の2つ。(1)現代の科学の根幹は実証主義にあり、観測や実験を通じて自然法則や基本法則の探求を目指している。その方法論が導入された歴史的な経緯を様々な科学史的な事例を通して学び、その科学的方法論の本質について理解すること。(2)科学的方法論が現代の実生活/実社会においてどのように適用、応用されているかを認知すること。科学論1bにおける授業計画としては、次の2つのテーマを主な題材とする。(1)集団で生活し、コミュニティーを形成する動物の社会性について、人間のそれと比較し、動物としての人間とはなにか、あるいは人間性とはなにかを考える(2)自然界の極微の世界、すなわち原子や分子、素粒子の世界を人間はどのように認知してきたのか。	
	科学論2a	近代日本に特有の科学の理解の仕方とその歴史的背景を説き起こし、西洋科学の長い歴史をたどる中から成立の由来を探り、さらに近代科学に基づいた技術の力強さの秘密とそれが抱える問題点に言及する。そして科学がいかなる構造と射程をもつ知的営みであるのかを解説する。最後に高度な科学技術が制度化された現代社会が抱えている困難な諸問題について具体的事例を取り上げて論じる。個人個人の判断が迫られる現代社会においては、一人一人が科学的素養に基づき、適切な判断や選択をする必要がある。そのため、この授業では、受講生が、科学的知識に対する理解、科学的なものの考え方を身につけることができることを到達目標とする。	
	科学論2b	講義では人間を対象としていることから、生命はどのように誕生するのかといった人間の内的環境が研究対象となる点で、生命の尊厳と深くかかわる。講義では「生命とは何か」、「ヒトはどのように進化してきたのか」、「地球環境問題と人間社会の持続的発展に必要なものは何か」、「高齢化社会と人口問題」、「生物多様性保全」など、生命科学に関わる重要な諸問題を理解するための知識と、科学的考え方を身につけるため、生命科学に関する基礎的知識を学習した後、続いて生理的側面から現代社会が直面するヒトの生命に関わる課題に対する理解を深め、そして、生命倫理や生命技術、生物多様性と生態系の保全といった現代社会と地球環境に関わる課題についても、生命科学的視点から論じる。	
	融合領域科目	学際科目1	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)東アジア世界がどのように形成されたかを説明することができる。(2)中国大陸・日本列島・朝鮮半島の古代文化の相違点と共通点を理解することができる、を到達目標とし、地域の多様性を示すひとつとして、東アジア世界を取り上げ、この東アジア世界が内部に多様性をもちつつも、ひとつの世界としてどのように形成され、変化していったのかについて講義形式で論ずる。
学際科目2		この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)東アジア世界の近代化を説明することができる、(2)東アジア地域における今日の課題を考察することができる、を到達目標とし、地域の多様性を示すひとつとして、東アジア世界を取り上げ、この東アジア世界が内部に多様性をもちつつも、ひとつの世界としてどのように変化していったのかについて、講義形式で論ずる。	
学際科目3		この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、法と社会に潜む「ジェンダー(社会的性差)」に気付き、自発的に「ジェンダー的知性」を開発できるようになることを到達目標とし、「ジェンダー」という言葉から始まり、何故、それが当たり前のものとして社会に存在してきたのかについて、歴史から探ったうえで、法や社会のあらゆる場に存在する「ジェンダー」を知り、社会構造そのもののあり方、について講義形式で論ずる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目 融 合 領 域 科 目	学際科目4	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、ユニバーサルデザインやアクセシビリティ、ジェントロジーについての学習を通じて、(1)社会における高齢者や障がい者も含めた多様な人々が社会に参加する手段を踏まえることができる、(2)情報化社会で多様な人々がコンピューターやネットワークの恩恵を受けるために必要なことを考えることができる、(3)超高齢社会において必要な解決策に貢献することができる、を到達目標とし、高齢社会における課題を分析し、解決を目指す学問分野であるジェントロジーについて紹介した上で、超高齢社会における課題解決策の中からユニバーサルデザインとアクセシビリティについて、アクティブ・ラーニングも取り入れながら、講義形式で論ずる。	
	学際科目5	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、パラスポーツ(障がい者スポーツ)に関心を持ち、そこにある課題を抽出したり、障がい者に対する日本の取り組みの課題点を探ることにより、解決のための具体的な方策を提案できる、を到達目標とし、パラスポーツ実践者や精通する専門家から、パラスポーツやそれを取り巻く現状、各々が直面している課題について解説してもらい、課題解決の方策を考える。	
	学際科目6	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、人類と自然環境との関連について、各専門分野の研究結果を知るとともに、より巨視的な観点から人間と自然環境の関わりを論じられるような多角的・総合的な見方を身につけられることを到達目標とし、人文科学・自然科学の立場から人類の文明論を踏まえた上で、人類の営みが自然環境と接触する場面を各分野の観点から、講義形式で論ずる。	
	学際科目7	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、映像、映画といったメディアに対して、裏に潜んでいるメッセージを探り出し、隠されている意味や意図を読み解くことができる、ことを到達目標に、初期から今日に至るまでの映像表現の変遷を概観した上で、具体的な作品、テーマに従って作品を取り上げ、そこにおけるメッセージ性、文化、言語の問題(たとえば字幕)、隠された主題等を読み解きながら、今日的な映像表現のあり方を講義形式で論ずる。	
	学際科目8	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、普段、ふつうに目に触れたままになっているものや、見過ごしているもの(自然・民話・アニメ・食事・インターネット・ゲーム・新聞雑誌など)に対して、視点をずらして、そこにもう一度関連性等を探ることによって、隠れていた意味を見出すことができる、を到達目標に、さまざまなテーマ、素材に触れながら、単に情報としてではなく、そこに自分なりの意味を見出し、さらに解決すべき問題を設定できるよう、講義形式で論ずる。	
	学際科目9	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、アジアの思想の基本を理解すると同時に、それにおける身体観を理解し、身体の問題を自分自身でも考えられるような問題意識を持つことを到達目標とし、アジアの身体観を考えることによって、身体を精神と切り離して考えたり、機械的な部分品の集合と考えたりしがちな私たちの身体観を再考するしつつ、日本や西欧の身体観とも比較しながら、アジア的な身体観の特徴について、講義形式で論ずる。	
	学際科目10	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)ベトナムの経済及び産業・社会・文化の情勢について理解すること、(2)ベトナムの現況について説明できることを到達目標とし、現代のベトナムへの理解を深めるために、ベトナムの現況を経済、産業、社会、文化など様々な分野から検討し、ベトナム社会のあり方を学際的、かつ実証的に明らかにする。本講義は講義形式で行われる。	
	学際科目11	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義は、(1)グローバル化の現状と課題を理解し、「持続可能な消費」のあり方を能動的に考えることができる、(2)ロジカルシンキングの手法を身につけることができる、(3)チーム内の合意形成の手法を身につけることができる、を到達目標とし、生活および生活者が直面するグローバル化のメリットとデメリット、生じている課題を生活者・市民の視点に立って検証する、「持続可能な消費」を兼ね備えた「豊かな社会」のあり方について、講義のほか、ワークショップやグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングも取り入れた形式で行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 融合領域科目	学際科目12	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義は、(1)メディアコンテンツの産業・市場・政策、(2)メディアコンテンツの事業の設計と運用(製作)、(3)メディアコンテンツの表現・制作工程と技術について、具体的な事例を通して理解できる、を到達目標とし、メディアコンテンツ領域の総体を、表現・制作、製作・事業プロデュース、産業・市場、政策、技術など専門的な視点からのアプローチを通して学習していく。講義形式で行うが、ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングも取り入れた形式で行う。	
	テーマ科目	この科目は、新しい領域のテーマに柔軟に対応することや特定の学問領域の理解を深め、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。(1)「環境」概念や環境思想の歴史の変遷を理解し、自分の言葉で説明できる、(2)「環境」概念や環境思想の発生と変化の背後にあった、政治的・経済的・社会的な要因を理解することで、ヨーロッパとアメリカの社会が近代以降どった歴史的变化を理解できる、(3)「環境」や「自然」という概念について、歴史的な知識に基づく自分なりの理解を形作る、を到達目標とし、世界的に大きな影響を及ぼした、ヨーロッパとアメリカにおける環境思想の発展を中心に、その歴史を講義形式で概観する。	
	新領域科目1	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)専修大学の歴史について概略を説明できる、(2)専修大学が誰によって、どのような目的で設立されたのかを説明できる、を到達目標とし、専修大学の歴史のみならず、日本近現代の政治・経済・社会・文化において大学や学生がどのような役割を果たしたのかについて、講義形式で論ずる。	
	新領域科目2	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)大学卒業時に学生が自身の働き方を選択するにあたり、より広い選択肢を認識できる、(2)パラレルワークに代表される次世代の働き方の意義を理解できる、(3)自らのキャリアに関心をもち、必要な内容に関しては自ら調べ、考える態度を持つ、を到達目標とし、将来の職業選択の考え方のフレームワークを身につけるために、講義形式とディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングも取り入れた形式で行う。	
	新領域科目3	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)海洋と人文科学・社会科学との関連について理解し、説明することができる、(2)海洋の自然科学的な性質や特徴を理解し、説明することができる、(3)海洋を取り巻く諸問題を取り上げ、その解決策を提案できる、を到達目標とし、地球環境のみならず、文化や政治・経済の面で人間生活に大きな影響を与える「海洋」について、講義形式で論ずる。	
	新領域科目4	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)スポーツデータを中心としたビッグデータの活用事例を理解する、(2)人口統計データの分析を通して高齢化社会の経済と諸問題を理解する、(3)機械学習による予測手法の概要と使用法を理解する、(4)問題解決にあたってビッグデータ活用を計画し実践できる、を到達目標とし、現代社会の諸領域のビッグデータの理解と融合することで統計リテラシーを高め、人口統計データの分析方法や機械学習による予測手法を学ぶことでビッグデータ活用を身近な課題と捉えてデータの収集分析から問題解決につなげる方法を習得する。講義形式を基本としつつ、統計解析ソフトを実際に用いるなどの形式で行う。	
	新領域科目5	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、眼前のランドスケープの機能や構造を成立させているシステムやメカニズムを捉える様々な論点・見方があることを理解し、ヒト、社会、自然生態系の相互関係を複眼的・総合的に思考できる力を獲得することを到達目標とし、都市域、農村地域、自然公園など、多様な環境特性のもとで展開されている事例を対象に、生態学(植物、動物)、社会学(観光・ツーリズム)、造園学(庭園、公園緑地)、地域計画学(都市・農村)、法制度論など学際的視点から、ヒト、社会、環境との相互関係の理解を深め、持続可能な社会を実現する上での課題について、講義形式で論ずる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
融合領域科目 教養科目	キャリア科目1	本科目は、業界・業種、職業・職種といった「環境の理解」を通して、志望する業界・業種、職業・職種、企業を選ぶ能力の習得を目的とする。具体的には企業組織論や産業論の観点から、今後の企業組織や産業社会の展望の理解を深め、自分のキャリアに対する考え方を確認し、多方面から招く実務者の講義とグループワークで理解の定着を図る。これらから、自らが描いたキャリアデザインを実現できる業界や職種を具体的にイメージし、そのために必要な能力開発する計画を展望できるようにする。	
	キャリア科目2	本科目は、企業が抱える現実の問題の解決方法を考えるプロセスを通じて、仕事を遂行するために必要な能力について理解し、自己のキャリアについて考えを深めることを目的とする。具体的には、協力企業から提示された現実の問題に対しチームで取り組みながら、プロジェクト・マネジメントを中心としたチーム学習および課題解決の技法を用いて問題を多面的に分析し、解決策を提示する。講義ではディスカッションとプレゼンテーションを複数回実施し、定期的に企業の方から感想をもらう。これらを通じて、「キャリアデザインに必要な力」の中で特に「プレゼン力」「論理思考力」「人間関係構築力」「課題解決力」を養う。最後にこのプロセスを通じた学びを自分のキャリアに対する考え方に照らし合わせ、残りの学生生活と自身の将来の進路について具体化する。	
	教養テーマゼミナール1	小人数の相互コミュニケーション的教育を行うことを重視し、「教養テーマゼミナール」を設置している。この「教養テーマゼミナール」は、学部の枠にしばられずに学部横断的に履修することができるので、異なった学部の学生が共に学び、議論をすることができるという特徴がある。研究テーマは自然科学から演劇、スポーツまで幅広く、専門領域を超え、広い視野を身に付けることができる。「教養テーマゼミナール1」では、一次資料の正しい使い方、二次資料の批判的な読み込み方、及び創造的論考の修練を身につけることを目的としている。	
	教養テーマゼミナール2	小人数の相互コミュニケーション的教育を行うことを重視し、「教養テーマゼミナール」を設置している。この「教養テーマゼミナール」は、学部の枠にしばられずに学部横断的に履修することができるので、異なった学部の学生が共に学び、議論をすることができるという特徴がある。「教養テーマゼミナール2」では、「教養テーマゼミナール1」で得た基礎的知識をもとに、自分で掲げた課題についての考察を行うことを目的としている。	
	教養テーマゼミナール3	小人数の相互コミュニケーション的教育を行うことを重視し、「教養テーマゼミナール」を設置している。この「教養テーマゼミナール」は、学部の枠にしばられずに学部横断的に履修することができるので、異なった学部の学生が共に学び、議論をすることができるという特徴がある。「教養テーマゼミナール3」では、これまでに学習してきた資料の取り扱いや、具体的な分析を通じて、各自が独自の視点で、どのように個々の問題にアプローチし、全体的に把握していくかということの問題にし、教養ゼミナール論文の執筆を前提としている。	
	教養テーマゼミナール論文	「教養テーマゼミナール論文」の執筆を求めるこの科目では、それぞれの関心にもとづいて、研究論文をまとめることを求められる。既に学んでいる資料の取り扱い方を基本に、ゼミナールで行っている研修などを元にしたテーマの選択がまずは問題となる。なお、執筆に際しては、個々の学生に具体的な指導が行われる。執筆したものについては、単位認定の他に、年度末に実施される、教養テーマゼミナール論文発表会での発表が求められる。	
保健体育系科目	アドバンススポーツ	授業形態：実技形式。目標：各スポーツの特徴や構造を理解し、さまざまな状況に応じた技術や戦術を選択・実践することでスポーツの楽しみを広げ、生涯に渡り安全かつ健康的な生活を営む能力を養う。概要：スポーツを専門的レベルから学び、幅広い知識と専門性の高い技術の獲得とともにトップアスリートとの交流、審判法やマッチメイク等のマネジメントについての学習などにより、スポーツをライフスタイルの中に取り込み、生涯にわたり身体的、精神的、社会的に健康で豊かな生活を送る能力を身につける。	
	スポーツ論(健康と生涯スポーツ)	授業形態：講義形式。目標：スポーツ・運動に関する知識だけでなく、現代社会における生活習慣も問題点、食生活、ダイエットなどについて正しい知識を身につける。概要：わが国は科学や医学の大きな進歩、発展により平均寿命は世界でもトップの長寿国となっているが、その反面、肥満、高血圧、心理的ストレスといった生活習慣病や環境の変化にともなうストレス等に悩まされる人が多く、現代社会で生活していく人々にとって、いかに健康を維持・増進していくかが大きな問題になっている。どのように健康増進、体力向上に結びつづのか、スポーツ・運動することによってどのような効果が見られるのかを学び、自分自身のよりよい生活を送る方法として生涯スポーツを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 保健体育系科目	スポーツ論(オリンピックとスポーツ)	授業形態:講義形式。目標:オリンピックの歴史的背景や取り巻く環境を理解する。トップレベルのコンディショニングのプロセスを理解する。スポーツ科学を通して人間の可能性について学び、競技スポーツと生涯スポーツとの共通点、相違点を理解する。概要:オリンピックなど世界的な競技力向上を目指すためには、最新の知識やトレーニング方法などの必要性で、スポーツ科学を無視することはできない。また、勝利を得るためには、選手の才能や努力はいくらでもなく、彼らを支えるコーチ、メディカルドクター、トレーナーなどのサポート環境が不可欠である。これらについて、日本と世界における環境の違いを紹介する。オリンピックを目指すコンディショニングについては、科学的手法を用いて主観的感覚を客観的事実として導き出し整理する。本講義では、オリンピックの歴史的背景からスポーツ科学の必要性を見つめ、さまざまな学問的領域から包括的に捉える。	
	スポーツ論(スポーツコーチング)	授業形態:講義形式。目標:スポーツコーチングに関する正しい知識を身につけ、現場で役立てられるようにする。また、現役選手として活動している学生にとっても、有意義なスポーツライフを送ることができるよう、自身のコーチとしての知識やスキルを身につける。概要:コーチには選手を育成するうえで、選手個人やチームを対象に広い視野から身につけておくべき知識やスキルがある。本講義ではコーチング哲学、人格教育とスポーツマンシップ、発育発達と多様な選手へのコーチング、評価活動とコーチング計画の立案、チームマネジメント、コミュニケーションスキル、スポーツ心理学、スキル指導の原則、スポーツバイオメカニクス、フィジカルトレーニングの原理・原則、薬物教育とスポーツ栄養学、スポーツ外傷・障害予防と対策、コーチングへのICT活用など、コーチに求められる知識やスキルを理解し、現場での実践的なスポーツコーチングを学ぶ。	
	スポーツ論(スポーツライフデザイン論)	授業形態:講義形式。目標:運動・栄養・休養と身心との関わりを理解し、将来的により健全な生活を送るための方法を思索し実践することができる。概要:子どもの体力・運動能力の低下とともに、学力・意欲の低下が懸念されている。一方、超高齢少子化社会へと進む中でメタボやロコモの概念が広がり、それらへの対策が課題となっている。近年、運動が身体のみならず、脳や心にも良い効果を生み出す数多くの研究成果が発表され、改めてスポーツのQOL向上への貢献が期待されている。大学生は身体的、精神的に成熟へと向かう発育発達最終段階ともいえる大事な時期であり、社会人として自立した生活を営む準備期間となりえる。スポーツ・運動に関する有益な情報を整理し、客観的なデータを得ながら実践を試み、今を豊かに、そして未来を豊かに生きる力を養うことを目的とする。	
	スポーツ論(人類とスポーツ)	授業形態:講義形式。目標:世界中で昔から親しまれてきたさまざまな身体活動やスポーツの歴史的・文化的背景を学ぶことにより、世界を知り、国際人たる幅広い視野を身につけていく。概要:スポーツや身体活動を人類学・社会学的視点から学ぶ。近代に創られたスポーツがどのような経緯で世界に拡大し、日本でもどのように受容されていったかを捉え、「ヒト」と「スポーツ」あるいは「身体活動」の関わり合いを深く探究し、これまで知らなかった世界の姿を理解し、国際人となるために広い視野をみにつけ、近代社会から現代社会でのスポーツの変容を理解できるようにする。	
	スポーツ論(トレーニング科学)	授業形態:講義形式。目標:スポーツの指導的立場にいたり、将来、スポーツとの関わりを志したりする学生が、スポーツトレーニングに関する正しい知識を身につける。概要:スポーツにおける人間の限界への挑戦は、科学的で合理的なトレーニングが求められ、情報戦、心理戦といった高等戦術が駆使される。勝つためにはどのようなことを心得ておけばいいか。どのような科学的トレーニングや戦術の組み立てをしたらいいか。身体能力を高めるためにはどうしたらいいか。スポーツする「からだ」を直接の対象とし、スポーツを行うときの「からだ」はどのように変化するか。運動という負荷に対し「からだ」はどのように反応し、適応するか。こうした問いをスポーツトレーニングという意味空間に限定し、その根拠を探ろうとする。	
	Basics of English (RL) 1a	入学後に実施するプレイズメントテストの成績に基づき、高校までの学習が十分に定着していないと判断された層に向けた基礎的な演習を行う。英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を得ること、英語を用いて、基本的な情報を正確に読み取り、聴き取ること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。高校レベルの文法の復習・定着と約2,300語の習得を目安とし、大学での語学学修の土台作りをする。	
外国語科目 英語	Basics of English (RL) 1b	高校までの学習が十分に定着していないと判断された層に向けて基礎的な演習を行い、1年次前期に学んだ内容の定着をはかる。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を得ること、英語を用いて、基本的な情報を正確に読み取り、聴き取ること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。高校レベルの文法の復習・定着と約2,300語の習得を目安とし、大学での語学学修の土台作りをする。	
	Intermediate English (RL) 1a	入学後に実施するプレイズメントテストの成績に基づき、高校までの学習成果が一定の基準に達していると判断された層に向け、読解力と聴取力を養成するための演習を行う。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。英語の文法・語彙・音声について実践的な知識を得ること、英語を用いて、情報や価値観を正確に読み取り、聴き取ることができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。Midレベルでは約3,000語の習得を目指し、Highレベルでは4,000語水準に近づく習得を目安とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 英語	Intermediate English (RL) 1b	入学後に実施するプレースメントテストの成績に基づき、高校までの学習成果が一定の基準に達していると判断された層に向け、読解力と聴取力を養成するための演習を行い、1年次前期に学んだ内容の定着をはかる。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について実践的な知識を得ること、英語を用いて、情報や価値観を正確に読み取り、聴き取ることができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。Midレベルでは約3,000語の習得を目指し、Highレベルでは4,000語水準に近づく習得を目安とする。	
	Basics of English (SW) 1a	入学後に実施するプレースメントテストの成績に基づき、高校までの学習が十分に定着していないと判断された層に向けた基礎的な演習を行う。英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を得ること、英語を用いて、身近なことから表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。基本的な表現を学び簡単な和文英訳及び初歩的な会話ができるように指導を行う。	
	Basics of English (SW) 1b	入学後に実施するプレースメントテストの成績に基づき、高校までの学習が十分に定着していないと判断された層に向けた基礎的な演習を行い、1年次前期に学んだ内容の定着をはかる。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を得ること、英語を用いて、身近なことから表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。基本的な表現を学び簡単な和文英訳及び初歩的な会話ができるように指導を行う。	
	Intermediate English (SW) 1a	入学後に実施するプレースメントテストの成績に基づき、高校までの学習成果が一定の基準に達していると判断された層に向け、英語表現力を養成するための演習を行う。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。英語の文法・語彙・音声について実践的な知識を得ること、英語を用いて、自分の考えや判断を表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。基本的な和文英訳に加えて簡単なパラグラフによる作文ができ、簡単な会話ができるように指導を行う。	
	Intermediate English (SW) 1b	入学後に実施するプレースメントテストの成績に基づき、高校までの学習成果が一定の基準に達していると判断された層に向け、英語表現力を養成するための演習を行い、1年次前期に学んだ内容の定着をはかる。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について実践的な知識を得ること、英語を用いて、自分の考えや判断を表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。基本的な和文英訳に加えて簡単なパラグラフによる作文ができ、簡単な会話ができるように指導を行う。	
	Basics of English (RL) 2a	1年次用科目Basics of English (RL)1a・bの延長として、基礎的な読解力・聴取力をさらに充実させる演習を行う。英語の文法・語彙・音声について、基礎的な知識を身につけること、英語を用いて、情報を正確に読み取り、聴き取ることができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。そのため、高校卒業レベルの文法の定着と約2,300語の習得を引き続き行う。担当者は、履修者の習熟度や1年次科目の授業内容を考慮して重複のないように教材を選択し、授業運営方法を決定する。	
	Basics of English (RL) 2b	Basics of English (RL) 2aに続き、基礎的な読解力・聴取力をさらに充実させる演習を行い、2年次前期に学んだ内容の定着をはかる。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について、基礎的な知識を身につけること、英語を用いて、情報を正確に読み取り、聴き取ることができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。そのため、高校卒業レベルの文法の定着と約2,300語の習得を引き続き行う。担当者は、履修者の習熟度や1年次科目の授業内容を考慮して重複のないように教材を選択し、授業運営方法を決定する。	
	Intermediate English (RL) 2a	1年次用科目Intermediate English (RL)1a・bの延長として、読解力・聴取力をさらに鍛錬する演習を行う。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。英語の文法・語彙・音声について、実践的な知識を身につけること、英語を用いて、多様な情報や価値観を正確に読み取り、聴き取ることができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。Midレベルでは約3,000語の習得を徹底し、Highレベルでは4,000語水準かそれ以上の語彙に触れられる指導を行う。担当者は、履修者の習熟度や1年次科目の授業内容を考慮して重複のないように教材を選択し、授業運営方法を決定する。	
Intermediate English (RL) 2b	Intermediate English (RL) 2aに続き、読解力・聴取力をさらに鍛錬する演習を行い、2年次前期に学んだ内容の定着をはかる。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について、実践的な知識を身につけること、英語を用いて、多様な情報や価値観を正確に読み取り、聴き取ることができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。Midレベルでは約3,000語の習得を徹底し、Highレベルでは4,000語水準かそれ以上の語彙に触れられる指導を行う。担当者は、履修者の習熟度や1年次科目の授業内容を考慮して重複のないように教材を選択し、授業運営方法を決定する。		

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 英語	Basics of English (SW) 2a	1年次用科目Basics of English (SW) 1a・bの延長として、基礎的な表現力をさらに充実させる演習を行う。英語の文法・語彙・音声について、基礎的な知識を身につけること、英語を用いて、身近なことがらについて正確に表現すること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。そのため、基本的な表現を習得し、簡単な和文英訳及び高校初級程度の会話ができるように指導を行う。担当者は、履修者の習熟度や1年次科目の授業内容を考慮して重複のないように教材を選択し、授業運営方法を決定する。	
	Basics of English (SW) 2b	Basics of English (SW) 2aに続き、基礎的な表現力をさらに充実させる演習を行い、2年次前期に学んだ内容の定着をはかる。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について、基礎的な知識を身につけること、英語を用いて、身近なことがらについて正確に表現すること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。そのため、基本的な表現を習得し、簡単な和文英訳及び高校初級程度の会話ができるように指導を行う。担当者は、履修者の習熟度や1年次科目の授業内容を考慮して重複のないように教材を選択し、授業運営方法を決定する。	
	Intermediate English (SW) 2a	1年次用科目Intermediate English (SW) 1a・bの延長として、英語による表現力をさらに伸ばす演習を行う。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。英語の文法・語彙・音声について、実践的な知識を身につけること、英語を用いて、自分の考えや判断を明晰に表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。有用な表現を習得し、一つのトピックについて論理的なパラグラフを書くことができ、口頭で表現できるように指導を行う。担当者は、履修者の習熟度や1年次科目の授業内容を考慮して重複のないように教材を選択し、授業運営方法を決定する。	
	Intermediate English (SW) 2b	Intermediate English (SW) 2aに続き、英語による表現力をさらに伸ばす演習を行い、2年次前期に学んだ内容の定着をはかる。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について、実践的な知識を身につけること、英語を用いて、自分の考えや判断を明晰に表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。有用な表現を習得し、一つのトピックについて論理的なパラグラフを書くことができ、口頭で表現できるように指導を行う。担当者は、履修者の習熟度や1年次科目の授業内容を考慮して重複のないように教材を選択し、授業運営方法を決定する。	
	General English	Basics of English, Intermediate Englishの単位を修得できなかった学生を対象に、苦手意識を克服して次のステップへ進めるよう、4技能を満遍なく補習させることで語学学修の土台作りをする指導を行う。基本的な英文法・語彙・音声の復習を行い、確実に身につけること、平易な英語による情報を正確に読み取ったり聴き取ったりできること、平易な英語で身近なことがらについて表現することができることを目標とする。	
	English Speaking a	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語母語話者による授業を通じて、英語で円滑なコミュニケーションができるようになることを目指すほか、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを目標とする。授業中の活動としては、(1)実用的な文法知識を確認しながら発音と会話速度を向上させる活動、(2)日常生活で使われる基本的な会話を練習する活動、(3)異文化について学習する活動などがある。また、授業で扱ったトピックについてペアで、あるいは小グループで話し合う活動も含まれる。	
	English Speaking b	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語母語話者による授業を通じて、英語で円滑なコミュニケーションができるようになることを目指すほか、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを目標とする。授業中の活動としては、(1)実用的な文法知識を確認しながら発音と会話速度を向上させる活動、(2)日常生活において有用で発展的な会話を練習する活動、(3)異文化についてより理解を深める活動などがある。また、授業で扱うトピックについてペアで、あるいは小グループで話し合う活動も行う。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
	Computer Aided Instruction a	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目であるが、自律的、持続的な学修を特に習慣づけるため、1年次からも履修できることとする。主にe-learning教材を使用し、学生はシステムを利用して毎週決められた最低限の時間以上の英語学習を各自で行い、教員のサポートを受けることで、英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を身につけることを目標とする。毎回の授業では各自の学習が十分効果的に行われているかを確かめるための様々な総合的演習を行う。	
Computer Aided Instruction b	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目であるが、自律的、持続的な学修を特に習慣づけるため、1年次からも履修できることとする。主にe-learning教材を使用し、学生はシステムを利用して毎週決められた最低限の時間以上の英語学習を各自で行い、教員のサポートを受けることで、英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を身につけることを目標とする。毎回の授業では各自の学習が十分効果的に行われているかを確かめるための様々な総合的演習を行う。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。		

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 英語	Computer Aided Instruction for TOEIC a	英語の知識や運用能力を増強することを旨とする学生向けの選択科目であるが、自律的、持続的な学修を特に習慣づけるため、1年次からも履修できることとする。主にe-learning教材を使用し、学生はシステムを利用して毎週決められた最低限の時間以上の英語学習を各自で行い、教員のサポートを受ける。毎回の授業では各自の学習が十分効果的に行われているかを確かめるための様々な総合的演習を行う。英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を身につけることを目標とするほか、TOEICに対応できる英語力の養成を目指す。	
	Computer Aided Instruction for TOEIC b	英語の知識や運用能力を増強することを旨とする学生向けの選択科目であるが、自律的、持続的な学修を特に習慣づけるため、1年次からも履修できることとする。主にe-learning教材を使用し、学生はシステムを利用して毎週決められた最低限の時間以上の英語学習を各自で行い、教員のサポートを受ける。毎回の授業では各自の学習が十分効果的に行われているかを確かめるための様々な総合的演習を行う。英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を身につけることを目標とするほか、TOEICに対応できる英語力の養成を目指す。この科目では、前期に学修した内容をふまえて、さらなる発展的な演習を行う。	
	Advanced English a	必修英語の履修を終えた後、さらに英語の知識や運用能力を増強することを旨とする学生向けの選択科目である。英語の文法・語彙・音声について、発展的、実践的な知識を身につけるほか、実用英語技能検定、TOEFL、TOEICなどの資格試験に対応できる英語力を目指す。例えば、語彙力・聴取力・発話力・文法知識など特定の力の増強を図る授業、日本語を介さずに英文を解釈し論じる授業、資格試験での得点アップを目標とする授業など、内容は多種多様となる。	
	Advanced English b	必修英語の履修を終えた後、さらに英語の知識や運用能力を増強することを旨とする学生向けの選択科目である。英語の文法・語彙・音声について、発展的、実践的な知識を身につけるほか、実用英語技能検定、TOEFL、TOEICなどの資格試験に対応できる英語力を目指す。例えば、語彙力・聴取力・発話力・文法知識など特定の力の増強を図る授業、日本語を介さずに英文を解釈し論じる授業、資格試験での得点アップを目標とする授業など、内容は多種多様となる。この科目では、前期に学修した内容をふまえて、さらなる発展的な演習を行う。	
	English Language and Cultures a	必修英語の履修を終えた後、さらに英語や英語圏の文化についての知識を増強することを旨とする学生向けの選択科目である。英語や英語圏の文化などに関する幅広い内容を教材として、英語運用能力を身につけること、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを主たる目標とする。例えば、特定の文化圏や作家・作品、音楽や映画を題材に、差別や人権、戦争、移民といった社会問題について考えさせたり、ディスカッション、プレゼンテーションを課してコミュニケーション能力の増強を図ったりする授業を展開する。	
	English Language and Cultures b	必修英語の履修を終えた後、さらに英語や英語圏の文化についての知識を増強することを旨とする学生向けの選択科目である。英語や英語圏の文化などに関する幅広い内容を教材として、英語運用能力を身につけること、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを主たる目標とする。例えば、特定の文化圏や作家・作品、音楽や映画を題材に、差別や人権、戦争、移民といった社会問題について考えさせたり、ディスカッション、プレゼンテーションを課してコミュニケーション能力の増強を図ったりする授業を展開する。この科目では、前期に学修した内容をふまえて、さらなる発展的な演習を行う。	
	English Presentation a	グローバル社会で活躍していきたい学生のニーズに応えるための選択科目である。自己紹介や身近な話題について英語で発表することから始めて、卒業や留学時に必要となるアカデミック・プレゼンテーションや、将来ビジネスの現場で必要となる様々なビジネス・プレゼンテーションの方法を実践的に学ぶ。英語を用いて、自分の考えや判断を口頭で発表し効果的に伝達することができること、英語を媒介として、国際社会の諸問題について論理的・分析的に思考することができることを目標とする。	
	English Presentation b	グローバル社会で活躍していきたい学生のニーズに応えるための選択科目である。自己紹介や身近な話題について英語で発表することから始めて、卒業や留学時に必要となるアカデミック・プレゼンテーションや、将来ビジネスの現場で必要となる様々なビジネス・プレゼンテーションの方法を実践的に学ぶ。英語を用いて、自分の考えや判断を口頭で発表し効果的に伝達することができること、英語を媒介として、国際社会の諸問題について論理的・分析的に思考することができることを目標とする。この科目では、前期に学修した内容をふまえて、さらなる発展的な演習を行う。	
	English Writing a	グローバル社会で活躍していきたい学生のニーズに応えるための選択科目である。平易な英語による自己表現、メール・手紙の書き方、パラグラフの展開の仕方、小論文(essay)の書き方などを段階的・実践的に学んでいく。正確で明晰な英語の文章によって、自分の考えや判断を表現することを旨とするほか、英語を媒介として国際社会の諸問題について論理的・分析的に思考できることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英語	English Writing b	グローバル社会で活躍していきたい学生のニーズに応えるための選択科目である。平易な英語による自己表現、メール・手紙の書き方、パラグラフの展開の仕方、小論文(essay)の書き方などを段階的・実践的に学んでいく。正確で明晰な英語の文章によって、自分の考えや判断を表現することを目指すほか、英語を媒介として国際社会の諸問題について論理的・分析的に思考できることを目標とする。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
	Screen English a	より実際のな言語使用場面(context)における英語の運用能力を育成することを目指す学生向けの選択科目である。主に映画を教材として使用し、映画ならではの英語口語表現のパターンや特徴の実例に慣れ親しむことで、口語英語の文法・表現・音声について、基礎的な知識を得ることを目標とする。また、映画作品の背景にある文化や社会についての知識を深める。	
	Screen English b	より実際のな言語使用場面(context)における英語の運用能力を育成することを目指す学生向けの選択科目である。主に映画を教材として使用し、映画ならではの英語口語表現のパターンや特徴の実例に慣れ親しむことで、口語英語の文法・表現・音声について、基礎的な知識を得ることを目標とする。また、映画作品の背景にある文化や社会についての知識を深める。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
外国語科目 英語以外の外国語	ドイツ語初級1a	ドイツ語の入門科目であり、「読む」「聞く」「話す」「書く」の四技能を、バランスよく学ぶことを目的とする。基本的かつ実践的な語彙や表現を繰り返し練習することによって、初級に求められる基礎表現を修得する。ドイツ語初級1aでは、まず発音の練習を重点的に行い、ドイツ語に特有の発音やリズムを学修する。さらに、ドイツ語圏の社会や文化などに関する基礎的な知識を併せて学ぶことで、その理解を深め、ドイツ語圏への関心を高める。	
	ドイツ語初級1b	ドイツ語初級1aに引き続き、「読む」「聞く」「話す」「書く」の四技能をバランスよく学び、ドイツ語の運用能力を養う。具体的には、実践的な語彙や表現を繰り返し練習することによって、初級レベルに必要な基礎表現を習得する。ドイツ語初級1bにおいては、単語の個々の発音でなく、文全体としてのイントネーションやリズムに注意しながら声に出して「読む」ことを重視する。さらに、社会や文化に関してより深い理解を目指し、中級への橋渡しとする。	
	ドイツ語初級2a	ドイツ語初級2aは、ドイツ語初級1aと連動しながら、ドイツ語の基本的な文法規則を、体系的に学んでいく。さらに、インターネットなどを通じて、授業外での学生の自律的な学修を促す。ここで習得すべき主要な文法項目は、アルファベットと基礎的な発音、動詞の現在人称変化、冠詞類の変化、複数、人称代名詞、前置詞、助動詞である。これらの学修を通じて、ドイツ語の基礎的な運用能力の定着を図るとともに、ドイツ語を通じた直のドイツ文化理解を深める。	
	ドイツ語初級2b	ドイツ語の基本的な文法規則を体系的に学ぶだけでなく、授業外での自律的な学修を促す。ドイツ語初級2bで習得すべき主要な文法項目は、複合動詞、未来時制、三基本形、過去と完了である。なお、形容詞の用法、付加語形容詞の格変化語尾、再帰動詞、再帰代名詞は教科書、単元に応じて、ドイツ語初級2aもしくはドイツ語初級2bで適宜扱う。また形容詞・副詞の比較変化、受動態、関係代名詞、zu不定詞、接続法はドイツ語中級1aで学修する。	
	フランス語初級1a	フランス語初級1aは、フランス語の入門科目として、基礎となる発音、綴り字の読み方、会話におけるリズムなどの習得を目標に、練習を行う。さらに日常における会話表現や語彙を習得することを、第二の目的とする。文法事項の整理を行いながら、実際の言葉の運用面を重視した授業を展開し、フランス語によるコミュニケーション能力の充実を図るとともに、フランスおよびフランス語圏の文化に対する理解を深めることを目指す。具体的には、アルファベからスタートし、動詞の運用などに注意しながら、フランス語の特色を理解する。	
	フランス語初級1b	フランス語初級1bは、フランス語の入門科目としてフランス語初級1aの後を受け、引き続き日常における会話表現や基礎となる語彙を習得し、いっそう充実させることを目的とする。具体的には、動詞の使い方を軸に、直説法による表現、さらに条件法、接続法の使い方まで視野にいたした展開をする。実際の言葉の運用面を重視した授業を展開し、とくに口語によるフランス語によるコミュニケーション能力の充実を図るとともに、フランスおよびフランス語圏の文化に対する理解を深めることを目指す。	
	フランス語初級2a	フランス語の入門科目として、基礎となる文法事項の習得を目標とした授業を行う。フランス語初級2aでは、学修対象を名詞グループ、動詞グループの二つに大きく分けた上で、フランス語学習上最低限必要と思われる主語および動詞の機能を、名詞、冠詞、形容詞、動詞(現在形)およびそれに付随する要素の組み立てを中心に学習し、主にコミュニケーション力を養うフランス語初級1aの授業と連動しつつ、ここではフランス語を書くこと、および書かれたフランス語の理解力を養成する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 英語以外の外国語	フランス語初級2b	フランス語の入門科目として、初級2aの後を受け、基礎となる文法事項の習得を目標とした授業を行う。初級2bでは、主として動詞グループの使い方に焦点を当てた上で、フランス語学習上最低限必要と思われる動詞の機能を、過去、未来、仮定表現、意思表現としてどのように扱うかを学習し、主にコミュニケーション力を養う初級1bの授業と連動しつつ、ここではフランス語を書くこと、および書かれたフランス語の理解力のいっそうの養成を目指す。	
	中国語初級1a	中国語を初めて学ぶ学生を対象に、まず発音とピンイン表記の修得を目指す。続いて、基礎的な語法の修得、例えば「是」を使った構文、形容詞述語文、「来」「去」「吃」「看」など基礎的な動詞を用いた構文、「有」を使った構文などを学習する。「読(読む)」「説(話す)」「聴(聴く)」「写(書く)」の最も基礎的な総合力を養う。	
	中国語初級1b	初級1aの後を受け、発音とピンイン表記を再度確認しつつ、より進んだ語法の修得を目指す。具体的には、補語(状態補語、結果補語、方向補語、可能補語など)、助動詞、「了」「着」などを用いた動態の表現、使役構文、処置式などの修得が含まれる。初級1b修了の時点では、中級に進むのに必要な初級の文法事項を修得し、比較的容易なレベルの「読」「説」「聴」「写」が出来るようになる。	
	中国語初級2a	中国語を初めて学ぶ学生を対象に、まず発音とピンイン表記の修得を目指す。続いて、基礎的な語法の修得、例えば「是」を使った構文、形容詞述語文、「来」「去」「吃」「看」など基礎的な動詞を用いた構文、「有」を使った構文などを学習する。「読(読む)」「説(話す)」「聴(聴く)」「写(書く)」の最も基礎的な総合力を養う。	
	中国語初級2b	初級1aの後を受け、発音とピンイン表記を再度確認しつつ、より進んだ語法の修得を目指す。具体的には、補語(状態補語、結果補語、方向補語、可能補語など)、助動詞、「了」「着」などを用いた動態の表現、使役構文、処置式などの修得が含まれる。初級2b修了の時点では、中級に進むのに必要な初級の文法事項を修得し、比較的容易なレベルの「読」「説」「聴」「写」が出来るようになる。	
	スペイン語初級1a	スペイン語を初めて学習する者を対象とし、スペイン語の文字体系と発音の法則をはじめ、名詞と形容詞、直説法現在の最重要基本動詞と規則活用動詞などの理解を図る。その上で、これらを用いて「読む」「書く」「聴く」「話す」ための総合的なスペイン語力を養う。文法的理解はもちろんのこと、それらを実践的に用いることができるようになることを主な目的とし、同時に受講者がスペイン語圏に対する興味を深めるきっかけも提供する。	
	スペイン語初級1b	スペイン語初級1bでは、スペイン語初級1aを引き継ぎ、直説法現在語根母音変化動詞とその他不規則動詞ならびにその用法、目的格人称代名詞、再帰用法などの理解を図る。その上で、それらを用いて「読む」「書く」「聴く」「話す」ための総合的なスペイン語力を養う。文法的理解はもちろんのこと、それらを実践的に用いることができるようになることを主な目的とし、同時に受講者がスペイン語圏に対する興味を深めるきっかけも提供する。	
	スペイン語初級2a	スペイン語初級2aは、スペイン語初級1aと連動しながら、スペイン語を初めて学習する者を対象とし、スペイン語の文字体系と発音の法則をはじめ、名詞と形容詞、直説法現在の最重要基本動詞と規則活用動詞などの理解を図り、練習問題を行うことで各文法事項の理解を深めることを主な目的とする。同時に、短い読み物や対話文の読解および平易なスペイン語文を実際に作る作業を通して、その知識を実践に移すとともに、受講者がスペイン語圏に対する興味を抱くきっかけも提供する。	
	スペイン語初級2b	スペイン語初級2bでは、スペイン語初級2aを引き継ぎ、スペイン語の理解を深めながら、直説法現在の語根母音動詞とその他不規則動詞ならびにその用法、目的格人称代名詞、再帰用法などの文法項目の理解を図り、練習問題を行うことで各文法事項の理解を深めることを主な目的とする。同時に、短い読み物や対話文の読解および簡単な自己紹介文の作成といった作業を通して、その知識を実践に移すとともに、受講者がスペイン語圏に対する興味を抱くきっかけも提供する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 英語以外の外国語	ロシア語初級1a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級1aでは、ロシア語のアルファベットの学習から始めて、基本的な動詞や名詞の変化などを学ぶ。	
	ロシア語初級1b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた同一の教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級1bでは、ロシア語初級1aに続いて、より複雑な変化や構文などを学び、初等文法を一通り終える。	
	ロシア語初級2a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級2aでは、ロシア語初級1aと共に、ロシア語のアルファベットの学習から始めて、基本的な動詞や名詞の変化などを学ぶ。	
	ロシア語初級2b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた同一の教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級2bでは、ロシア語初級1bと共に、ロシア語初級2aに続いて、より複雑な変化や構文などを学び、初等文法を一通り終える。	
	インドネシア語初級1a	インドネシア語初級1aは、インドネシア語初習者を対象として、日本と親密な関係にあり、経済的にも文化的にも交流のさかんなインドネシアの社会の人々と意思疎通をする入り口としての基礎となるインドネシア語の修得を目標とする。文法に主眼を置く初級2aに対して、初級1aでは基礎的な会話の表現とその運用を主な学修内容とする。具体的には、まずインドネシア語の文字とその発音、日常的な挨拶、自己紹介から、さらにお礼やお詫びの語句、肯定・否定の表現、呼びかけや聞き返しの表現といった内容を学ぶ。	
	インドネシア語初級1b	インドネシア語初級1bは、1aで学修した内容を踏まえて、やさしい会話であれば、インドネシア語で不自由なく表現できるように、口頭練習を繰り返しおこなう。学修内容は、依頼や許可の表現、確認や願望や完了の表現のほか、実践的な場面設定をして、会話の練習をする。旅行者として現地に入国して、タクシーに乗り、ホテルに着き、レストランで食事をしたり、ショッピングをしたり、現地で道を尋ねるといった場面などでの実用的な言い回しができるようになる。	
	インドネシア語初級2a	インドネシア語初級2aは、インドネシア語初習者を対象として、日本と親密な関係にあり、経済的にも文化的にも交流のさかんなインドネシアの社会の人々と意思疎通をする入り口としての基礎となるインドネシア語の修得を目標とする。初級1aと連携を持ちながら、発音の仕方や、基礎的な語彙、基本例文の構造的な理解を身に付けることによって、簡単な文章が読めるようになる。初級2aでは、文法事項の修得を授業の軸として、インドネシア語のアルファベットの読み方と発音、名詞・名詞句、形容詞、比較文章、語幹のみ動詞、助動詞・副詞、数字、時間、Ber- 動詞などを学ぶ。	
	インドネシア語初級2b	インドネシア語初級2bは、初級2aで学んだインドネシア語の文法知識をベースとして、さらに基礎的なインドネシア語のしくみの理解を深めていく。具体的な内容としては、動詞のしくみ及び自動詞の練習(語幹のみ動詞)、Me- 動詞(他動詞)、命令文、接頭辞・接尾辞による名詞、受動態などである。また、実践レベルの目標として、学修内容に即しながら、簡単な日本語の文章をインドネシア語に訳したり、インドネシア語の短い話を日本語に訳したりできるようになる。	
	ロシア語初級1a	はじめてロシア韓国語を学ぶ学生を対象とし、ロシア語を表記する文字であるハングルの書き方・読み方を学んだ上、ロシア韓国の文化についての理解も深めながら初歩的な会話ができるようになることを目指す。初級2aと比べれば、表現を繰り返し練習して身に付けることに重点をおく。具体的な学習内容は、ハングルの読み書き、簡単な挨拶、「～です」、「～ではありません」、「～(し)ます」、「～(し)ません」にあたるロシア韓国語の表現の作り方などである。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 英語以外の外国語	韓国語初級1b	韓国語初級1bは、初級1aで学修したハンゲルの書き方・読み方、いくつかの基本表現ができる学生を対象とする。1aの内容を確認しながら新たな基礎的文法と表現を学び、簡単な日常会話ができることを目指す。韓国語初級2bでは基本となる語彙、文法事項の修得に重点を置くのに対して、この初級1bでは表現を繰り返し練習して身に付けるところに重点をおく。具体的な学修内容は、打ち解けた表現、尊敬・命令・過去・意志・推量・希望・勧誘・様態・仮定表現の作り方などである。	
	韓国語初級2a	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、韓国語を表記する文字であるハンゲルの書き方・読み方、さらに基礎的な文法事項や基礎語彙を着実に学んだ上、辞書を片手に簡単な文章が読めるようになることを目指す。1aと比べれば、文法項目の学習および練習に重点をおく。具体的な学習内容は、ハンゲルの読み書き、簡単な挨拶、「～です」、「～ではありません」、「～(し)ます」、「～(し)ません」に韓国語の表現の作り方などである。その他、異文化理解に役に立つ文化や生活習慣などに関する理解も深めていく。	
	韓国語初級2b	初級2aの内容であるハンゲルの書き方・読み方、いくつかの基本表現を習得している学生を対象とし、更なる基礎文法と語彙を学び、辞書を片手に簡単な文章が読めるようになることを目指す。初級1aと比べれば、文法項目の学習および練習に重点をおく。特に日本語との類似点、相違点に注意をはらいながら進めていく。具体的な学習内容は、打ち解けた表現、尊敬・命令・過去・意志・推量・希望・勧誘・様態・仮定表現の作り方などである。	
	ドイツ語中級1a	中級科目の基礎的な科目で、初級レベルのドイツ語1a・1bおよび2a・2bを習得を前提とした科目である。読む・聞く・書く・話す、の四分野のバランスを考えつつ、既に習得したドイツ文法の知識の復習から初め、初級文法後半の未修得項目(比較、受動態、関係代名詞、zu不定詞、分詞、接続法)の説明と練習へと進めて、ドイツ語の基礎的な初級文法の習得と理解を確実にする。実践的な課題としては、基本的にはドイツ語検定3級を受験するための準備となるようなドイツ語のレベルをめざす。	
	ドイツ語中級1b	ドイツ語の中級レベルのための基礎的理解を確実にする科目であり、読む・聞く・書く・話す、の四分野のバランスを考えつつ、ドイツ語1aにおいて未修得であった初級文法の落ち徳拾いから初めて、初級文法全体を視野に入れながら、それぞれの項目の応用的な練習を行って中級のレベルへと進める。1bでは、特に文章論を中心に、初級文法の理解を高度化しながら中級文法の理解を深める。基礎的な語彙数のレベルも上げて行く。基本的にはドイツ語検定3級を確実にする中級の応用力養成を目標とした、バランスのある練習の機会とする。	
	ドイツ語中級2a	ドイツ語の中級科目としては、1a・1bが主として初級文法の未修得部分の説明と練習を中心とした文法的な科目であるのに対して、2a・2bでは、「聞く」「話す」「読む」「書く」の各レベルのバランスを重視した総合的なコミュニケーションの練習を行う。特にドイツ語2aでは、できるだけ様々な素材を使用することによって、ドイツ語の多様な姿に触れつつ、応用的な力を養成する。2aでは初級レベルの知識を確実にすることを中心に、ドイツ語検定3級程度のレベルを確実にするための実践的な練習と説明を行う。なお、2aは多様な素材を扱うので、2年次・3年次と継続履修を可能としている。	
	ドイツ語中級2b	ドイツ語の中級科目としては、1a・1bが主として初級文法の未修得部分の説明と練習を中心とした文法的な科目であるのに対して、2a・2bでは、「聞く」「話す」「読む」「書く」の各レベルのバランスを重視した総合的なコミュニケーションの練習を行う。ドイツ語2bでは、2aでの学習を継続して、さらに様々な素材を使用することによって、ドイツ語の多様な姿に触れつつ、応用的な力の養成を進める。2aに引き続き、ドイツ語検定3級程度のレベルを確実にするためのさらなる実践的な練習と説明を継続する。なお、2a・2bでは多様な素材を扱うので、2年次・3年次と継続履修を可能としている。	
	フランス語中級1a	フランス語の中級科目として、初級科目の後を受け、土台となる文法理解および表現力の定着と習熟をより確実なものとしつつ、それを実際に使いこなす力をつけることを目標とした授業を行う。とくに中級1aでは幅広くフランス語を使う力を身につけることを目標とし、読み、書き、聞き、話すという四つの技能の力をバランスよく伸ばすことを目指す。同時に言葉だけではなくフランス文化への理解を深めることで、異文化コミュニケーション力を育成する。	
	フランス語中級1b	フランス語中級1bはフランス語の中級科目として、中級1aの後を受け、文法理解および表現力の定着と習熟をより確実なものとしつつ、それを実際に使いこなす力をさらにつけることを目標とした授業を行う。総合的な科目として、読み、書き、聞き、話すという四つの技能の力をバランスよく伸ばすことを目指し、受講生が専門の領域でフランス語を万遍なく発揮できる力を養成することを目指す。中級1aと同じく、異文化コミュニケーション力を育成する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 英語以外の外国語	フランス語中級2a	フランス語中級2aは、フランス語の中級科目として、初級科目の後を受け、土台となる文法理解および表現力の定着と習熟をより確実なものとしつつ、それを実際に使いこなす力をつけることを目標とした授業を行う。演習に重心を置いた科目として、担当教員が学習内容をいくつかのテーマに絞り(たとえば作文力の養成、フランス語を聞き取る力の育成、検定試験および留学の準備など)、それぞれのテーマに応じて特化することで、受講者のニーズに応じた授業を展開する。	
	フランス語中級2b	フランス語の中級科目として、中級2aの後を受け、文法理解および表現力の定着と習熟をいっそう確実なものとしつつ、それを実際に使いこなす力をつけることを目標とした授業を行う。中級2bでは、中級2aと同様に担当教員が学習内容をいくつかのテーマに絞り(たとえば作文力の養成、フランス語を聞き取る力の育成、検定試験および留学の準備など)、それぞれのテーマに応じて特化することで、受講者のニーズに応じた授業を展開し、学習者の力をきめ細かく伸ばすことを目指す。	
	中国語中級1a	中国語の中級科目として、初級科目の後を受け、より進んだ中国語運用能力の獲得を目指す科目。初級で学んだ発音、ピンイン表記、初級語法の確認と定着に主眼を置く。復習と平行して、初級段階では触れなかった新たな表現、例えば、離合動詞や疑問詞の呼応形などにも触れ、併せて、中国の社会、文化などの面にも理解を深める。	
	中国語中級1b	初級科目の後を受け、よりすすんだ中国語運用能力の獲得を目指す点では、中級1aと同じであるが、中級1bでは新しい表現の修得に重点を置く。例えば、2つ以上発音のある文字(「得」「差」「的」「長」など)の読み分け、離合動詞の用法、疑問詞の呼応形、「雖～但是～」 「因為～所以～」など各種イディオムの修得など。更に、中国語の文章読解に慣れるために、中級1bでは読む量を増やしていく。上級に繋げるために、ピンインの付かない文章を読む訓練も始める。併せて、中国の社会、文化などの面にも理解を深める。	
	中国語中級2a	初級科目の後を受ける点では中級1a・中級1bと同じであるが、中級2aでは読解やライティングなど各方面の能力を高めていくことを目指している。初級で修得した発音と語法が身につけていることが前提になるから、中級2aでは初級事項の定着にかなりの比重を割く。併せて、中国の社会や文化などへの関心を喚起することに努める。	
	中国語中級2b	中級2bでは、初級の文法やピンインなどを修得済みであることを前提に、読解能力、作文能力、聴き取り能力、表現能力を高める。原則的にはピンインを付けたテキストを用いるが、上級へのステップとして、ピンインがつかず、分かち書きをしていないテキストへの移行の準備をも併せて行う。併せて、中国の社会や文化などへの関心を喚起することに努める。	
	スペイン語中級1a	スペイン語中級1aは、初級1a・bおよび初級2a、bで学修した内容を土台として、それをさらに発展させることを目標とする。具体的には、文法に関しては過去(点過去・線過去)、未来といった直説法の残りの時制の習得を目標とする。その上で、これら文法項目に応じた総合的な実践練習を積み重ねる。スペインやラテンアメリカの文化を題材にした平易な文章を読んだり、音声・ビデオ教材を用いた練習を行ったりしながら、スペイン語の運用能力を高めるトレーニングを行う。	
	スペイン語中級1b	スペイン語中級1bでは、1aとの関連を図りながら、初級1a・bおよび初級2a、bにおいて積み重ねてきた学修事項を土台として、文法的には初級文法の残りの項目(過去未来、接続法、命令法、複合時制、関係詞等)の修得を目指す。その上で、ひと通り学び終えた文法知識を活かしながら、総合的かつ実践練習を積み重ねる。スペインやラテンアメリカの文化を題材にした平易な文章を読んだり、音声・ビデオ教材を用いた練習を行ったりしながら、スペイン語の運用能力を高めるトレーニングを行う。	
	スペイン語中級2a	スペイン語中級2aでは、2bとの関連を図りながら、初級1a・bおよび初級2a、bにおいて積み重ねてきた学修事項を土台として、文法的には、過去(点過去・線過去)、未来といった直説法の残りの時制の習得を目指す。その上で、習得した文法知識を活かして、文章読解と作文の練習を重点的に行う。文章読解については、スペインやラテンアメリカに関するテキストを用い、スペイン語圏の文化的理解も深める。作文に関しては、自分でまとめた文章作成ができるレベルを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 英語以外の外国語	スペイン語中級2b	これまで積み重ねた学習事項を土台として、文法的には、過去未来(可能法)、接続法、命令法、複合時制、関係詞などの習得を目指し、スペイン語の文法をひと通り学び終える。その上で、習得した文法知識を活かして、文章読解と作文の練習を重点的に行う。文章読解については、スペインやラテンアメリカに関するテキストを用い、スペイン語圏の文化的理解も深める。作文に関しては、自分でまとまった文章作成ができるレベルを目標とする。	
	ロシア語中級1a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、初級科目の習得を踏まえ、そこで身につけた知識を復習しながら実践的に発展させることで、より高度なロシア語力を増やすことを目指し、それによって、より複雑な文章を読んだり書いたりすることができるようにすることが目標である。そのため、利用頻度の高い様々な文型を学べる中級用教科書を使用し、音声CDも利用しながら、よく使われるロシア語の表現を読み・聞き・書き・話す訓練を行い、総合的なロシア語力の養成を行う。	
	ロシア語中級1b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、初級科目の習得を踏まえ、そこで身につけた知識を復習しながら実践的に発展させることで、より高度なロシア語力を増やすことを目指し、それによって、より複雑な文章を読んだり書いたりすることができるようにすることが目標である。そのため、利用頻度の高い様々な文型を学べる中級用教科書を使用し、音声CDも利用しながら、よく使われるロシア語の表現を読み・聞き・書き・話す訓練を行う。ロシア語中級1bでは、ロシア語中級1aに続き、よく使われるロシア語の表現を用い、総合的なロシア語力の養成を行う。	
	ロシア語中級2a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、初級科目の習得を踏まえ、そこで身につけた知識を復習しながら実践的に発展させることで、より高度なロシア語力を増やすことを目指し、それによって、より複雑な文章を読んだり書いたりすることができるようにすることが目標である。そのため、利用頻度の高い様々な文型を学べる中級用教科書を使用し、音声CDも利用しながら、よく使われるロシア語の表現を読み・聞き・書き・話す訓練を行い、演習を重視した訓練を行う。	
	ロシア語中級2b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、初級科目の習得を踏まえ、そこで身につけた知識を復習しながら実践的に発展させることで、より高度なロシア語力を増やすことを目指し、それによって、より複雑な文章を読んだり書いたりすることができるようにすることが目標である。そのため、利用頻度の高い様々な文型を学べる中級用教科書を使用し、音声CDも利用しながら、よく使われるロシア語の表現を読み・聞き・書き・話す訓練を行う。ロシア語中級2bでは、ロシア語中級2aに続き、よく使われるロシア語の表現を用い、演習を重視した訓練を行う。	
	インドネシア語中級1a	本科目は、インドネシア語初級科目のいずれかを2単位以上修得した人を対象とする。初年次の文法理解をもとに、さらにインドネシア語の総合的な表現力を向上させる学習が主要な内容となる。例えば、初級の復習をスプリングボードにして、平易な文章を翻訳したり、具体的場面の設定されたトピックに基づいて、簡明な会話をかいたりといった訓練を適宜組み合わせることによって、「読む、書く、話す、聞く」の総合的な語学力を育てていく。	
	インドネシア語中級1b	インドネシア語中級1bでは、中級1aに続けて、読解・作文・会話を三本柱として、インドネシア語のトータルな語学力を養成する。また、文法・語法だけでなく、コミュニケーションの背景をなす社会事情についても理解し、インドネシア語とインドネシア社会に対する理解がさらに確実なものとなるようにする。そのために、教材として映像を広く用いることで、インドネシア社会に対するより深い理解を図ると同時に、現地に出会う可能性のあるさまざまな状況に応じて、すぐに使えるような幅広い実践的な表現力を修得する。	
	インドネシア語中級2a	インドネシア語中級2aは、インドネシア語初級科目を修得した力を持ったレベルの学生を対象とする。初級科目で学んだ文法や表現のパターンを確認しながら、より高度で複雑な文章や、他の接続辞・接尾辞・イディオムなどを学ぶことが、中級2aでの主軸となる。教材としては、インドネシアの文化・習慣等を紹介する文章を広く導入し、町や社会、食文化や日常生活などを紹介する読み物を読解する作業を通して、生活に根差した実践的な表現能力を身に付ける。	
	インドネシア語中級2b	インドネシア語中級2bでは、中級2aに続いて、さらにさまざまなメディア(ビデオ・インターネット・音楽等)を活用しながら、今日的で実践的なコミュニケーション能力を向上させる。具体的には、発展しつつある都市の姿、レストラン・屋台、市場など、現代の日常生活についての読み物を使い、それら教材に登場する基本的な会話表現を用いた作文練習などによって、表現する力を伸ばす。授業に幅を持たせるために、映画などの映像資料を素材とした展開も取り入れる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 英語以外の外国語	コリア語中級1a	ハングルがすらすら読め、初級の文法事項をほぼ習得していることを最低限の履修条件とする。初級の文法および表現の確認から始め、さらに上のレベルの文法や多様な表現を学習しながら、語彙も増やし、バランスのとれた「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。1aでは特に「書く」、「話す」力を伸ばすところに重点をおく。主要な文法項目は、用言の連体形(過去・現在・未来)、一部の変則活用などである。表現としては、「～(し)たことがある」、「～(する)つもりだ」、「～(し)そうだ」などである。	
	コリア語中級1b	中級1aの文法および表現を復習した上、変則活用や多様な表現を学習しながら語彙も増やし、バランスのとれた「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。ハングル能力検定試験4級、韓国語能力試験中級を視野に入れながら、特に「書く」、「話す」力を伸ばす。コリア語は日本語と似ているところが多い点では学びやすいが、中級以上になると似ているからこそ難しいところが出てくる。この授業ではそうした点にも注意を払いながら、より自然で高度なコリア語の習得を目指す。具体的な学習内容は、「～(する)ことができない」、「～(し)てもいいですか」、「～(し)なければならぬ」、「～(し)ないでください」、「～(し)ながら」などである。	
	コリア語中級2a	ハングルがすらすら読め、初級の文法事項をほぼ習得していることを最低限の履修条件とする。初級の文法および表現を確認するところから始め、さらに上のレベルの文法や多様な表現を学習しながら、語彙も増やし、バランスのとれた「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。2aでは特に「読む」、「聞く」力を伸ばすところに重点をおく。また、授業の題材を通じて韓国の文化に対する理解も深める。主要な文法項目は、用言の連体形(過去・現在・未来)、一部の変則活用などである。表現としては、「～(し)たことがある」、「～(する)つもりだ」、「～(し)そうだ」などである。	
	コリア語中級2b	中級2aの文法および表現の復習した上、変則活用や多様な表現を学習しながら語彙も増やし、バランスのとれた「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。ハングル能力検定試験4級、韓国語能力試験中級を視野に入れながら、特に「読む」、「聞く」力を伸ばす。また、韓国関係の視聴覚教材などを利用し、言葉の背景にある文化に対する理解も深める。具体的な学習内容は、「～(する)ことができない」、「～(し)てもいいですか」、「～(し)なければならぬ」、「～(し)ないでください」、「～(し)ながら」、下称形などである。	
	ドイツ語上級1a	ドイツ語の上級科目では、中級科目の学習を終えた者を前提とする。中級科目以上に、できるだけ多様な素材を用いながら、これまでの学習項目を復習しつつ、「読む」「聞く」「書く」「話す」の四分野におけるバランスの取れた実践的なドイツ語力を更に確実にしながら、ドイツ文化・社会の理解へと広げて行く。上級は3年次・4年次と継続して履修可能なシステムとしており、少人数での実践的な学習を可能としている。ドイツ語検定2級受験のための基礎となることが目標である。	
	ドイツ語上級1b	上級1aでの履修を更に高度化して継続する。これまでの学習項目の復習をも含みながら、読む・聞く・書く・話す、のバランスの取れた実践的なドイツ語力を、できるだけ応用的で実践的な訓練を中心に進める。ドイツ語力と並行して、ドイツ文化・社会への理解をも進めることになる。少人数での実践的な授業を通じたコミュニケーションの訓練によって、より高度な会話力を含めて、ドイツ語検定2級を獲得できるレベルの応用ドイツ語力を獲得することを目標とする。なお上級科目は3年次・4年次と継続履修が可能となっている。	
	フランス語上級1a	フランス語の上級科目として、読む、書く、話す、聞くという言語の四技能すべての面での充実を図る。最終的には、フランスに留学して勉強を行えるだけのレベルの力を養うことを目指す。とくに初級、中級レベルでは練習不足になりがちな作文力とフランス語を聞き取る力をつけることを目標に、さまざまな具体的シチュエーションにおいてフランス語を用いて確実かつ適切に相手とコミュニケーションを取ることができるだけの実践的な力を養うことを目指す。	
	フランス語上級1b	フランス語の上級科目として、フランス語上級1aを引き継ぎ、読む、書く、話す、聞くという言語の四技能すべての面でのいっそうの充実を図る。最終的には、フランスに留学して勉強を行えるだけのレベルの力を養うことを目指す。とくに初級、中級レベルでは練習不足になりがちな作文力とフランス語を聞き取る力をつけることに重点をおきつつ、さまざまな具体的シチュエーションにおいてフランス語を用いて、確実かつ適切に相手とコミュニケーションを取ることができるだけの、実践的な力を養うことを目指す。	
	中国語上級1a	初級科目と中級科目の後を受け、更にすすんだ中国語能力の開発を目指す科目。ピンインのつかない分から書きのテキストを用いて、まとまった文章(随筆、小説、論説文、新聞記事など)の読解能力を養成する。漸進的に聴き取り、読解の難度を上げていく。部分的に中国語の直接教授法も行なわれる。併せて、中国の社会や文化などについての関心をより深く着実なものとするように努める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 英語以外の外国語	中国語上級1b	上級1aの後を受けて、更にすすんだ中国語運用能力の獲得、開発を目指す。中国語で行なわれる授業、ピンイン無し・分かち書き無しのテキストを用いた授業、比較的難易度の高いテキストの多読や精読を行なう授業に慣れるのには一定の時間を要する。そのような授業に抵抗感を感じなくなるところまで中国語能力を高めていく。中国人と比較的豊富な内容について会話をすることができ、比較的高度な論説文や新聞記事、映画のシナリオなどが読みこなせる能力を養うことが目的である。それを通して、中国の社会や文化全般に関するより高い関心と理解を深める。	
	スペイン語上級1a	スペイン語上級1aでは、初級・中級レベルで学修した文法事項の復習をしながら、適宜、スペイン語圏の雑誌・新聞記事・エッセイなどのうち比較的平易なものを講読し、読む力を養成することを第一の目標とする。読解を通してスペイン語圏諸国の文化・歴史への理解を深めることを重視するが、その一方で、ディクテーションやビデオ教材を使用しての聴き取り練習も取り入れ、高度な会話の場面にも対応できるリスニング力をつけることも同時に目指す。	
	スペイン語上級1b	スペイン語上級1bでは、上級1aに引き続き、スペイン語圏の雑誌・新聞記事・エッセイなどのうちやや難易度の高いものを講読し、読む力を養成することを第一の目標とする。必要に応じて文法復習をしながら、読解を通してスペイン語圏諸国の文化・歴史への理解を深めることを重視するが、その一方で、ディクテーションやビデオ教材を使用しての聴き取り練習も取り入れ、より高度な会話の場面にも対応できるリスニング力をつけることも同時に目指す。	
	ロシア語上級1a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、中級科目の習得を踏まえ、実際に使用された様々な文章を読んでいくことで高度なロシア語力を培い、独力で新聞などロシア語の一般的な文章が読める力を養うことが目標である。そのため、比較的長くてもまとまった文章をアンソロジー的に集めた上級用教科書を用いて、様々な文章を実際に読んでいくことで、ロシア語の文法・語彙・表現などを復習・発展させながら、高度なロシア語力を養成する。	
	ロシア語上級1b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、中級科目の習得を踏まえ、実際に使用された様々な文章を読んでいくことで高度なロシア語力を培い、独力で新聞などロシア語の一般的な文章が読める力を養うことが目標である。そのため、ロシア語上級1bでは、ロシア語上級1aに続き、比較的長くてもまとまった文章をアンソロジー的に集めた上級用教科書を用いて、様々な文章を実際に読んでいくことで、ロシア語の文法・語彙・表現などを復習・発展させながら、高度なロシア語力を養成する。	
	インドネシア語上級1a	インドネシア語上級1aでは、初級・中級レベルで学修した文法事項の復習をし、それを土台としながら、適宜、インドネシア語のテキストや現地での状況を伝える音声・映像の情報などを素材として、具体的かつ実践的なインドネシア語の運用能力の修得を目指す。インドネシアの人たちと直にコミュニケーションする力を伸ばし、その文化・社会の理解をいっそう深める。	
	インドネシア語上級1b	インドネシア語上級1bでは、初級・中級レベルで学修した文法事項の復習をし、さらに上級1aでの学修を土台としながら、適宜、インドネシア語のテキストや現地での状況を伝える音声・映像の情報などを素材として、具体的かつ実践的なインドネシア語の運用能力の修得を目指す。そしてこの力によって、日本にとって今後、さらに重要なパートナーとなるであろうインドネシアの人たちと直にコミュニケーションする力を伸ばし、その文化・社会の理解をいっそう深める。	
	コリア語上級1a	中級レベルで扱う連体形および変則活用について学習したことがあることを最低限の履修条件とし、中級までの文法事項の再確認から始め、下称形、伝聞表現および伝聞の縮約形など、複雑な文法事項を学習しながら慣用句などの語彙も増やし、より高度な「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。具体的な内容は、「～だ/である」、「～(する)そうだ」、「～(する)のか聞く」、「～(しろ)と言うを含め」、「～(する)から」、「～(する)ので」、「～(し)て」、「～(する)ために」、「～(する)せいで」など、日本語と似てはいるが微妙な違いがあるために学習しにくいものを集中的に練習する。	
	コリア語上級1b	上級1aの下称形、伝聞表現および伝聞の縮約形などを確認しながらより高いレベルの文法事項を学び、慣用句などの語彙も増やし、正確な表現ができることを目指す。文章を「読む」練習、視聴覚教材などを使った「聞く」練習、日本語文の訳および文章を要約して「書く」練習、新しく学んだ表現を使ったロールプレイで「話す」練習など、総合的な水準の向上を図る。その他、コリア語学習におけるインターネットおよびアプリの活用などについても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 英語以外の外国語	選択ドイツ語1a	ドイツ語を初めて学ぶ受講者を対象として、ドイツ語のアルファベットを読み、単語や短い文章を発音する練習からスタートする。さらに、ドイツ語初級文法の導入的練習により、ドイツ語の簡単な文章を読み、書くことができる力を養い。基礎的な文法事項を理解、活用することができるようになる。さらにこの力を補うものとして、平易なドイツ語を用いることで、ドイツの社会、文化に関する情報にさまざまな形で触れることで、ドイツに対する理解を深める。	
	選択ドイツ語1b	選択ドイツ語1bは、1aの後を受けて、ドイツ語を初めて学ぶ受講者を対象として、ドイツ語の読み方に慣れ、単語や短い文章を発音する練習からスタートする。さらに、ドイツ語初級文法の導入的練習により、ドイツ語の簡単な文章を読み、書くことができる力を養い。基礎的な文法事項を理解、活用することができるようになる。さらにこの力を補うものとして、平易なドイツ語を用いることで、ドイツの社会、文化に関する情報にさまざまな形で触れることで、ドイツに対する理解を深める。	
	選択フランス語1a	選択フランス語1aは、フランス語を初めて学ぶ受講者を対象として、アルファベ(A, B, C...)からスタートし、フランス語の読み方に慣れるとともに、基本となる文型と語彙、日常的な基本表現を修得する。その際、「読み・書き・話す・聞く」という、いわゆる言語習得の四技能についてバランスよく学修することを目指し、フランス語で簡単なコミュニケーションが取れるようになるとともに、フランス語によってフランスの社会や文化に触れることで、理解を深める。	
	選択フランス語1b	選択フランス語1bでは、1aの後を受けて、フランス語を初めて学ぶ受講者を対象として、フランス語の読み方に慣れるとともに、基本となる文型と語彙、日常的な基本表現を修得する。その際、「読み・書き・話す・聞く」という、いわゆる言語習得の四技能についてバランスよく学修することを目指し、フランス語で簡単なコミュニケーションが取れるようになるとともに、フランス語によってフランスの社会や文化に触れることで、理解をいっそう深める。	
	選択中国語1a	選択中国語1aは、中国語を初めて学ぶ受講者を対象として、まず、発音の練習、あいさつの言葉、簡単な名詞などを習得する。正しい発音に習熟し、ピンインを正確に発音でき、初歩的な聞き取りができるようになることを最初の目標とする。そのうえで、初級の段階で必要とされる基本的な文法事項を習得し、かつ基本となる語彙を修得することによって、比較的簡単な文章の読解と作文ができ、コミュニケーションの基礎とするとともに、中国文化・社会の理解を深めることを到達目標とする。	
	選択中国語1b	選択中国語1bは、1aの後を受けて、中国語を初めて学ぶ受講者を対象として、あいさつの言葉、簡単な名詞などを習得する。正しい発音に習熟し、ピンインの発音を正確なものとするとともに、初歩的な聞き取りができるようになることを最初の目標とする。そのうえで、初級の段階で必要とされる基本的な文法事項を習得し、かつ基本となる語彙を修得することによって、比較的簡単な文章の読解と作文ができ、コミュニケーションの基礎とするとともに、中国文化・社会の理解を深めることを到達目標とする。	
	選択スペイン語1a	選択スペイン語1aは、スペイン語を初めて学ぶ受講者を対象として、基本となる文型や、基礎的な語彙を習得する。「読み・書き・話す・聞く」という四技能を含めた、総合的な基礎力をつけ、コミュニケーションで使うことのできる実践的なスペイン語の習得を目指す。具体的には、受信型から発信型への外国語学習を目指して、簡単な作文を書いたり、自己紹介などによって身の回りのことを表現したりできるようになる。また、簡単なスペイン語を用いることによって、スペイン語圏の文化、社会に対する理解を深める。	
	選択スペイン語1b	選択スペイン語1bは、1aの後を受けて、スペイン語を初めて学ぶ受講者を対象として、基本となる文型や、基礎的な語彙を習得する。「読み・書き・話す・聞く」という四技能を含めた、総合的な基礎力をつけ、コミュニケーションで使うことのできる実践的なスペイン語の習得を目指す。具体的には、受信型から発信型への外国語学習を目指して、簡単な作文を書いたり、自己紹介などによって身の回りのことを表現したりできるようになる。また、簡単なスペイン語を用いることによって、スペイン語圏の文化、社会に対する理解をいっそう深める。	
	選択コリア語1a	はじめてコリア語を学ぶ学生を対象とし、コリア語を表記する文字であるハングルの書き方・読み方を学んだ上、コリアの文化についての理解も深めながら初歩的な会話ができるようになることを目指す。1aでは、反復練習を通じてその課の表現を身に付けるところに重点をおく。具体的な学習内容は、ハングルの読み書き、簡単な挨拶、「～です」、「～ですか」、「～ではありません」、「～(し)ます」、「～(し)ますか」、「～(し)ません」にあたるコリア語の表現の作り方などである。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 英語以外の外国語	選択コア語1b	ハンゲルの書き方・読み方、いくつかの基本表現を習得している学生を対象とする。1aの内容を確認しながら新たな基礎的文法と表現を学び、簡単な日常会話ができることを目指す。1bでも、反復練習を通じてその課の表現を身に付けるところに重点をおく。具体的な学習内容は、打ち解けた表現(へヨ体)、尊敬「～されます」、命令「～(し)なさい」、過去「～(し)ました」、意志「～(し)ます」、推量「～(る)でしょう」、希望「～(し)たいです」、勧誘「～(し)ましょう」、様態「～(し)ています」、仮定表現「～(す)れば」の作り方などである。	
	選択アラビア語1a	選択アラビア語1aでは、アラビア語を初めて学ぶ受講者を対象として、読む・書く・聴く・話すことの基本を、アラブ文化に触れながら習得する。はじめに、アラビア文字を習得できるように、各文字の書き順、文字のつなげ方、発音を丁寧に学習し、文字に慣れる。つぎに、日常的な基本となる表現を学び、その後、語彙力を増やしながら、名詞の性別から動詞活用までの基本的な文法を理解し、アラビア語で書いた短い文を読むことができる力を養う。	
	選択アラビア語1b	選択アラビア語1bでは、選択アラビア語1bに引き続き、アラビア語を初めて学ぶ受講者を対象として、読む・書く・聴く・話すことの基本を、アラブ文化に触れながら習得する。各文字の書き順、文字のつなげ方、発音を丁寧に学習し、アラビア文字に慣れたあとの課題として、日常的な基本となる表現を学び、次第に語彙力を増やしながら、名詞から動詞の使い方を中心に、基本的な文法を理解し、アラビア語で書いた短い文を読み、また書くことができる力を養う。	
	選択イタリア語1a	選択イタリア語1aでは、イタリア語を初めて学ぶ受講者を対象として、a,b,cの読み方からスタートし、日常生活でよく使う表現を使いこなすことを目標として修得すると同時に、文法の基礎も最初から積み重ねて学修し、基本的なイタリア語のしくみを広く理解する。語彙に関しては、身近に見聞きするイタリア語から始めて、次第に対象を広げることで、使える言葉の数を増やす。語彙、表現、文法事項ともに、習熟度を定期的に確認することで、イタリア語の基本的を修得する。	
	選択イタリア語1b	選択イタリア語1bでは、1aを引き継ぎ、イタリア語を初めて学ぶ受講者を対象として、日常生活でよく使う表現を広く、かつ実践的に修得すると同時に、文法の基礎も最初から積み重ねて学修し、基本的なイタリア語のしくみを理解する。語彙、基本表現に関しては、身近に見聞きするイタリア語から始めて、次第に対象を広げることで、使える言葉の数を増やす。語彙、表現、文法事項ともに、習熟度を定期的に確認することで、イタリア語の運用に必要な基本力を修得する。	
	世界の言語と文化(ドイツ語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「ドイツ語」では、ドイツ、オーストリアを中心にドイツ語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
	世界の言語と文化(フランス語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「フランス語」では、フランスを軸に、カリブ海諸国やカナダ等も含めたフランス語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
	世界の言語と文化(中国語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「中国語」では、東アジアを中心に、中国語および漢字文化圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
	世界の言語と文化(スペイン語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「スペイン語」では、ヨーロッパからアメリカ大陸までのスペイン語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
英語 以外 の 外国 語 科目	世界の言語と文化(ロシア語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「ロシア語」では、ユーラシア大陸の多くを占めるロシア語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。		
	世界の言語と文化(インドネシア語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「インドネシア語」では、東南アジアの要に位置するインドネシア語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。		
	世界の言語と文化(ロシア語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「ロシア語」では、わたしたちの隣人であるロシア語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。		
	言語文化研究(ヨーロッパ)1	国という単位に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは主にドイツ、フランスを中心とした西ヨーロッパの視点を出発点として、ヨーロッパを捉えなおす。	国という単位に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは主にドイツ、フランスを中心とした西ヨーロッパの視点を出発点として、ヨーロッパを捉えなおす。	
	言語文化研究(ヨーロッパ)2	国という単位に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここではフランスやドイツといった20世紀西ヨーロッパの中心を担った国以外の地域、たとえば東ヨーロッパ(ロシア)、イタリアなどを出発点として、ヨーロッパを相対的に捉えなおす。	国という単位に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここではフランスやドイツといった20世紀西ヨーロッパの中心を担った国以外の地域、たとえば東ヨーロッパ(ロシア)、イタリアなどを出発点として、ヨーロッパを相対的に捉えなおす。	
	言語文化研究(アジア)1	国という単位に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは中国、韓国という日本と地理的・歴史的にも密接な関係を持つ地域を出発点として、広くアジアを捉えなおす。	国という単位に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは中国、韓国という日本と地理的・歴史的にも密接な関係を持つ地域を出発点として、広くアジアを捉えなおす。	
	言語文化研究(アジア)2	国という単位に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここではインドネシア、アラビア語圏といった東南アジア・アジア全般の諸国を出発点として、広くアジア全体を捉えなおす。	国という単位に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここではインドネシア、アラビア語圏といった東南アジア・アジア全般の諸国を出発点として、広くアジア全体を捉えなおす。	
	言語文化研究(アメリカ)	国という単位に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは北アメリカ、中アメリカ、南アメリカとカリブ海諸国を出発点として、広くふたつのアメリカ大陸全体を捉えなおす。	国という単位に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは北アメリカ、中アメリカ、南アメリカとカリブ海諸国を出発点として、広くふたつのアメリカ大陸全体を捉えなおす。	
	海外語学研修	海外語学短期研修1(英語)	海外語学短期研修1では、本学の夏期の短期留学プログラムに参加し海外提携校に1ヶ月程度滞在して様々な経験を積む。大学の正規授業の聴講を行い、また非英語圏の国々から学生が集まるインターナショナルクラスの履修においては、ビジネス英語や多様なバックグラウンドを持つ仲間とのエコ・ボランティア活動等バラエティに富むプログラムが展開されている。海外提携校からは履修科目の成績評価と授業を担当した講師からの詳細な文章評価が与えられ、その成績に基づき本学の単位に換算される。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 海外語学研修	海外語学短期研修2(英語)	海外語学短期研修2では、本学の春期の短期留学プログラムに参加し海外提携校に1ヶ月程度滞在して様々な経験を積む。「生きた言葉」の修得を目指したプログラムで、聴解力・発話力に重点をおいた1日4時間程度の授業を履修し会話の実践練習を行う。授業外においてもフィールド・トリップやホームステイまたは学生寮での生活を通じ、現地の文化・歴史・生活習慣を実体験する。海外提携校からは履修科目の成績評価と授業を担当した講師からの詳細な文章評価が与えられ、その成績に基づき本学の単位に換算される。	
	海外語学短期研修1(ドイツ語)	ドイツの本学提携大学に、夏期休暇中の3週間を利用して短期留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。現地の語学コースで学びつつ、ホームステイ先に滞在することで、ドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深める。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。事後研修として、留学の成果をプレゼンテーションする機会も設ける。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当たる。	
	海外語学短期研修2(ドイツ語)	ドイツの本学提携大学に、夏期休暇中の3週間を利用して短期留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。現地の語学コースで学びつつ、ホームステイ先に滞在することで、ドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深める。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。事後研修として、留学の成果をプレゼンテーションする機会も設ける。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当たる。	
	海外語学短期研修1(フランス語)	フランス国内の語学学校に一月、短期語学留学(夏期休暇中)を行い、フランス語力の充実、特に実際の場での会話能力の充実を図る。併せて、フランス人の実際の生活、文化に直接に触れることで、日本の大学の授業では行うことが容易ではない、異文化コミュニケーションに対する柔軟な対応力を培うことを目的とする。なお、大学での授業との関連性に配慮し、参加者に対しては研修前に集中的に事前研修が行われ、また現地での研修の一定期間、本学の教員および職員が引率して指導にあたる。	
	海外語学短期研修2(フランス語)	フランス国内の語学学校に一月、短期語学留学(春季休暇中)を行い、フランス語力の充実、特に実際の場での会話能力の充実を図る。併せて、フランス人の実際の生活、文化に直接に触れることで、日本の大学の授業では行うことが容易ではない、異文化コミュニケーションに対する柔軟な対応力を培うことを目的とする。なお、大学での授業との関連性に配慮し、参加者に対しては研修前に集中的に事前研修が行われ、また現地での研修の一定期間、本学の教員および職員が引率して指導にあたる。	
	海外語学短期研修1(中国語)	中国の本学提携大学に短期留学(夏期休暇中の1ヶ月)して中国語を学習し、中国語の理解・運用能力の向上を図る。現地での体験的学習を通じて中国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることを目標とする。留学の前に事前研修をおこない、必要となる基礎的な中国語能力および中国社会や文化に関する基礎知識を確保する。事後研修として留学報告を作成しプレゼンテーション形式で発表を行う。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当たる。	
	海外語学短期研修2(中国語)	中国の本学提携大学に短期留学(春季休暇中の1ヶ月)して中国語を学習し、中国語の理解・運用能力の向上を図る。現地での体験的学習を通じて中国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることを目標とする。留学の前に事前研修をおこない、基礎的な中国語能力および中国社会や文化に関する基礎知識を確保する。事後研修として留学報告を作成しプレゼンテーション形式で発表を行う。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当たる。	
	海外語学短期研修1(スペイン語)	海外語学短期研修1(スペイン語)では、春期休暇期間中に、スペイン語圏の本学提携大学・研修機関に約1ヵ月の短期留学をして実践的にスペイン語を学び、スペイン語の理解力・運用能力の向上を図る。また、現地での体験的学習を通じて、スペイン語圏の文化・歴史・政治・経済などに関する関心を高めるとともに、その社会に対する理解を深めることを目標とする。留学の前には事前研修を行ない、渡航前に必要な語学の基礎力および現地事情についての基本的知識に関する指導を行う。	
	海外語学短期研修2(スペイン語)	海外語学短期研修2(スペイン語)では、春期休暇期間中に、スペイン語圏の本学提携大学・研修機関に約1ヵ月の短期留学をして実践的にスペイン語を学び、スペイン語の理解力・運用能力の向上を図る。また、現地での体験的学習を通じて、スペイン語圏の文化・歴史・政治・経済などに関する関心を高めるとともに、その社会に対する理解を深めることを目標とする。留学の前には事前研修を行ない、渡航前に必要な語学の基礎力および現地事情についての基本的知識に関する指導を行う。	
	海外語学短期研修1(韓国語)	韓国にある本学の提携大学に1ヶ月短期留学して韓国語を学び、韓国語の運用能力の向上を図る。特に、決まり文句としての挨拶やあいづち・簡単な質問と答など、初歩的なコミュニケーションができるようになることを目指す。加えて、現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることも目標とする。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 海外語学研修	海外語学短期研修2(コリア語)	韓国にある本学の提携大学に1ヶ月短期留学してコリア語を学び、コリア語の運用能力の向上を図る。特に、自分自身を中心とする話題について簡単な文を使って伝え合うことができることを目指す。加えて、現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることも目標とする。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修1(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生を対象に、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修ではまず海外提携校の英語による講義を聞き取り、内容を理解できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修2(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義を聞き取り、内容を理解した上で初歩的な議論に参加できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修3(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、授業で与えられる課題に中級レベルの英文で対応することに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修4(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、簡単なレポートを英文で作成できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修5(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、長めのレポートを英文で作成できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修6(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、短いプレゼンテーションができるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修7(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、長めのプレゼンテーションができるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修8(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生を対象に、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で授業内の議論に積極的に参加できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修1(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学では、特に日常会話において、挨拶や紹介などにとどまらず、時事的な話題にいたるまでこなせるだけの力をつけることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 海外語学研修	海外語学中期研修2(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、コミュニケーションの土台となる聞き取り能力を磨き、さまざまなシチュエーションに応じ、より実践的なレベルで相手の発する会話、文章を素早く、かつ的確に理解する力を養うことを目指す。	
	海外語学中期研修3(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、書かれたテキスト、とくに新聞や雑誌といった日常触れることの多い文章を読解し、的確に内容を把握する能力を身につけることを目指す。	
	海外語学中期研修4(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、実用的なレベルでドイツ語による文章を実際に書くレベルの力をつけることを目指す。	
	海外語学中期研修5(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、一つのテーマについて相手の述べる意見を理解しつつ、自分の考えを伝え、さらに相手を説得するだけの力を重点的に鍛える。	
	海外語学中期研修6(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学では、一つのテーマについて自分の考えをどのように的確に伝えることができるか、その準備から実践までの力を磨く。	
	海外語学中期研修7(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。文化に積極的に触れることで、日本とは異なった文化の意義と意味を深く理解する力を養うことを目指す。	
	海外語学中期研修8(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。ドイツの文化を学ぶ過程で、日本について改めて考える機会とし、双方向の異文化コミュニケーション力を培う場とする。	
	海外語学中期研修1(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、すでに基礎的な会話能力を習得している学生が、さらに一歩進んだ実践的な会話能力を身に付けることを目標とする。特に日常会話において、挨拶や紹介などにとどまらず、時事的な話題にいたるまでこなせるだけの力をつけることを目指す。	
	海外語学中期研修2(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、コミュニケーションの土台となる聞き取り能力を磨き、さまざまなシチュエーションに応じ、より実践的なレベルで相手の発する会話、文章を素早く、かつ的確に理解する力を養うことを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	海外語学中期研修3(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルの文法とコミュニケーション能力を習得している学生が、さらに高度な文法、構文を理解することを第一の目標として、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、書かれたテキスト、とくに新聞や雑誌といった日常触れることの多い文章を読解し、的確に内容を把握する能力を身につけることを目指す。	
	海外語学中期研修4(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、すでに初級から中級レベルのフランス語を習得した学生が、実用的なレベルでフランス語による文章を実際を書くレベルの力をつけることを目指す。とりわけ、1から6まである構文を中心に、動詞の各時制の使い方の習得を重要なポイントとする。	
	海外語学中期研修5(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎レベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、フランス語によるディスカッション能力を磨くことを目標とする。ここではとりわけ、一つのテーマについて相手の述べる意見を理解しつつ、自分の考えを伝え、さらに相手を説得するだけの力を重点的に鍛える。	
	海外語学中期研修6(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎レベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、フランス語によるプレゼンテーション能力を磨くことを目標とする。とくに、一つのテーマについて自分の考えをどのように的確に伝えることができるか、その準備から実践までの力を磨く。	
	海外語学中期研修7(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのフランス語能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、フランス文化に積極的に触れることで、日本とは異なった文化の意義と意味を深く理解する力を養うことを目指す。同時に、さまざまな人種、国籍の人間が暮らすフランス社会と接することで、それぞれの価値観を相対化することができる人間性を養う。	
	海外語学中期研修8(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのフランス語能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。とくに、フランス文化に触れる中で、逆に日本の社会、文化をフランス人をはじめとした外国人にいかにつたえるかということを考える。さらにその過程で、日本について改めて考える機会とし、双方向の異文化コミュニケーション力を培う場とする。	
	海外語学中期研修1(中国語)	海外語学中期研修1(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な文法や語彙を習得することを目標とする。現地での授業・生活を通して、多くのパターンの中国語に直に触れることで、目標の達成を図る	
	海外語学中期研修2(中国語)	海外語学中期研修2(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な文法や語彙を習得することを目標とする。とくに中期研修2では、日常の生活で触れる新聞や雑誌などのやや論理的な文章を読解する能力を習得することを目標とする。	
	海外語学中期研修3(中国語)	海外語学中期研修3(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な会話能力を習得することを目標とする。特に中期研修3では、日常生活において交わされる会話について、困難なく理解できる聴解力を身につけることを重視する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部 ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 海外語学研修	海外語学中期研修4(中国語)	海外語学中期研修4(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前すでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な会話能力を習得することを目標とする。特に中期研修4では、日常生活において交わされる会話について、困難なく内容を伝達するための発話能力を身につけることを重視する。	
	海外語学中期研修5(中国語)	海外語学中期研修5(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前すでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な文法と語彙を踏まえ、実用的な構文に基づいた作文能力を習得することを目標とする。中期研修5では一定の意味のまとまりと長さを有する文章の作成までを視野に入れる。	
	海外語学中期研修6(中国語)	海外語学中期研修6(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流提携校に4～5箇月間留学して集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、中級レベルの会話力と作文力を踏まえて、さらに高度なレベルで、一定の内容を的確に伝達するプレゼンテーション能力の習得を目標とする。中期研修6ではとくに、配布文書の作成と口頭説明を行うことで総合的な中国語運用能力を涵養する。	
	海外語学中期研修7(中国語)	海外語学中期研修7(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流提携校に4～5箇月間留学して集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、中級レベルの運用力をさらに伸ばし、留学地域の歴史・文化・社会などについて総合的に理解を深めることを目標とする。中期研修7では、図書館・博物館・美術館などを活用し、文献・文物・画像・映像など幅広い資料に触れることを重視する。	
	海外語学中期研修8(中国語)	海外語学中期研修8(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流提携校に4～5箇月間留学して集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、帰国後に、留学中の体験や習得知識について、中国語を用いて、文書・口頭説明と映像資料による報告プレゼンテーションを行うことを指導する。報告プレゼンテーションは、本学学生に公開する形式で行い、留学や異文化理解の意義が大学で広く共有されることを目標とする。	
	海外語学中期研修1(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、さらなる研修を行う。その際、すでに基礎的な会話能力を習得している学生が、さらに一歩進んだ実践的な会話能力を身につけることを目標とする。特に日常会話において、挨拶や紹介などにとどまらず、時事的な話題にいたるまでこなせるだけの力をつけることを目指す。	
	海外語学中期研修2(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、さらなる語学研修を行う。その際、コミュニケーションの土台となる聞き取り能力を磨き、さまざまなシチュエーションに応じ、より実践的なレベルで相手の発する会話、文章を素早く、かつ的確に理解する力を養うことを目指す。	
	海外語学中期研修3(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルの文法とコミュニケーション能力を習得している学生が、さらに高度な文法、構文を理解することを第一の目標として、研修を行う。その際、書かれたテキスト、とくに新聞や雑誌といった日常触れることの多い文章を読解し、的確に内容を把握する能力を身につけることを目指す。	
	海外語学中期研修4(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が研修を行う。その際、すでに初級から中級レベルのスペイン語を習得した学生が、実用的なレベルでスペイン語による文章を実際に書くレベルの力をつけることを目指す。とりわけ、動詞の各時制の使い方の習得を重要なポイントとする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 海外語学研修	海外語学中期研修5(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎レベルのコミュニケーション能力を習得している学生がさらなる研修を行う。その際、スペイン語によるディスカッション能力を磨くことを目標とする。ここではとりわけ、一つのテーマについて相手の述べる意見を理解しつつ、自分の考えを伝え、さらに相手を説得するだけの力を重点的に鍛える。	
	海外語学中期研修6(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎レベルのコミュニケーション能力を習得している学生がさらなる研修を行う。その際、スペイン語によるプレゼンテーション能力を磨くことを目標とする。とくに、一つのテーマについて自分の考えをどのように的確に伝えることができるか、その準備から実践までの力を磨く。	
	海外語学中期研修7(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルを習得している学生がさらなる研修を行う。その際、スペイン語圏の文化に積極的に触れることで、日本とは異なった文化の意義と意味を深く理解する力を養うことを目指す。スペイン語で書かれた文化、歴史などに関する文章の読解力を高める。	
	海外語学中期研修8(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのスペイン語能力を習得している学生が、さらなる研修を行う。とくに、スペイン語圏の文化に触れる中で、逆に日本の社会、文化を外国人にいかにも伝えるかということを考える。さらにその過程で、日本について改めて考える機会とし、双方向の異文化コミュニケーション力を培う場とする。	
	海外語学中期研修1(コリア語)	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、決まり文句から自分自身を中心とする話題について伝え合うことができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修2(コリア語)	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、コミュニケーションの基本となる聞き取り能力を伸ばしながら、様々な場面に応じて実践的な会話ができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修3(コリア語)	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、聞き取り能力の向上に力を入れつつ、日常生活にかかわる文章を読み解き、書くことができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修4(コリア語)	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、新聞・雑誌などの文章を読んで、正確に内容を把握し、まとめて書くことができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修5(コリア語)	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、様々な相手や状況に応じて表現を選択し、適切なコミュニケーションを図ることができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部ビジネスデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 海外語学研修	海外語学中期研修6(韓国語)	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある大学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、ニュースや新聞記事などの時事的なテーマに関して、読んだり聞いたりした後、まとめて話すことができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、大学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修7(韓国語)	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある大学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、相手や状況によって失礼のない表現の選択、公式的な依頼や謝罪、批判などに関する適切な表現の選択などができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、大学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修8(韓国語)	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある大学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、連語・慣用句・ことわざ・四字熟語についての理解を深めながら、取り扱い説明書や契約書、請求書や見積書、広告やパンフレットなどの実用的な文を読み解くことができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、大学の本科目の単位に換算される。	

学校法人専修大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
専修大学					専修大学					
経済学部一部	経済学科	490	—	1,960	経済学部一部	経済学科	490	—	1,960	
	国際経済学科	205	—	820		国際経済学科	205	—	820	
法学部一部	法律学科	562	—	2,248	法学部一部	法律学科	562	—	2,248	
	政治学科	153	—	612		政治学科	153	—	612	
経営学部	経営学科	542	—	2,168	経営学部	経営学科	373	—	1,492	定員変更(△169)
						ビジネスデザイン学科	180	二	720	学科の設置(届出)
商学部一部	マーケティング学科	455	—	1,820	商学部一部	マーケティング学科	455	—	1,820	
	会計学科	220	—	880		会計学科	220	—	880	
文学部	日本語学科	71	—	284	文学部	日本語学科	71	—	284	
	日本文学文化学科	114	—	456		日本文学文化学科	114	—	456	
	英語英米文学科	142	—	568		英語英米文学科	142	—	568	
	哲学科	71	—	284		哲学科	71	—	284	
	歴史学科	132	—	528		歴史学科	132	—	528	
	環境地理学科	51	—	204		環境地理学科	51	—	204	
	人文・ジャーナリズム学科	93	—	372		0	—	0	平成31年4月学生募集停止	
						ジャーナリズム学科	124	—	496	学科の設置(届出)
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	235	—	940	ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	235	—	940	
人間科学部	心理学科	72	—	288	人間科学部	心理学科	72	—	288	
	社会学科	122	—	488		社会学科	122	—	488	
経済学部二部	経済学科	90	—	360	経済学部二部	経済学科	76	—	304	定員変更(△14)
法学部二部	法律学科	90	—	360	法学部二部	法律学科	76	—	304	定員変更(△14)
商学部二部	マーケティング学科	90	—	360	商学部二部	マーケティング学科	76	—	304	定員変更(△14)
	計	4,000	—	16,000		計	4,000	—	16,000	
専修大学大学院					専修大学大学院					
経済学研究科	経済学専攻(M)	30	—	60	経済学研究科	経済学専攻(M)	30	—	60	
	経済学専攻(D)	3	—	9		経済学専攻(D)	3	—	9	
法学研究科	法学専攻(M)	25	—	50	法学研究科	法学専攻(M)	25	—	50	
	民事法学専攻(D)	3	—	9		民事法学専攻(D)	3	—	9	
	公法学専攻(D)	3	—	9		公法学専攻(D)	3	—	9	
文学研究科	日本語日本文学専攻(M)	10	—	20	文学研究科	日本語日本文学専攻(M)	10	—	20	
	英語英米文学専攻(M)	5	—	10		英語英米文学専攻(M)	5	—	10	
	哲学専攻(M)	5	—	10		哲学専攻(M)	5	—	10	
	歴史学専攻(M)	10	—	20		歴史学専攻(M)	10	—	20	
	地理学専攻(M)	5	—	10		地理学専攻(M)	5	—	10	
	社会学専攻(M)	5	—	10		社会学専攻(M)	5	—	10	
	心理学専攻(M)	10	—	20		心理学専攻(M)	10	—	20	
	日本語日本文学専攻(D)	3	—	9		日本語日本文学専攻(D)	3	—	9	
	英語英米文学専攻(D)	2	—	6		英語英米文学専攻(D)	2	—	6	
	哲学専攻(D)	2	—	6		哲学専攻(D)	2	—	6	
	歴史学専攻(D)	5	—	15		歴史学専攻(D)	5	—	15	
	地理学専攻(D)	3	—	9		地理学専攻(D)	3	—	9	
	社会学専攻(D)	3	—	9		社会学専攻(D)	3	—	9	
	心理学専攻(D)	3	—	9		心理学専攻(D)	3	—	9	
経営学研究科	経営学専攻(M)	20	—	40	経営学研究科	経営学専攻(M)	20	—	40	
	経営学専攻(D)	3	—	9		経営学専攻(D)	3	—	9	
商学研究科	商学専攻(M)	10	—	20	商学研究科	商学専攻(M)	10	—	20	
	会計学専攻(M)	15	—	30		会計学専攻(M)	15	—	30	
	商学専攻(D)	2	—	6		商学専攻(D)	2	—	6	
	会計学専攻(D)	2	—	6		会計学専攻(D)	2	—	6	
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	28	—	84	法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	28	—	84	
	計	215	—	495		計	215	—	495	
石巻専修大学					石巻専修大学					
理工学部	食環境学科	40	—	160	理工学部	食環境学科	40	—	160	
	生物科学科	55	—	220		生物科学科	55	—	220	
	機械工学科	40	—	160		機械工学科	40	—	160	
	情報電子工学科	35	—	140		情報電子工学科	35	—	140	
	生物生産工学科	0	—	0		生物生産工学科	0	—	0	平成25年4月学生募集停止
経営学部	経営学科	190	—	760	経営学部	経営学科	190	—	760	
人間学部	人間文化学科	40	—	160	人間学部	人間文化学科	40	—	160	
	人間教育学科	40	—	160		人間教育学科	40	—	160	
	計	440	—	1,760		計	440	—	1,760	
石巻専修大学大学院					石巻専修大学大学院					
理工学研究科	物質工学専攻(M)	5	—	10	理工学研究科	物質工学専攻(M)	5	—	10	
	機械システム工学専攻(M)	5	—	10		機械システム工学専攻(M)	5	—	10	
	生命科学専攻(M)	5	—	10		生命科学専攻(M)	5	—	10	
	生命環境科学専攻(D)	3	—	9		生命環境科学専攻(D)	3	—	9	
	物質機能工学専攻(D)	3	—	9		物質機能工学専攻(D)	3	—	9	
経営学研究科	経営学専攻(M)	5	—	10	経営学研究科	経営学専攻(M)	5	—	10	
	経営学専攻(D)	3	—	9		経営学専攻(D)	3	—	9	
	計	29	—	67		計	29	—	67	

設置の趣旨等を記載した書類（目次）

ア	設置の趣旨及び必要性	p. 1
イ	学部・学科等の特色	p. 5
ウ	学部・学科等の名称及び学位の名称	p. 6
エ	教育課程編成の考え方及び特色	p. 6
オ	教員組織の編成の考え方及び特色	p.11
カ	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p.12
キ	施設、設備等の整備計画	p.13
ク	入学者選抜の概要	p.16
ケ	企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の 学外実習を実施する場合の具体的計画	p.16
コ	管理運営	p.18
サ	自己点検・評価	p.19
シ	情報の公表	p.21
ス	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	p.23
セ	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p.25

設置の趣旨等を記載した書類

ア 設置の趣旨及び必要性

1 建学の精神と学風

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した相馬永胤、田尻稻次郎、目賀田種太郎、駒井重格の4人の若者により創立された。

創立者たちは、明治維新後、米国のコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てよう。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えた。

4人の創立者は、帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立し、わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあつて、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとした。

いち早く近代法の考え方をわが国に根付かせようとした本学は、五大法律学校の一つとして重要な役割を担い、新時代を担う青年を教育・指導することによって、社会に「報恩奉仕」したその精神が本学の建学の精神であり、「質実剛健・誠実力行」が学風となっている。

2 21世紀ビジョン

本学は建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直した「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」を21世紀ビジョンに据えた。

社会知性（Socio-Intelligence）とは、専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力である。

今日、グローバル化の拡大と異文化交流の進展、情報化の加速、少子高齢化の進行など、我々が取り組まなければならない課題が山積しており、これらの社会的課題を解決するためには、地球的視野から諸問題を捉える力、創造的発想力、さらには深い人間理解や倫理観が求められている。

こうした新時代の社会で求められる知性こそ、「社会知性」であると考え、それは、学生一人ひとりが自己実現に生かせる知であると同時に、「専修大学が創り育てる知」でもあり、21世紀において、社会知性開発大学としての道を歩んでいる。

3 設置の必要性

18歳人口の減少期において、今後、本学が多様化、個性化を図りつつ、さらなる発展を遂げるためには、社会の要請を踏まえつつ、建学の精神に基づき、学部、学科における教育研究上の理念、目的を明確にし、特色ある個性的な目的や特徴と独自の存立意義を学内外に明らかにすることが重要となっている。

また、学術研究の高度化に伴い学部教育が対象とする専門領域も広範に及んできていることから、進学希望者の興味と関心や学習意欲に柔軟に对应していくために、学生の選択の幅や流動性を高める工夫も重要となっており、学術研究の進展や進学希望者の動向を勘案した教育組織の整備が求められている。

一方、本学の経営学部では、「理論と実践の融合」という経営学部の理念に基づき、人々を取り巻く社会とそこでの自己の存在を総合的に理解しつつ、組織の経営に欠かせない資源である「ヒト」、「モノ」、「カネ」及び「情報」についての深い知識を修め、それを経営の現場で活用できる力を身につけた人材の養成を目指した学部教育を展開してきた。

しかしながら、昨今の社会環境の複雑化や多様化に伴い、経営学部において対象としてきたそれぞれの専門分野における教育研究領域も多様な広がりを見せていることから、近年の学術研究の進展に対応するための教育研究の質的向上にむけた教育研究体制の整備と充実が必要となってきている。

今後、本学が社会の多様な期待や要請に適切に对应し、自律性に基づく多様化や個性化を推進していくためには、自らの責任において、社会や学生のニーズに対応した組織体制の見直しや教育内容の充実、教育方法の改善など、学部教育における組織改革と教育改革に格段の努力を注ぐことが重要であると考えている。

このような高等教育を取り巻く社会環境の変化や学術研究の進展に伴う社会的な要請、進学希望者の動向などを十分に踏まえるとともに、特に、昨今の進学需要や人材需要の動向を見据えたうえで、既設の経営学部における教育研究実績を基盤とする新たな教育研究の展開に向けて、平成31年4月より経営学部ビジネスデザイン学科を設置することとした。

なお、ビジネスデザイン学科の入学定員180人については、既設の経営学部の経営学科の入学定員542人から169人を移行するとともに、商学部二部のマーケティング学科の入学定員90人から11人を移行することとしており、大学全体の収容定員の変更を伴わない計画としている。【資料1】

4 卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

(1) 卒業後の進路

ビジネスデザイン学科の卒業後の進路としては、起業家や事業経営者として、事業活動分析や事業活動戦略から新しい事業の創造を通して、産業界の発展と振興や活性化に寄与することが期待されるとともに、営利・非営利の事業体に所属し、新規事業の企画や開発などの業務をはじめ、組織活動の管理・運営や諸課題を解決する業務に携わり、将来的に中核的管理職者となることにより、事業体の発展に寄与することが期待される。

(2) 既設の経営学部の就職状況

既設の経営学部では、開設以来、経営学に関する複数の学問領域を研究し及び教授することにより、経営にかかわる諸問題に対する洞察力を有し、問題を解決する手段を創造的に考察し、その解決に向けて自主的に行動することができる人材の養成にむけて、常に教育研究の改善に努めてきたことから、社会からの高い評価と信頼を得ており、これまでの経営学部の就職状況からしても、人材を受け入れる側の需要の高さをうかがうことができる。【資料2】

今般のビジネスデザイン学科の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設の経営学部における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、既設の経営学部における教育研究実績を基盤とする新たな教育研究の展開を目指すことから、これまで以上の求人件数を見込むことができるものと考えている。

(3) 卒業生の採用意向調査

ビジネスデザイン学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、民間企業等を対象としてビジネスデザイン学科の設置の必要性やビジネスデザイン学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、民間企業等においては、有効回答数 285 社の約 73.7%にあたる 210 社が「不足している」と回答していることから、人材不足の状況をうかがうことができるとともに、ビジネスデザイン学科の設置については、有効回答数 285 社の約 82.5%にあたる 235 社が「必要性を感じる」と回答しており、ビジネスデザイン学科を卒業した人材に対する採用意向については、有効回答数 285 社の約 73.7%にあたる 210 社が「採用したい」と回答している。

このような限定された一部の民間企業等に対する調査結果においても、ビジネスデザイン学科を卒業した人材への需要が高いことが認められることから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。【資料3】

5 教育研究上の目的、人材の養成及び研究対象とする学問分野

(1) 経営学部

経営学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「経営学分野」として、「経営学を構成する複数の学問領域を研究し及び教授することにより、経営に関わる諸問題に対する洞察力を有し、問題を解決する手段を創造的に考察し、その解決に向けて自主的に行動することができる人材を養成する」ことを目的としている。

また、経営学部では、「理論と実践の融合」という経営学部の理念に基づき、人々を取り巻く社会とその中での自己の存在を総合的に理解しつつ、組織の経営に欠かせない資源である「ヒト」、「モノ」、「カネ」および「情報」についての深い知識を修め、それを経営の現場で活用できる力を身に付けることを目的としている。

(2) ビジネスデザイン学科

ビジネスデザイン学科では、経営学を構成している学問領域に関する教育研究を通して、広く社会に貢献することを目的として、「顧客、市場、事業創造等に関する専門的な知識を身に付け、その専門知識を活用して世の中に存在する様々な情報から顧客のニーズやビジネスの種を発見し、それを新規事業として立ち上げることができるような行動力及びこれに関係する様々な人々を集め成功に導くことができる強いリーダーシップを有する人材を養成する」こととする。

また、ビジネスデザイン学科では、養成する人材を踏まえて、学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき知識・能力について、以下の通り、定めることとする。

- ①社会とその中での自己の存在を総合的に理解するために、文化・歴史・社会、自然など幅広い教養を身につけている。
- ②経営全般に関する幅広い知識と、顧客や市場、事業創造等に関する知識を修得している。
- ③多様な価値観をもった集団の中で、他者との差異を認めた上で自らの役割を自覚し、新たな価値の創造に向けて、自主的に行動できるリーダーシップを身につけている。
- ④新しい事業や製品、サービスの創造において生じる課題について、その解決に必要な情報を入手し、分析した結果を適切に発信することができる。
- ⑤自らが得た様々な情報や知識を活用して、グローバルかつ既存概念にとらわれない新たな視点で様々な問題を発見・収集・整理し、解決することができる。

イ 学部・学科等の特色

ビジネスデザイン学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「経営学分野」として、経営学を構成している学問領域に関する教育研究を通して、広く社会に貢献することを目的として、「顧客、市場、事業創造等に関する専門的な知識を身に付け、その専門知識を活用して世の中に存在する様々な情報から顧客のニーズやビジネスの種を発見し、それを新規事業として立ち上げることができるような行動力及びこれに関係する様々な人々を集め成功に導くことができる強いリーダーシップを有する人材を養成する」こととしている。これは、経営を成り立たせるための「組織を効率的に経営する」、「新しいビジネスをデザインする」という二つの領域のうち、前者を既設の経営学科の、後者をビジネスデザイン学科の中心に位置づけることを意図している。

ビジネスデザイン学科では、こうした目的をより具体化するために、ビジネスデザインを構成する主な要素として、「企業と市場・社会」、「顧客満足とマーケティング」、「ベンチャー創造と事業継承」に分類し、学生に提示する。

「企業と市場・社会」は、企業、組織及び社会が直面している課題、経済の動向などに関する基礎的な知識に加え、社会が向かおうとする方向性に関する洞察力を修得することで、新規事業及び新しい商品・サービス・制度・仕組みの創造につなげていくことをねらいとしている。

「顧客満足とマーケティング」は、顧客、市場及び社会に潜むニーズや種を見つけるうえで必要となる、顧客満足及びマーケティングに関する知識を修得し、新規事業及び新しい商品・サービス・制度などを世の中に提案していくための力を身に付ける。また、それらを軌道に乗せ、持続的に成長させるために、顧客、市場及び社会の満足度を高めるための力を身に付けることをねらいとしている。

「ベンチャー創造と事業継承」は、新規事業の成功率を高めるうえで必要となる、ベンチャー企業論や事業継承論に関する深い知識を修得し、起業家・創業者の情熱やリーダーシップ、ビジネスモデルの確立、ベンチャーキャピタリストなどからの資金調達、インキュベーションの段階、急成長する組織のマネジメント、株式公開、起業家・創業者の引退に伴う事業の継承など、新規事業における専門的知識及びステークホルダーとの密接な協力・共同体制を構築するために知識を身に付けることをねらいとしている。

また、前述のとおり、ビジネスデザイン学科の卒業後の進路としては、起業家や事業経営者として、事業活動分析や事業活動戦略から新しい事業の創造を通して、産業界の発展と振興や活性化に寄与することが期待されるとともに、営利・非営利の事業体に所属し、新規事業の企画や開発などの業務をはじめ、組織活動の管理・運営や諸課題を解決する業務に携わり、将来的に中核的管理職者となることにより、事業体の発展に寄与

することが期待される。

このことから、ビジネスデザイン学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申による「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、経営学分野における教育・研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとする。

ウ 学部・学科等の名称及び学位の名称

ビジネスデザイン学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「経営学分野」として、経営学を構成している学問領域に関する教育研究を通して、広く社会に貢献することを目的として、「顧客、市場、事業創造等に関する専門的な知識を身に付け、その専門知識を活用して世の中に存在する様々な情報から顧客のニーズやビジネスの種を発見し、それを新規事業として立ち上げることができるような行動力及びこれに関係する様々な人々を集め成功に導くことができる強いリーダーシップを有する人材を養成する」こととしている。

このような、ビジネスデザイン学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野とビジネスデザイン学科における養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「ビジネスデザイン学科」、学位を「学士（経営学）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Business Design」、学位の英訳名称を「Bachelor of Business Administration」とすることとした。

学科の名称	ビジネスデザイン学科	「Department of Business Design」
学位の名称	学士（経営学）	「Bachelor of Business Administration」

エ 教育課程編成の考え方及び特色

1 教育課程の編成方針

ビジネスデザイン学科では、教育研究上の目的及び養成する人材の目的を達成するために、教育課程を「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の4つの科目群から構成することとし、教育課程全体の体系性・順次性を確保し、かつ教養教育と専門教育の有機的連携を図ることとしている。

「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」では、中央教育審議会答申などで指摘されている教養教育の重要性や意義を踏まえるとともに、養成しようとする知識や能力を明確にしたうえで、具体的な教育目標を立て、その教育目標に対応する科目群から編成している。これらの科目群について、「転換・導入科目」は、専門的な知

識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学ぶとともに、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身に付けることとしている。「教養科目」及び「外国語科目」は、学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることで、多面的なもの見方の基礎を養成することとしている。

「専門科目」では、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次性のある教育課程の編成としている。これにより、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や、主体的に問題の解決に取り組む能力を身に付けることとしている。

2 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成・実施の方針

ビジネスデザイン学科では、ビジネスデザイン学科における教育研究上の目的及び養成する人材の目的である「顧客、市場、事業創造等に関する専門的な知識を身に付け、その専門知識を活用して世の中に存在する様々な情報から顧客のニーズやビジネスの種を発見し、それを新規事業として立ち上げることができるような行動力及びこれに関係する様々な人々を集め成功に導くことができる強いリーダーシップを有する人材を養成する」ことを踏まえて、学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき知識・能力について、以下の通り、定めている。

- ①社会とその中での自己の存在を総合的に理解するために、文化・歴史・社会、自然など幅広い教養を身につけている。
- ②経営全般に関する幅広い知識と、顧客や市場、事業創造等に関する知識を修得している。
- ③多様な価値観をもった集団の中で、他者との差異を認めた上で自らの役割を自覚し、新たな価値の創造に向けて、自主的に行動できるリーダーシップを身につけている。
- ④新しい事業や製品、サービスの創造において生じる課題について、その解決に必要な情報を入手し、分析した結果を適切に発信することができる。
- ⑤自らが得た様々な情報や知識を活用して、グローバルかつ既成概念にとらわれない新たな視点で様々な問題を発見・収集・整理し、解決することができる。

ビジネスデザイン学科では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に留意しつつ、卒業までに学生が身に付けるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）を次のとおり定めることとする。

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

- ①人類の文化や社会、自然など共通に求められる幅広い知識の習得及び様々な角度から物事を見ることができる能力を習得するための科目を配置する。
- ②ビジネスに必要な経営に関する基礎的な知識の習得とともに、顧客や市場についての理解と事業創造を主体的に考える知識と能力を習得するための科目を配置する。
- ③ビジネスに関する情報を収集・処理・分析する知識を習得するとともに、情報の意義や役割の理解と情報を主体的に活用する能力を習得するための科目を配置する。
- ④課題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析するとともに、習得した知識・能力を活用し、問題を解決する能力を習得するための科目を配置する。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

- ①学位授与に求められる体系的な教育課程の構築に向けて、初年次教育、教養教育、専門教育、キャリア教育等の観点を踏まえた編成としており、特に、初年次教育は、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる内容とし、キャリア教育は、卒業後も自律・自立して学習できる観点を踏まえた内容としている。
- ②知識の理解を目的とする教育内容は、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容は、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。
- ③学修者の能動的な学修への参加を促すために、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする能動的学修を導入するとともに、問題解決能力や批判的思考力を養うために、教室外での共同学習、ケーススタディなどによる発見学習、調査学習、体験学習を導入する。
- ④教育課程編成・実施の方針が、教育研究上の目的や人材養成の目的を達成するという目的のもとに策定され、かつ、教育課程の編成において、体系性と順次性が明確であることを示すために、授業科目の系統性を示す科目ナンバリングを導入する。
- ⑤年次やsemesterごとの教育内容の全体が俯瞰でき、時系列に沿った到達目標が理解できることで、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、卒業後の進路を踏まえた典型的な履修モデルを整備するとともに、CAP制の意義を踏まえ履修登録単位数を明示することとしている。

3 各科目群の設定理由

(1) 転換・導入科目

「転換・導入科目」は、専修大学の入門・基礎科目として位置づけられている。

高等学校段階の教育と大学での教育を接続させるための初年次教育としての目的を重視して、少人数演習形式の「専修大学入門ゼミナール」を配置し、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける。

また、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学修すると同時に、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につけるために、中央教育審議会答申などで指摘されている「学士力」を意識し、「キャリア入門」、「あなたと自然科学」など、5科目8単位を配置する。

(2) 教養科目

「教養科目」は、「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」、「融合領域科目」、「保健体育系科目」から構成している。各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることを目的としている。「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」では、特に、文化・歴史・社会、自然など幅広い教養を身につけることを目的にし、文系学部であることに鑑み、「自然科学系科目」の単位修得を卒業要件としている。また、「融合領域科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力の涵養を目指すものである。「保健体育系科目」は、自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず、自己管理能力やチームワークなども養成する目的を有している。これらの科目は、学部・学科を超えた普遍性の理解を基本理念とし、多面的なものの見方の基礎を養成することから、89科目190単位を配置する。

(3) 外国語科目

「外国語科目」は、英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的としている。英語のうち、1年次および2年次に履修する、外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力の養成を目的とした科目は、入学時に行うプレイスメントテストに基づいた習熟度別の少人数クラスを編成し、レベル別の授業とすることで、能力の向上を目指している。英語以外の外国語については、多くの学生が初めて学習する科目であることを踏まえ、初級・中級・上級とそれぞれの学習段階での到達目標

を明確にしたレベル別の授業としている。また、異文化・多文化への理解を深めるために、講義形式で世界の諸地域の言語とその背景となる文化を学ぶ科目を含めて、189科目 271単位を配置する。

(4) 専門科目

「専門科目」は、「基礎科目」、「演習科目」、「基幹科目」、「発展科目」、「応用科目」、「関連科目」の科目群から編成することとしており、4年間の体系的な科目履修を通して、知識と能力を身につけることが可能となるよう配慮し、基礎から基幹、基幹から応用へと発展させるための教育課程の編成としている。

1) 基礎科目

「基礎科目」は、ビジネスデザイン学科の中心的な学問分野である経営学の基本的な知識を身に付け、「演習科目」、「基幹科目」、「発展科目」、「応用科目」を学ぶうえでの土台とするために、経営学の根幹を成す学問領域である経営、会計、経済、マーケティング、情報・統計、経営管理に関する基礎的な知識を修得する科目として、12科目 24単位を必修科目として配置する。

2) 演習科目

「演習科目」は、経営学部の理念である「理論と実践の融合」の下、理論を実践につなげるための科目を配置している。この「演習科目」では、「基礎科目」及び「基幹科目」で修得した理論を土台に、経営課題への取組みや、ビジネスモデルの計画、新規事業や商品の企画などを行う。それにより、論理的な思考力や問題解決・分析に必要となる基礎的スキルを身に付け、ビジネス実践の場面に適用することができる実践力をもって、ビジネスの諸活動を主体的かつ合理的に行う能力と態度を育成するとともに、資料収集や事例分析、意見交換などの能動的な学習を通して、新たな事業の創造にむけた行動力を涵養する。これらを実現するための科目として、必修科目 3科目 6単位を含む 26科目 56単位を配置する。

3) 基幹科目

「基幹科目」は、ビジネスデザインの基幹となる学問領域の「企業と市場・社会」、「顧客満足とマーケティング」、「ベンチャー創造と事業継承」で構成し、「基礎科目」の理解のうえに、それらの学問領域の基本を具体的に理解するとともに、「発展科目」、「応用科目」を履修する際の、各学問領域の基盤となる基礎的理論を修得するための科目として、34科目 68単位を配置する。

4) 発展科目

「発展科目」は、新規事業や商品などを企画するうえで必要となる、より高度な知識や理論を修得するための、また、新規事業が軌道に乗った場合の円滑な組織運

営を実現するために必要となる知識や理論を修得するための科目群とする。そのため、「基礎科目」、「演習科目」、「基幹科目」を受けて、専門教育の体系全般について理解するとともに、学生の興味と関心に応じた選択の幅を広げ、主体的な科目の選択が可能となるための科目として、22科目44単位を配置する。

5) 応用科目

「応用科目」は「基礎科目」、「演習科目」、「基幹科目」、「発展科目」で学んだ知識を、現実世界に応用するために必要となる、より高度な理論や知識、幅広い視点を身に付けるための科目を配置する。そして、「発展科目」同様、学生の興味と関心に応じた選択の幅を広げ、主体的な科目の選択が可能となるための科目として、56科目112単位を配置する。

6) 関連科目

「関連科目」は、多くの人々をまとめて率いて、目的や方向に向かって教え導く能力と物事に進んで取り組むことができ、自ら目的を設定し、確実に行動することができる態度の養成及びビジネスの最新の動向や最先端のビジネス実践の現場における知見や経験に触れるための科目として、3科目8単位を配置する。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

ビジネスデザイン学科は、既設の経営学部における教育研究実績を基盤とする新たな教育研究の展開を目指すことから、既存の教員組織を最大限に活用しつつ、学部教育における教育成果をより一層発揮することが可能となる教員組織の編成とするとともに、教育研究上の目的及び養成する人材並びに教育課程編成の考え方を踏まえたうえで、これらの目的を達成することが可能となる教員組織の編成としている。

具体的には、ビジネスデザイン学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「経営学分野」としていることから、教員組織の編成においては、「経営学分野」を専門とする専任教員を中心とした教員組織としているとともに、教育上主要と認める授業科目を中心として、当該専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授9人及び准教授2人、講師1人を配置する計画としている。

また、ビジネスデザイン学科の教員組織の年齢構成については、30歳代1人、40歳代3人、50歳代5人、60歳代3人から構成することとしており、特定の年齢層に偏ることのないよう計画しているとともに、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

なお、ビジネスデザイン学科の教員組織の編成においては、本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員の配置はしないこととしている。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1 教育方法

(1) 授業の方法

授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技術や技能の修得を目的とする教育内容については、演習形式及び実験形式や実習形式を中心とした授業形態を採ることとしている。

(2) 学生数の設定

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に即した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は最大でも300名程度とする。演習形式は学生数に一定の制限を設け、原則として最大でも50名程度とし、実験形式及び実習形式は原則として10名程度とする。

(3) 配当年次

配当年次は、基礎から基幹へと体系的な学習が可能となるようにするとともに、特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、単位制度の4年間における制度設計の観点を踏まえて、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮した配当としている。

(4) 履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点を踏まえ、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学習効果を高めるために、1学年あたりの履修科目の登録の上限を44単位とする。

(5) 厳格なる成績評価

卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行うとともに、客観的な評価基準を適用することから、厳格な成績評価の方法として、GPA制度を活用する。

2 履修指導方法

履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じるオフィスアワーを設けることにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、年度初めに学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生の履修指導体制を整備する。

また、専門科目では、専門分野の学問体系と学習段階に即した授業科目を配置しており、学部教育段階では、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえたうえで、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した履修モデルを提示する。【資料4】

3 卒業要件

卒業要件は、学部に4年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、124単位以上を修得することとし、「転換・導入科目」から必修科目2単位を修得するとともに、「教養科目」の選択必修科目から2単位、「外国語科目」の必修科目8単位を含み、「教養科目」と「外国語科目」から合計22単位以上を修得する。

「専門科目」は、「基礎科目」の必修科目24単位を修得したうえで、「演習科目」から16単位（必修科目6単位と選択必修科目からの2単位を含む）の修得とともに、「基幹科目」からの18単位の修得を含み、「演習科目」、「基幹科目」、「発展科目」、「応用科目」、「関連科目」から合計で52単位以上を修得する。

なお、2年次から3年次への進級に際し、卒業要件単位を60単位以上修得していることを、進級条件として設定している。

キ 施設、設備等の整備計画

1 校地、運動場の整備計画

ビジネスデザイン学科を設置する生田キャンパスは、神奈川県川崎市多摩区東三田に位置し、豊かな自然に囲まれた生田緑地に最新の学術・研究施設を誇るキャンパスとして、現在、157,369.14㎡の校地面積を有しており、その内訳は、校舎敷地面積が116,973.92㎡、運動場面積が40,327.42㎡となっている。

運動用設備としては、温水プール、フェンシング場、ランニングギャラリー、アリーナ、柔道場、卓球場、トレーニング室を備える総合体育館の他、第1・第2体育館、ゴルフ練習場、アーチェリー場、多目的グラウンド（人工芝）、テニスコート、等を備えているとともに、敷地内の空地を利用して、学生が休息するための十分な

場所を確保することで、大学教育に相応しいキャンパス環境を整えている。

2 校舎等施設の整備計画

ビジネスデザイン学科を設置する生田キャンパスでは、現在、11の教室棟、図書館分館等の校舎施設を有しており、大学設置基準に定める校舎面積は126,858.13㎡で、学部教育に必要となる主要な教室等の内訳としては、講義室123室、演習室74室、実験・実習室100室、情報処理学習施設33室、語学学習施設5室の他、教員研究室、非常勤講師室、図書館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂等を整備している。

ビジネスデザイン学科は、既設の経営学部の経営学科及び商学部二部のマーケティング学科の入学定員の一部を移行して設置することとしており、大学全体の収容定員の変更を伴わない計画としていることから、現有の校舎等を有効的に利用する計画としている。

また、ビジネスデザイン学科では、専任教員12人を配置することとしているが、ビジネスデザイン学科の専任教員は、いずれも既設の経営学部の経営学科から異動する計画としており、異動する専任教員の研究室については、個人研究室10室、共同研究室1室を既に整備している。

設備については、現在、保有している機械・器具37,072点を有効的に利用することとしている。

3 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学の図書館は、生田キャンパスに本館及び生田分館が、神田キャンパスに神田分館及び法科大学院分館が整備されている。総合図書館としての機能を持つ本館は、専有延床面積17,419.00㎡、収容可能冊数約180万冊、閲覧席数835席の規模である。生田分館は専有延床面積4,856.00㎡、収容可能冊数約23万冊、閲覧席数650席であり、学生が図書館を身近に感じてもらうための施策として、文庫・新書判図書や一般書を中心に収集している。

学生用の図書に関しては、教員ならびに図書館職員が学修・教養等に必要な図書を選書し、あわせてシラバス掲載図書や、授業に関連して教員が推薦した「教員推薦図書」の購入を行っている。購入希望の申し込みも積極的に受け付けており、OPAC（オンライン閲覧目録）画面からの受付も可能となっている。平成28年度の生田キャンパスでの図書の年間収集冊数は、約17,000冊にのぼり、本学科関連図書は今後も継続して、さらに収集に努めていく。

ビジネスデザイン学科関連分野の資料に関して、現在整備されている学術雑誌等

は【資料5】のとおりである。

電子ジャーナルは、単体での購入のほかに、パッケージとして、「SpringerLink」、「Emerald Management 95」、「Science Direct」などを購入し提供している。オンライン・データベースは、「EBSCOhost Business Source Premier」、「Emerald eBook Series Collection Business, Management」、「企業史料統合データベース Business Archives Online」、「Passport」、「日経 BP 記事検索サービス」、「東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー」、「eol」、「日経テレコン」などを提供している。とくに「日経テレコン」は、平成 30 年度に端末固定式から IP アドレス認証式へ変更することで、学内のさまざまな端末からアクセスが可能となり、利便性の向上が見込まれる。

電子ブックの導入も積極的に進めており、平成 29 年度は全体で約 2,200 冊分を導入した。これらの電子資料は、図書館ホームページに展開している「データベースリンク集」、「電子ジャーナル・電子ブック」から、容易にアクセスすることができる。学外からの接続については既存の VPN 接続機能に加え、平成 30 年度から学術認証フェデレーション「学認 (GakuNin)」の提供も開始する予定である。

図書館の開館状況について、授業期間中の図書館の開館時間は 9 時から 21 時(土曜は 19 時)である。休日開館は、前期・後期の試験期間前を中心に年間 15 日間実施しており、年間開館日数は約 290 日となる。

施設面では、平成 26 年、本館 4 階の視聴覚資料閲覧スペース (1,061.25 m²) を一部改装してキャスター付のテーブル 30 台、椅子 40 脚、ホワイトボード 20 台等を設置し、アクティブ・ラーニングに対応した施設を整備した。これにより、同スペースの名称を「AV プラザ」から「アクティブラーニング・プラザ」に変更し、新たな学修環境を提供することができている。図書については、学修用和図書等は開架閲覧室に、学術書・洋書等は書庫に配架されており、ほとんどすべてが開架式となっている。これらの図書資料は日本十進分類法により分類、配架されているため、教員・学生は、関連分野ごとに図書資料そのものを一覧し、直接手に取ることができる。

レファレンスについては、専門スタッフが平日 9 時から 17 時 (土曜は 12 時) まで対応できる体制を整えた。他機関との相互協力という点では、OPAC での CiNii Books、CiNii Articles、国立国会図書館サーチ等の横断検索機能による他機関の所蔵状況表示と、それに伴う文献複写や現物貸借、神奈川県内大学図書館 (41 校) 間での共通閲覧証の発行、国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の利用などを実施している。

本学では、上述のように図書館施設・サービスの充実に努めており、ビジネスデ

ザイン学科の研究・学修に関して、十分な環境を整備している。

ク 入学者選抜の概要

1 受入方針

ビジネスデザイン学科では、「顧客、市場、事業創造等に関する専門的な知識を身に付け、その専門知識を活用して世の中に存在する様々な情報から顧客のニーズやビジネスの種を発見し、それを新規事業として立ち上げることができるような行動力及びこれに関係する様々な人々を集め成功に導くことができる強いリーダーシップを有する人材を養成する」こととしている。そのため、経営学に対する興味と関心や学習意欲を有するとともに、新規事業及び新しい商品・サービス・制度・仕組みの創造にも意欲を持ち、学部教育を受けるために必要となる基礎的な学力として、高等学校の教育課程を幅広く修得している者を受け入れることとする。

2 選抜方法等

選抜方法は、大学入試センター試験利用入学試験、一般入学試験、指定校制推薦入学試験、教育交流提携校推薦入学試験、公募制推薦入学試験、スポーツ推薦入学試験、付属高等学校推薦入学試験、外国人留学生入学試験により選抜する。

大学入試センター試験利用入学試験は、大学入試センター試験の結果、一般入学試験は、筆記試験により選考を行うこととし、一般入学試験の一部制度では、実用英語技能試験や TEAP 等の外部試験の資格・スコアを活用しつつ、選抜する。

指定校制推薦入学試験、教育交流提携校推薦入学試験では書類審査、スポーツ推薦入学試験では書類審査と面接、付属高等学校推薦入学試験では書類審査と作文、外国人留学生入学試験では、日本留学試験のスコアを活用した書類審査、公募制推薦入学試験では、書類審査、小論文及びプレゼンテーションにより選抜する。

なお、ビジネスデザイン学科の各選抜方法の募集定員については、大学入試センター試験利用入学試験、一般入学試験 計 120 人、指定校制推薦入学試験、教育交流提携校推薦入学試験、公募制推薦入学試験、スポーツ推薦入学試験、付属高等学校推薦入学試験、外国人留学生入学試験 計 60 人とする。

ケ 企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

1 企業実習(インターンシップを含む)

「理論と実践の融合」を理念とする経営学部において、インターンシップの意義は大きい。なぜなら、インターンシップは自ら学んだことを実践する機会を学生た

ちに提供するとともに、実践を通して改めて理論を考え直す機会も提供してくれるからである。経営学部では、学生が自主的に取り組むインターンシップをより意義のあるものとするために、次のような2つの支援体制をとる。

第一に、授業科目「インターンシップ基礎」を通じた支援である。この科目では、希望者に対して選考を実施したうえで、事前研修を行い、ビジネスマナーを広く学生に教授し、学生による自主的なインターンシップの意義を高める。第二に、授業科目「インターンシップ」を通じた支援である。この科目では、事前と事後の学修を徹底し、ビジネスデザイン学科で開講する科目との関連を意識させながら、その後の学修を促す。

1) 実習先の確保の状況【資料6】

- ・企業が提供しているインターンシップの機会を含める。
- ・過去に経営学部学生の受け入れ実績がある企業に対して受け入れを依頼する（平成29年度の受入承諾企業は12社）。

2) 実習先との連携体制

- ・企業が提供しているインターンシップ先には、提供内容の確認と学生が受講したことを証明する成績評価票に記入してもらう。
- ・経営学部が学生に紹介するインターンシップ先との間では協定書を締結し、インターンシップの実施に関して必要な事項を事前に定める。また、担当教員と職員とで、連絡体制を確立し、実習期間前から後にかけてのトラブルに対応できるよう連携をはかる。

3) 成績評価体制及び単位認定方法

- ・授業科目「インターンシップ基礎」については、学修の状況の程度に応じて評価し、1単位の認定を行う。
- ・授業科目「インターンシップ」の履修は、「インターンシップ基礎」の単位を修得していることを条件とし、事前のレポート、5日以上研修（就業体験を含む）を受講したことの証明、ならびに事後の振り返りのレポートの内容を評価し、1単位の認定を行う。

4) その他特記事項

- ・学生は学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入し、実習中の不慮の事故等に備える体制を取っている。

2 海外語学研修

経営学部ビジネスデザイン学科所属の学生は、本学の国際交流協定校等（以下、協定校）で実施している「中期留学プログラム」「夏期留学プログラム」「春期留

学プログラム」に参加可能であり、前期又は後期1学期間及び夏期・春期の長期休暇中に外国語能力の向上や異文化理解力を育む機会が提供されている。

派遣期間が1学期間の中期留学プログラムについては、「中期留学プログラム1～8」の計16単位が認定される。短期プログラムとして、夏期休暇中に実施する「夏期留学プログラム」と、春期休暇期間中に実施する「春期留学プログラム」については、「海外語学短期研修」として2単位が認定される。

派遣先大学は、本学の国際交流協定校や、長年学生を派遣している語学学校であることから、相互の信頼関係が構築されている。また、学生の引率として本学教職員が帯同する際には、プログラムの点検やカリキュラム内容に関する打合せを現地担当者で行っている。

コ 管理運営

1 教員組織の編成方針

教員組織の編成は、学長の統督の下、学部教授会においては学部長、大学院研究科委員会においては大学院研究科長、法科大学院教授会においては法科大学院長が、それぞれ校務の責任者となり、教員組織を円滑に運営している。なお、学長の職務を助けるために副学長を置いている。

教員組織間の連携と調整を図るために、学部においては学部長会、大学院研究科においては大学院委員会が機能している。学部長会は、本学における学術の研究、教育及び教員の人事等に関する方針を審議し、各学部間の連絡調整を図る機関であり、大学院委員会は、各研究科に関する共通の重要事項、各研究科間の連絡調整に関する事項などを審議する。

2 教授会

教授会は、専修大学学則第47条において、「各学部に教授会を設け、教授及び准教授をもって組織する。ただし、学部の定めるところにより、専任の講師を加えることができる。」旨の規定がなされている。

審議事項は、専修大学学則第49条で「教授会は、学長が教育研究に関する決定を行うに当たり、次に掲げる事項について審議し、意見を述べるものとする。(1) 学部の教育課程その他授業に関すること。(2) 学生の入学、卒業その他学生の在籍に関すること。(3) 試験に関すること。(4) 学生の指導及び賞罰に関すること。(5) 奨学生その他学生推薦の専攻に関すること。(6) 教授、准教授、講師、助教その他の教員の人事にかかる教育研究業績等の審査に関すること。(7) 本大学の長期在外研究員、長期国内研究員及び中期研究員に関すること。(8) 学部長の推薦に関する

こと。(9)本学即その他本大学の規程等によって教授会の議を経ることとされていること。(10)教授会規程並びに制定及び改廃に関し教授会の議を経ることとされている規程等の制定及び改廃に関すること。(11)自己点検・評価に関すること。(12)前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めたこと。」と規定し、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるができることとしている。学部長は、定期又は必要と認めるとき教授会を招集する。

3 教授会以外の委員会

学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項の検討や起案などのために、全学的な委員会として「教育開発支援委員会」「自己点検・評価委員会」「入学試験委員会」「専修大学全学カリキュラム協議会」「学生部委員会」「国際交流センター委員会」等の各種委員会を設置しており、各委員会の構成員は、専任の教授、准教授、講師により構成され、各委員会の規程に基づき定期的開催している。

サ 自己点検・評価

本学では、大学の教育理念、目標に照らし、教育研究活動の状況を点検・評価することにより、現状を正確に把握、認識するとともに、その達成状況を評価し、評価結果に基づく改革・改善の推進を図ることを目的として、自己点検・評価を実施している。

1 実施方法について

本学における自己点検・評価活動は、「PDCAサイクルを活用した点検・評価」、「本学の教育・研究水準の向上を図る点検・評価」を基本方針とし、この方針に基づき「公益財団法人大学基準協会が定める『大学基準』及び『点検・評価項目』に基づく点検・評価活動」、「『達成目標』『評価の視点』に基づく点検・評価活動」を行っている。

具体的には、2年間で1サイクルとし、最初に公益財団法人大学基準協会が定める「点検・評価項目」への取組み状況チェックシートを作成し、同シートに基づく自己評価を行う。その後、改善・改革が必要な項目を中心に各機関が取り組む「点検・評価項目」を抽出、併せて「達成目標」「評価の視点」を設定し、点検・評価活動を行うことで、本学の教育・研究水準の向上を図っている。

2 実施体制について

本学の「自己点検・評価委員会」は、全学的な自己点検・評価を行う「自己点検・評価運営委員会」と、「学部」、「大学院」、「全学カリキュラム関係」、「教育開発支援関係」、「図書館」等といった各機関別の自己点検・評価を行う「機関別自己点検・評価実施委員会」（22実施委員会を設置）によって構成され、学長を最高責任者として、各学部、研究科、各委員会等が連携協力して自己点検・評価を行うことで、教育研究の質の保証を図っている。

経営学部では、機関別自己点検・評価実施委員会に該当する「経営学部自己点検・評価実施委員会」が中心となり、課題認識のもとに、中期的な目標設定と具体的な計画策定を行い、その達成状況の評価及び評価結果の活用が可能となるシステムの構築を図っている。

3 公表及び評価項目

(1) 結果の活用・公表について

自己点検・評価の結果については、2年毎に「自己点検・評価報告書」として取りまとめ、大学ホームページを通して広く社会に公表し、社会の評価を受けることを通して、教育研究水準の一層の向上に努めている。

なお、平成26年度に受審した公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）の「評価結果」及び申請の際に同協会へ提出した「点検・評価報告書」も大学ホームページを通して公表するとともに、評価の際に付された「努力課題」についても改善・改革を図っている。

(2) 評価項目等について

本学における自己点検・評価の項目は、基本方針に基づき、公益財団法人大学基準協会が定める「大学基準」及び「点検・評価項目」にしたがって設定している。特に、以下の視点を重視することで、全学レベルにおける教育研究の質の向上を図っている。

- ①理念・目的
- ②内部質保証
- ③教育研究組織
- ④教育課程・学習成果
- ⑤学生の受入れ
- ⑥教員・教員組織
- ⑦学生支援
- ⑧教育研究等環境
- ⑨社会連携・社会貢献

また、経営学部における自己点検・評価の項目も、以下の視点を重視したうえで、機関レベルにおける教育研究の質の向上を図っている。

- ①理念・目的
- ②内部質保証
- ③教育課程・学習成果
- ④学生の受け入れ
- ⑤教員・教員組織

シ 情報の公表

1 実施方法

学部等における人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的について、学則及び規則等の適切な形式により定め、これを広く社会に公表するとともに、教育研究活動等の状況など大学に関する情報全般について、インターネット上のホームページや大学案内などの刊行物への掲載、その他広く一般に周知を図ることができる方法により積極的に提供することとしている。

特に、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表することとし、その際、大学の教育力の向上の観点から、学生がどのようなカリキュラムに基づき、何を学ぶことができるのかという観点が明確になるよう留意することとしている。

教育情報の公表については、そのための適切な体制を整えるとともに、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって行うこととしている。

2 実施項目

次の教育研究活動等の状況についての情報を公表する。

- (1) 大学の教育研究上の目的に関すること。
- (2) 教育研究上の基本組織に関すること。
- (3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
- (4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- (5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- (6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。

- (7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。
- (8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- (9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

3 公表内容

教育研究活動等の状況についての情報を公表するに際しては、以下の点に留意したうえで行うこととする。

- 1) 大学の教育研究上の目的に関する情報については、学部、学科又は課程等ごとに、それぞれ定めた目的を公表する。
- 2) 教育研究上の基本組織に関する情報については、学部、学科又は課程等の名称を明らかにする。
- 3) 教員組織に関する情報については、年齢構成等を明らかにし、効果的な教育を行うため組織的な連携を図っていることを積極的に明らかにする。
- 4) 教員の数については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表することとし、法令上必要な専任教員数を確保していることや職別の人数等の詳細を明らかにする。
- 5) 各教員の業績については、研究業績等にとどまらず、各教員の多様な業績を積極的に明らかにすることにより、教育上の能力に関する事項や職務上の実績に関する事項など、当該教員の専門性と提供できる教育内容に関することを確認できるという点に留意したうえで公表する。
- 6) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する情報については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表する。
- 7) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報については、教育課程の体系性を明らかにする観点に留意するとともに、年間の授業計画については、シラバスや年間授業計画の概要を活用する。
- 8) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報については、必修科目、選択科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位に関する情報を明らかにする。
- 9) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報については、学生生活の中心であるキャンパスの概要のほか、運動施設の概要、課外活動の状況及びそのために用いる施設、休息を行う環境その他の学習環

- 境、主な交通手段等の状況を明らかにする。
- 10) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する情報については、施設費、教育充実費等の費用に関することを明らかにする。
 - 11) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する情報については、留学生支援や障害者支援など大学が取り組む様々な学生支援の状況を明らかにする。

ス 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

1 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修

(1) 実施体制

授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取組みについては、「専修大学教育開発支援委員会規程」を制定するとともに、当該委員会規程に基づき、専任教員で構成される「専修大学教育開発支援委員会」を設置し、授業方法の開発と改善を図るための調査、研究、提案及び実施の推進を図ることとする。

【資料7】

(2) 実施内容

授業の内容及び方法の改善を図るための実施内容については、以下に掲げる項目による取組みを行う。

- 1) シラバスの記載項目や記載内容、記載方法などに関する要領を整備し、その内容を各学部・学科等に周知する。
- 2) 学生の満足度、思考力等の測定及び学士課程教育の成果を検証するためのアセスメントテストを実施し、その結果を分析するとともに報告書を作成する。
- 3) 授業科目の位置付けや卒業認定・学位授与の方針との関係性などを明確にするための様式（カリキュラム・マップ）を作成し、各学部・学科等に提供する。
- 4) 授業科目にアクティブ・ラーニングを導入するための研修会を実施する。
- 5) 先進的な取組みを行っている授業の事例集や、本学学士課程教育の概略、授業を行ううえで必要な情報やツールなどをまとめた冊子を作成し、教員に配布する。

2 大学の運営に必要な知識・技能の習得させるための研修等

(1) 実施体制

本学における大学運営に必要な教職員への研修等の取組みについては、「学校法人専修大学スタッフ・ディベロップメント実施方針」を制定し、事務職員のみならず、教員及び技術職員を含めて、大学等の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図ることを目的とした、知識・技能の習得及び能力・資質の向上のための活動を推進することとしている。

検討及び実施については、事務職員に対する研修等は、総務部人事課が、教員に対する研修等は教育開発支援委員会が中心となって行うこととしている。

なお、教育開発支援委員会が主催する研修等については事務職員も積極的に参加することとしている。【資料8】

(2) 実施内容

具体的な研修等の活動については、以下に掲げる項目により行う。

- 1) 大学等の管理運営及び教育研究支援に必要な知識及び技能を身に付け、能力及び資質の向上を図るための研修に関すること
- 2) 建学の精神に照らした大学等の取組の自己点検・評価と内部質保証及び大学等の改革に資する研修に関すること
- 3) 職員として求められているリーダーシップ能力、マネジメント能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、危機管理能力、政策提案・実現能力、問題解決能力及び事務処理能力等の向上を図るための研修に関すること
- 4) 学生の人間形成を図るために行われる正課外の諸活動における様々な指導、援助等の研修に関すること
- 5) 職員のスキルアップに役立つ資格取得に関すること
- 6) 大学組織における業務の見直しや事務処理の改善等に関すること
- 7) その他SD活動として必要と認める事項

なお、研修会等は、大学が独自に企画して開催する「学内研修会等」と外部団体が主催して行う「学外研修会等」に大別し、学内研修会等は、次のとおり区分して実施することとしている。

- ①目的別 特定の知識・技能の修得や業務ごとの質的向上・改善等のための研修会等
- ②階層別 新入職員、中堅職員、管理・監督職職員など、経験や役職（職階）に応じて必要な知識を得るための研修会等
- ③自己啓発 職員個々が自主的に自己啓発、スキルアップ等を図るための研修会等

また、学外研修会等については、教職員が参加できる機会を積極的に提供する

こととしている。

セ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1 教育課程内における取組み

「転換・導入科目」及び「教養科目」、「外国語科目」では、各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることで、多面的なものの見方の基礎を養成することとしており、「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」の各科目群全体を通して、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識や技能と態度を修得することとしている。

特に、「転換・導入科目」の「キャリア基礎科目」に配置している「キャリア入門」及び「教養科目」の「融合領域科目」に配置している「キャリア科目1」と「キャリア科目2」を教育課程内における社会的・職業的自立に関する科目として位置付け、職業人が果たす役割と責任や自覚と態度を身に付けるとともに、職業現場への興味と関心と自らの職業選択に対する意識の涵養を図ることとしている。

同じく教育課程内における取組みとして、「専門科目」の「ビジネス研究C」では、企業の実務家を外部講師として招き、当該授業を担当する専任教員とのコラボレーションにより、それぞれの専門分野の見地から講義を行う。経営の現場で活躍する実務家から得られる情報により、学生が専門性を意識した職業選択をすることができるようになることを意図している。また、「経営学とキャリア開発」では、「人的資源管理論」、「組織行動論」、「経営組織論」などの経営学の諸理論を織り交ぜながら、組織側の視点ではなく、個人の視点に立って、職業現場における組織の一員としての自覚や役割を深く考える機会として提供することとしている。

なお、この教育課程内の取組みにおける組織体制として、「転換・導入科目」については、キャリアデザインセンター運営委員会と導入教育課程運営委員会が、「教養科目」については、キャリアデザインセンター運営委員会と融合領域科目運営委員会が連携して情報を共有し、授業科目の運営を行っている。キャリアデザインセンター運営委員会は、学科選出の委員が構成員となり、全学的理解と協調を図りつつ連絡・協議等を定期的に行う体制をとっている。

専門科目については、経営学部カリキュラム委員会を中心となって、運営を行っている。

2 教育課程外の実施

社会的・職業的自立を図るための教育課程外の実施としては、職業興味検査、資格と仕事のセミナーなどの実施により職業観の涵養を図るとともに、各種資格取得講座、公務員試験講座、キャリア支援講座、就職支援プログラムなどにより職業及び就職に関する知識や技能の習得を図ることとしている。

また、個別カウンセリング、UIJターンガイダンス、各種仕事に関するガイダンスなどの進路や就職指導及び相談に加えて、企業による採用説明会及び公務員・独立行政法人等業務説明会、公務員人物対策指導など就職志望者に対する取り組みや、地方発展に寄与する人材輩出に向けた就職支援協定締結を23府県1市（平成30年3月末現在）と結ぶ等、就職部、キャリアデザインセンター、エクステンションセンターが連携を図りながら行っている。

以上

資 料

【資料1】学校法人専修大学 認可等に関わる組織の移行表

【資料2】経営学部 業種別就職状況（平成26年度～平成28年度）

【資料3】民間企業等に対する人材需要調査結果－抜粋－

【資料4】履修モデル

【資料5】ビジネスデザイン学科関連学術雑誌等一覧

【資料6】インターンシップ受け入れ先企業一覧

【資料7】専修大学教育開発支援委員会規程

【資料8】学校法人専修大学 スタッフ・ディベロップメント実施方針

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	サキ シゲト 佐々木 重人 <平成28年9月>		博士 (経営 学)		専修大学 学長 (平成28. 9～)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等

(経営学部ビジネスデザイン学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 する 週当たり平均 日 数
1	専	教授	イシサキトオル 石崎 徹 <平成31年4月>		修士(商学)※		ビジネスデザイン基礎演習B 課題発見・解決演習 ゼミナールA ゼミナールB 卒業論文 マーケティング・リサーチ 広告論 マーケティングコミュニケーション 専修大学入門ゼミナール	2後 2・3・4通 3通 4通 4通 2・3・4後 3・4前 3・4後 1前	2 2 4 4 4 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平10.4)	6日
2	専	教授	オサワ イチロウ 小沢 一郎 <平成31年4月>		博士(商学)		ゼミナールA ゼミナールB 卒業論文 環境経営論 研究開発とイノベーションA 経営学とキャリア開発 研究開発とイノベーションB 寄付講座 専修大学入門ゼミナール	3通 4通 4通 3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 1前	4 4 4 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平18.4)	6日
3	専	教授	キムソンズ 金 成洙 <平成31年4月>		経営学博士		マーケティング入門A マーケティング入門B ビジネスデザイン基礎演習A グローバルリテラシ演習 ゼミナールA ゼミナールB 卒業論文 流通論A 流通論B 消費者行動論A 消費者行動論B 専修大学入門ゼミナール	1前 1後 2前 3後 3通 4通 4通 2・3・4前 2・3・4後 3・4前 3・4後 1前	2 2 2 2 4 4 4 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平23.4)	6日
4	専	教授	セントウ タカシ 潜道 隆 <平成31年4月>		修士(工学)		ビジネスデザイン基礎演習A グローバルイノベーション 経営学特講	2前 2・3・4後 3・4前・後	2 2 4	1 1 2	専修大学 経営学部 教授 (平30.4)	6日
5	専	教授	ハシダ ヨウイチロウ 橋田 洋一郎 <平成31年4月>		修士(商学)※		マーケティング入門A マーケティング入門B ビジネスデザイン基礎演習B ビジネス研究BD グローバルリテラシ演習 ゼミナールA ゼミナールB 卒業論文 マーケティング・マネジメント 製品開発論 ブランド論 専修大学入門ゼミナール	1前 1後 2後 2・3・4後 3前 3通 4通 4通 2・3・4前 2・3・4後 3・4前 1前	2 2 2 2 2 4 4 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平21.4)	6日
6	専	教授	ババ スキオ 馬場 杉夫 <平成31年4月>		博士(商学)		経営管理総論A 経営管理総論B ビジネスデザイン基礎演習A インターンシップ ビジネス研究C ビジネス研究BD ゼミナールA ゼミナールB 卒業論文 専修大学入門ゼミナール	2前 2前 2前 2・3後 2・3・4前 2・3・4後 3通 4通 4通 1前	2 2 2 1 2 2 4 4 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平7.4)	6日

教 員 の 氏 名 等

(経営学部ビジネスデザイン学科)

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 する 週当たり平均 日 数
7	専	教授	マシマ タカシ 間嶋 崇 <平成31年4月>		博士(経営学)		経営入門A 経営入門B ゼミナールA ゼミナールB 卒業論文 日本経営史A 経営倫理 日本経営史B 経営学史 専修大学入門ゼミナール	1前 1後 3通 4通 4通 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 3・4前 1前	2 2 4 4 4 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平22.4)	6日
8	専	教授	ミヤマ ケイイチロウ 見山 謙一郎 <平成31年4月>		修士(経営学)		ビジネスデザイン基礎演習B 事業創造 ビジネスデザイン特講	2後 3・4前 3・4前・後	2 2 4	1 1 2	専修大学 経営学部 教授 (平30.4)	6日
9	専	教授	リケンハイ 李 建平 <平成31年4月>		博士(経済学)		ビジネス研究D グローバルリテラシ演習 ゼミナールA ゼミナールB 卒業論文 ミクロ経済学 コーポレート・ガバナンス 地域研究 産業組織論 専修大学入門ゼミナール	2・3・4後 3前 3通 4通 4通 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 1前	2 2 4 4 4 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平15.4)	6日
10	専	准教授	オカムラ ツネヨ 奥村 経世 <平成31年4月>		商学修士		経営管理総論A 経営管理総論B ビジネスデザイン基礎演習A インターンシップ基礎 グローバルリテラシ演習 ゼミナールA ゼミナールB 卒業論文 中期留学プログラムA 中期留学プログラムB 戦略経営論 専修大学入門ゼミナール	2後 2後 2前 2・3前 3後 3通 4通 4通 2・3・4前・後 2・3・4前・後 3・4前 1前	2 2 2 1 2 4 4 4 4 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平1.4)	6日
11	専	准教授	シケ ビヂシチ 三宅 秀道 <平成31年4月>		修士(商学) ※		ビジネスデザイン基礎演習B ビジネス研究D ビジネス研究BD ゼミナールA ゼミナールB 卒業論文 ベンチャー・ビジネス論 事業継承論 ベンチャー企業経営論 専修大学入門ゼミナール	2後 2・3・4後 2・3・4後 3通 4通 4通 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 1前	2 2 2 4 4 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平26.4)	6日
12	専	講師	オカワ ヒロマサ 小川 博雅 <平成31年4月>		博士(経済学)		ビジネス研究D グローバルリテラシ演習 ゼミナールA ゼミナールB 卒業論文 企業家論 応用経済学 企業経済学 専修大学入門ゼミナール	2・3・4前 3後 3通 4通 4通 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後 1前	2 2 4 4 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 講師 (平29.4)	6日
13	兼担	教授	アオキ アキミチ 青木 章通 <平成31年4月>		修士(経営学) ※		会計入門A 会計入門B ビジネス研究A 工業簿記論 原簿計算 新領域科目2	1前 1後 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平17.4)	

教 員 の 氏 名 等

(経営学部ビジネスデザイン学科)

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年 齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 する 週当たり平均 日 数
14	兼任	教授	アツミ ユキオ 渥美 幸雄 <平成31年4月>		博士(情報工学)		情報処理入門 情報システム入門 情報リテラシ基礎演習 情報通信ネットワーク論A 情報通信ネットワーク論B	1前 1前 1後 3・4前 3・4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平15.4)	
15	兼任	教授	イオヒデユキ 飯尾 秀幸 <平成32年4月>		文学修士 ※		学際科目1 学際科目2	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 文学部 教授 (平8.4)	
16	兼任	教授	イシカワ タツオ 石川 達夫 <平成31年4月>		博士(文学)		ロシア語初級1a ロシア語初級1b ロシア語上級1a ロシア語上級1b	1・2・3・4前 1・2・3・4後 3・4前 3・4後	1 1 1 1	1 1 1 1	専修大学 文学部 教授 (平24.4)	
17	兼任	教授	イツチヒデヤ 石鐘 英也 <平成32年4月>		工学博士		生産管理論A 生産管理論B	3・4前 3・4後	2 2	1 1	専修大学 ネットワーク情報学部 教授 (平5.4)	
18	兼任	教授	イバヤシロウ 一ノ宮 士郎 <平成32年4月>		法学士		ビジネス研究D 財務諸表論	2・3・4後 3・4前	2 2	1 1	専修大学 経営学部 教授 (平20.4)	
19	兼任	教授	イウヒロキ 伊藤 博明 <平成31年4月>		修士(文学) ※		芸術学入門	1・2前	2	1	専修大学 文学部 教授 (平29.4)	
20	兼任	教授	イノウエ ユキタカ 井上 幸孝 <平成31年4月>		博士(文学)		学際科目6 スペイン語初級2a スペイン語初級2b 言語文化研究(アメリカ) 海外語学短期研修1(スペイン語) 海外語学短期研修2(スペイン語) 海外語学中期研修1(スペイン語) 海外語学中期研修2(スペイン語) 海外語学中期研修3(スペイン語) 海外語学中期研修4(スペイン語) 海外語学中期研修5(スペイン語) 海外語学中期研修6(スペイン語) 海外語学中期研修7(スペイン語) 海外語学中期研修8(スペイン語)	2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前・後 2・3・4前・後 1・2・3前 1・2・3後 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通	2 1 2 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 文学部 教授 (平20.4)	
21	兼任	教授	イマイタカシ 今井 上 <平成31年4月>		博士(文学)		日本の文学	1・2前・後	4	2	専修大学 文学部 教授 (平26.4)	
22	兼任	教授	イマイマサカズ 今井 雅和 <平成31年4月>		博士(商学)		経営入門B 国際ビジネス概論 新興市場ビジネス論 外国経営史A 外国経営史B	1後 2・3・4前 2・3・4後 3・4前 3・4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平23.4)	
23	兼任	教授	イワタ ヒロオ 岩田 弘尚 <平成31年4月>		博士(経営学)		簿記基礎演習 ビジネス研究A 工業簿記応用演習 管理会計	1・2後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平21.4)	
24	兼任	教授	ウケトモフミ 植竹 朋文 <平成31年4月>		博士(工学)		情報処理入門 情報リテラシ基礎演習 ビジネス研究B 情報システム基礎 Webプログラミング マルチメディア情報処理論A マルチメディア情報処理論B	1前 1後 2・3・4後 2・3・4前 3・4前 3・4前 3・4後	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平14.4)	
25	兼任	教授	エハラ アツシ 江原 淳 <平成32年4月>		文学士		新領域科目4	2・3・4後	2	1	専修大学 ネットワーク情報学部 教授 (昭62.4)	
26	兼任	教授	オオノネ タダシ 大曾根 匡 <平成31年4月>		理学博士		情報処理入門 情報リテラシ基礎演習 プログラミング基礎 プログラミング応用 データベース論	1前 1後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平1.4)	
27	兼任	教授	オオツキ フミシ 大槻 文俊 <平成32年4月>		博士(法学)		経済法A 経済法B	3・4前 3・4後	2 2	1 1	専修大学 法学部 准教授 (平17.4)	
28	兼任	教授	オヤナギ コウジ 大柳 康司 <平成31年4月>		博士(商学)		会計入門A 会計入門B 経営分析 商業簿記論A 商業簿記論B 企業法と会計情報	1前 1後 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平15.4)	

教 員 の 氏 名 等

(経営学部ビジネスデザイン学科)

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年 齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 する 週当たり平均 日 数
29	兼任	教授	オム キジュ 巖 基珠 <平成31年4月>		文学博士(韓国)		コリア語初級1a	1・2・3・4前	1	1	専修大学 ネットワーク情報学部 教授 (平15.4)	
							コリア語初級1b	1・2・3・4前・後	2	2		
							コリア語初級2a	1・2・3・4前	1	1		
							コリア語初級2b	1・2・3・4前・後	2	2		
							コリア語上級1a	3・4前	1	1		
							コリア語上級1b	3・4後	1	1		
							世界の言語と文化(コリア語)	1・2・3・4前	2	1		
							言語文化研究(アジア)2	2・3・4後	2	1		
							海外語学短期研修1(コリア語)	1・2・3前	2	1		
							海外語学短期研修2(コリア語)	1・2・3後	2	1		
							海外語学中期研修1(コリア語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修2(コリア語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修3(コリア語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修4(コリア語)	2・3・4通	2	1		
30	兼任	教授	カサハラ シンイチロウ 笠原 伸一郎 <平成32年4月>		経営学修士 ※		国際経営論	2・3・4後	2	1	専修大学 経営学部 教授 (平4.4)	
31	兼任	教授	カネコ ヒロシ 金子 洋之 <平成31年4月>		文学修士		論理学入門 ことばと論理	1・2前・後 1・2前・後	4 4	2 2	専修大学 文学部 教授 (平3.4)	
32	兼任	教授	コニシ エミ 小西 恵美 <平成31年4月>		博士(商学)		Basics of English (RL) 1a Basics of English (RL) 1b	1前 1後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 教授 (平13.4)	
33	兼任	教授	コバヤシ アネヒロ 小林 昭裕 <平成31年4月>		博士(農学)		科学論2a 科学論2b 新領域科目5	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4後	2 2 2	1 1 1	専修大学 経済学部 教授 (平24.4)	
34	兼任	教授	サイノウ マコト 齋藤 実 <平成31年4月>		修士(体育学)		スポーツリテラシー スポーツウェルネス アドバンススポーツ スポーツ論(健康と生涯スポーツ)	1前・後 1前・後 2・3・4前・後 2・3・4後	2 2 4 2	2 2 2 1	専修大学 経営学部 教授 (平18.4)	
35	兼任	教授	サタケ ヒロヤス 佐竹 弘靖 <平成32年4月>		修士(体育学)		教養テーマゼミナール1 教養テーマゼミナール2 教養テーマゼミナール3 教養テーマゼミナール論文 スポーツ論(人類とスポーツ)	2通 3通 4通 3・4通 2・3・4前・後	4 4 4 2 4	1 1 1 1 2	専修大学 ネットワーク情報学部 教授 (平1.4)	
36	兼任	教授	サトウ ヒロアキ 佐藤 弘明 <平成31年4月>		文学修士		Intermediate English (SW) 1a Intermediate English (SW) 1b Intermediate English (SW) 2a Intermediate English (SW) 2b Screen English a Screen English b	1前 1後 2前 2後 2・3・4前 2・3・4後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	専修大学 商学部 教授 (平1.4)	
37	兼任	教授	サトウ ヒロン 佐藤 暢 <平成31年4月>		博士(理学)		宇宙地球科学2a 宇宙地球科学2b 新領域科目3	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4後	2 2 2	1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平15.4)	
38	兼任	教授	サトウ マサユキ 佐藤 雅幸 <平成32年4月>		体育学修士		スポーツ論(トレーニング科学)	2・3・4後	2	1	専修大学 経済学部 教授 (昭59.4)	
39	兼任	教授	サトウ ミツル 佐藤 満 <平成31年4月>		博士(医学)		スポーツリテラシー スポーツウェルネス アドバンススポーツ スポーツ論(オリンピックとスポーツ)	1前・後 1前・後 2・3・4前・後 2・3・4前・後	2 2 4 4	2 2 2 2	専修大学 経営学部 教授 (平11.4)	
40	兼任	教授	シモザワ カズヨシ 下澤 和義 <平成31年4月>		修士(文学) ※		フランス語中級1a フランス語中級1b 世界の言語と文化(フランス語) 言語文化研究(ヨーロッパ)2 海外語学短期研修1(フランス語) 海外語学短期研修2(フランス語) 海外語学中期研修1(フランス語) 海外語学中期研修2(フランス語) 海外語学中期研修3(フランス語) 海外語学中期研修4(フランス語) 海外語学中期研修5(フランス語) 海外語学中期研修6(フランス語) 海外語学中期研修7(フランス語) 海外語学中期研修8(フランス語)	2・3・4前 2・3・4後 1・2・3・4前・後 2・3・4後 1・2・3前 1・2・3後 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通	1 1 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 商学部 教授 (平10.4)	

教 員 の 氏 名 等

(経営学部ビジネスデザイン学科)

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年 齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 する 週当たり平均 日 数
41	兼任	教授	スナヤマミツコ 砂山 充子 <平成33年4月>		修士(国際学) ※		スペイン語上級1a スペイン語上級1b	3・4前 3・4後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 教授 (平10.4)	
42	兼任	教授	セキネ ジュン 関根 純 <平成31年4月>		博士(工学)		情報処理入門 情報システム入門 情報リテラシ基礎演習 経営情報論A 経営情報論B	1前 1後 1後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平22.4)	
43	兼任	教授	カタタ ナツコ 高田 夏子 <平成31年4月>		教育学修士 ※		基礎心理学入門 応用心理学入門	1・2前 1・2後	4 4	2 2	専修大学 人間科学部 教授 (平13.4)	
44	兼任	教授	タグチ フミオ 田口 文夫 <平成31年4月>		修士(法学) ※		法と社会	1・2後	2	1	専修大学 法学部 教授 (昭52.4)	
45	兼任	教授	タナベ ヒロヤス 田邊 宏康 <平成32年4月>		博士(法学)		会社法A 会社法B	3・4前 3・4後	2 2	1 1	専修大学 法学部 教授 (平15.4)	
46	兼任	教授	チェ インソク 蔡 仁錫 <平成32年4月>		商学博士		調査の基本 組織行動論	2・3前 2・3・4前	2 2	1 1	専修大学 経営学部 教授 (平11.4)	
47	兼任	教授	ツチキ マサアキ 土屋 昌明 <平成31年4月>		文学修士 ※		世界の言語と文化(中国語) 言語文化研究(アジア)1	1・2・3・4前・後 2・3・4前・後	4 4	2 2	専修大学 経済学部 教授 (平11.4)	
48	兼任	教授	ナカエ マサカズ 永江 雅和 <平成32年4月>		博士(経済学)		新領域科目1	2・3・4後	2	1	専修大学 経済学部 教授 (平12.4)	
49	兼任	教授	ナカムラ タイチ 中村 太一 <平成31年4月>		Ph.D.(Linguistics) (英国)		グローバル基礎演習 ビジネス英語 異文化コミュニケーション Intermediate English (RL) 1a Intermediate English (RL) 1b Basics of English (SW) 2a Basics of English (SW) 2b	1・2前 2・3・4後 2・3・4後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平15.4)	
50	兼任	教授	ナカムラ マサナリ 中村 政徳 <平成31年4月>		Ph.D. Program in Linguistics (米 国)		Intermediate English (RL) 1a Intermediate English (RL) 1b Basics of English (RL) 2a Basics of English (RL) 2b	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平8.4)	
51	兼任	教授	ナリタ マサヒコ 成田 雅彦 <平成31年4月>		Ph.D.(アメリカ文 学)(米国)		Basics of English (SW) 1a Basics of English (SW) 1b General English English Language and Cultures a English Language and Cultures b	1前 1後 2・3・4前・後 2・3・4前 2・3・4後	1 1 2 2 2	1 1 2 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平4.4)	
52	兼任	教授	ニシ タカコ 西 孝子 <平成31年4月>		博士(学術)		自然科学実験演習1 自然科学実験演習2 生物科学3a 生物科学3b	1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 4 2 2	1 1 1 1	専修大学 商学部 教授 (平7.4)	
53	兼任	教授	ニシグチ ヒロコ 西口 拓子 <平成31年4月>		博士(文学)		ドイツ語初級1a ドイツ語初級1b ドイツ語初級2a ドイツ語初級2b ドイツ語中級1a ドイツ語中級1b ドイツ語上級1a ドイツ語上級1b 世界の言語と文化(ドイツ語) 海外語学短期研修1(ドイツ語) 海外語学短期研修2(ドイツ語) 海外語学中期研修1(ドイツ語) 海外語学中期研修2(ドイツ語) 海外語学中期研修3(ドイツ語) 海外語学中期研修4(ドイツ語) 海外語学中期研修5(ドイツ語) 海外語学中期研修6(ドイツ語) 海外語学中期研修7(ドイツ語) 海外語学中期研修8(ドイツ語)	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4前・後 2・3・4前 2・3・4後 3・4前 3・4後 1・2・3・4後 1・2・3前 1・2・3後 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通	1 2 1 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平19.4)	
54	兼任	教授	ニッタ シゲル 新田 滋 <平成31年4月>		博士(経済学)		社会科学論	1・2前・後	4	2	専修大学 経済学部 教授 (平23.4)	
55	兼任	教授	ネギシ テツウ 根岸 徹郎 <平成32年4月>		文学博士(フラン ス文学・文化)(仏 国)		学際科目7 学際科目8	2・3・4前 2・3・4前	2 2	1 1	専修大学 法学部 教授 (平14.4)	
56	兼任	教授	ハセガワ ヒロシ 長谷川 宏 <平成32年4月>		文学修士		English Writing a English Writing b	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 法学部 教授 (平17.4)	

教 員 の 氏 名 等

(経営学部ビジネスデザイン学科)

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 する 日 当たり平均 数
57	兼任	教授	ヒロシ タカシ 廣石 忠司 <平成31年4月>		経営学修士 ※		論理基礎演習 ビジネス研究D 雇用関係法 人的資源管理論A 人的資源管理論B 労使関係法	1・2後 2・3・4後 2・3・4後 3・4前 3・4後 3・4前	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平8.4)	
58	兼任	教授	ヒロセ ヒロコ 広瀬 裕子 <平成31年4月>		博士(教育学)		子どもと社会の教育学	1・2前・後	4	2	専修大学 文学部 教授 (昭63.4)	
59	兼任	教授	フカミ タカカズ 福富 忠和 <平成32年4月>		経営学士		学際科目12	2・3・4前	4	1	専修大学 ネットワーク情報学部 教授 (平19.4)	
60	兼任	教授	ホーシャック, ジョセフ W. ポーシャック, ジョセフ W. <平成31年4月>		博士(言語学) (英国)		English Speaking a English Speaking b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 教授 (平29.4)	
61	兼任	教授	マスコ ケイイチ 増子 恵一 <平成31年4月>		理学博士		科学論1a 科学論1b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	専修大学 経営学部 教授 (平4.4)	
62	兼任	教授	マツイ ナシ 松井 暁 <平成31年4月>		博士(経済学)		社会思想	1・2前・後	4	2	専修大学 経済学部 教授 (平19.4)	
63	兼任	教授	マツハラ アキラ 松原 朗 <平成31年4月>		博士(文学)		中国語初級2a 中国語初級2b	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	1 2	1 2	専修大学 文学部 教授 (昭62.4)	
64	兼任	教授	ミズサキ タカヒロ 水崎 高浩 <平成31年4月>		博士(理学)		物理学2a 物理学2b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 法学部 教授 (平12.4)	
65	兼任	教授	モリモト ショウイチ 森本 祥一 <平成31年4月>		博士(工学)		情報処理入門 情報リテラシー基礎演習 情報システムの分析 情報システムの開発 情報セキュリティ	1前 1後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平21.4)	
66	兼任	教授	ヤサワ キョウキ 矢澤 清明 <平成33年4月>		経営学修士 ※		経営戦略論 経営システム論	3・4前 3・4前	2 2	1 1	専修大学 経営学部 教授 (経5.4)	
67	兼任	教授	ヤマサキ ヒデヒコ 山崎 秀彦 <平成32年4月>		商学修士		商業簿記応用演習 監査論	2・3・4後 3・4前	2 2	1 1	専修大学 経営学部 教授 (平9.4)	
68	兼任	教授	ヤマダ ケンタ 山田 健太 <平成31年4月>		法学士		ジャーナリズムと現代	1・2後	2	1	専修大学 文学部 教授 (平18.4)	
69	兼任	教授	ヤマモト ミツル 山本 充 <平成31年4月>		理学博士		地理学への招待	1・2前・後	4	2	専修大学 文学部 教授 (平26.4)	
70	兼任	教授	ヨシエ フミオ 吉江 文男 <平成31年4月>		理学博士		生物科学1a 生物科学1b 生物科学2a 生物科学2b	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4 2 4	2 2 1 2	専修大学 経済学部 教授 (昭62.4)	
71	兼任	教授	ヨシダ セイジ 吉田 清司 <平成32年4月>		体育学修士		スポーツ論(スポーツコーチング)	2・3・4前・後	4	2	専修大学 法学部 教授 (昭63.4)	
72	兼任	教授	ワカナベ エイジ 渡辺 英次 <平成32年4月>		修士(人間科学)		スポーツ論(スポーツライフデザイン論)	2・3・4前・後	4	2	専修大学 商学部 教授 (平21.4)	
73	兼任	教授	ワタナベ リオ 渡辺 展男 <平成32年4月>		工学修士		オペレーションズ・リサーチA 情報管理概論A オペレーションズ・リサーチB 情報管理概論B	2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平14.4)	
74	兼任	准教授	アミノ フサコ 網野 房子 <平成31年4月>		文学修士 ※		異文化理解の人類学	1・2前	2	1	専修大学 文学部 准教授 (平10.4)	
75	兼任	准教授	ウサミ ヨシヒロ 宇佐美 嘉弘 <平成31年4月>		博士(学術)		統計入門 論理基礎演習 経営データ解析演習 ファイナンスと統計 シミュレーション論	1後 1・2後 2・3前 2・3・4後 2・3・4後	4 2 2 2 2	2 1 1 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平5.4)	
76	兼任	准教授	オオツキ ショウコ 大月 祥子 <平成31年4月>		博士(理学)		宇宙地球科学1a 宇宙地球科学1b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 商学部 准教授 (平24.4)	
77	兼任	准教授	オタキリ ケンタ 小田切 健太 <平成31年4月>		博士(学術)		物理学1a 物理学1b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 ネットワーク情報学部 准教授 (平26.4)	
78	兼任	准教授	カシワ テツ 神白 哲史 <平成31年4月>		博士(教育学)		Computer Aided Instruction a Computer Aided Instruction b Computer Aided Instruction for TOEIC a Computer Aided Instruction for TOEIC b	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 1 1	1 1 1 1	専修大学 ネットワーク情報学部 准教授 (平18.4)	
79	兼任	准教授	クラモト シヤ 倉持 俊弥 <平成32年4月>		経済学修士 ※		経済入門 マクロ経済学 景気と政策 国際経済論 寄付講座	1後 2・3・4前 2・3・4後 3・4前 2・3・4前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平10.4)	

教 員 の 氏 名 等

(経営学部ビジネスデザイン学科)

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年 齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 する 週当たり平均 日 数
80	兼任	准教授	コウノシアキ 河野 敏鑑 <平成32年4月>		博士(経済学)		学際科目4	2・3・4後	2	1	専修大学 ネットワーク情報学部 准教授 (平26.4)	
81	兼任	准教授	コレナガ タカフミ 是永 隆文 <平成31年4月>		修士(経済学) ※		論理基礎演習 日本経済論A 金融論A 日本経済論B 金融論B	1・2後 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平17.4)	
82	兼任	准教授	サカゲチ ユキオ 坂口 幸雄 <平成31年4月>		商学修士 ※		簿記基礎演習 財務管理論A 財務管理論B 寄付講座 特殊講義	1・2後 2・3・4後 3・4前 2・3・4後 2・3・4前・後	2 2 2 2 4	1 1 1 1 2	専修大学 経営学部 准教授 (平11.4)	
83	兼任	准教授	サカヅメ サトミ 坂詰 智美 <平成32年4月>		博士(法学)		学際科目3	2・3・4前	2	1	専修大学 法学部 准教授 (平24.4)	
84	兼任	准教授	サカモリ 佐久間 由梨 <平成31年4月>		Ph.D. (Literary Studies) (米国)		Basics of English (RL) 1a Basics of English (RL) 1b Basics of English (SW) 1a Basics of English (SW) 1b English Presentation a English Presentation b 海外語学中期研修1(英語) 海外語学中期研修2(英語) 海外語学中期研修3(英語) 海外語学中期研修4(英語) 海外語学中期研修5(英語) 海外語学中期研修6(英語) 海外語学中期研修7(英語) 海外語学中期研修8(英語)	1前 1後 1前 1後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通	1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平25.4)	
85	兼任	准教授	サクライアヤコ 櫻井 文子 <平成31年4月>		PhD(科学史)(英 国)		学際科目9 テーマ科目 Intermediate English (SW) 1a Intermediate English (SW) 1b Advanced English a Advanced English b 海外語学短期研修1(英語) 海外語学短期研修2(英語)	2・3・4後 2・3・4前・後 1前 1後 2・3・4前 2・3・4後 1・2・3前 1・2・3後	2 4 1 1 2 2 2 2	1 2 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平25.4)	
86	兼任	准教授	ササキ コウジ 佐々木 浩二 <平成32年4月>		Doctor of Philosophy (英 国)		経済入門 ビジネス研究D ファイナンスの基礎 証券論	1前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平20.4)	
87	兼任	准教授	サトウ コウイチロウ 佐藤 康一郎 <平成32年4月>		修士(商学) ※		マーケティング戦略論A マーケティング戦略論B 学際科目10	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後	2 2 2	1 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平14.4)	
88	兼任	准教授	ススキ タケオ 鈴木 健郎 <平成31年4月>		博士(文学)		中国語中級1a 中国語中級1b 中国語上級1a 中国語上級1b 海外語学短期研修1(中国語) 海外語学短期研修2(中国語) 海外語学中期研修1(中国語) 海外語学中期研修2(中国語) 海外語学中期研修3(中国語) 海外語学中期研修4(中国語) 海外語学中期研修5(中国語) 海外語学中期研修6(中国語) 海外語学中期研修7(中国語) 海外語学中期研修8(中国語)	2・3・4前 2・3・4後 3・4前 3・4後 1・2・3前 1・2・3後 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通	1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 商学部 准教授 (平18.4)	
89	兼任	准教授	ススキ ナオミ 鈴木 奈徳美 <平成32年4月>		博士(学術)		学際科目11	2・3・4後	4	1	専修大学 経済学部 准教授 (平21.4)	
90	兼任	准教授	トミカワ マサツ 富川 理充 <平成32年4月>		博士(体育科学)		学際科目5	2・3・4後	2	1	専修大学 商学部 准教授 (平23.4)	

教 員 の 氏 名 等

(経営学部ビジネスデザイン学科)

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年 齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 する 週当たり平均 日 数
91	兼任	准教授	ニシヤマ タカヒロ 西山 貴弘 <平成31年4月>		博士(理学)		統計入門 経営数学基礎演習(微分積分A) 経営数学基礎演習(微分積分B) 数理科学3a 数理科学3b	1前 1・2前 1・2後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平25.4)	
92	兼任	准教授	ヒロカワ ワカ 廣川 和花 <平成31年4月>		博士(文学)		歴史と社会・文化	1・2前・後	4	2	専修大学 文学部 准教授 (平27.4)	
93	兼任	准教授	フハラ ヤスシ 福原 康司 <平成31年4月>		経営学修士 ※		ビジネス研究B リーダーシップ論 リーダーシップ開発プログラム	2・3・4後 2・3・4後 1・2・3・4通	2 2 4	1 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平17.4)	
94	兼任	准教授	マツモト コウゾウ 松本 幸三 <平成31年4月>		博士(理学)		あなたと自然科学 化学1a 化学1b 化学2a 化学2b	1前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 2 2 2 2	2 1 1 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平24.4)	
95	兼任	准教授	ミヤムネ ヒロ 宮田 宗彦 <平成32年4月>		博士(第二言語習 得)(米国)		Intermediate English (RL) 2a Intermediate English (RL) 2b	2前 2後	1 1	1 1	専修大学 商学部 准教授 (平26.4)	
96	兼任	准教授	ヤマダ コウジ 山田 耕嗣 <平成31年4月>		経済学修士 ※		経営入門A 経営組織論	1前 3・4前	2 2	1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平10.4)	
97	兼任	講師	カボタ コウスケ 久保田 祐介 <平成31年4月>		法学博士		日本国憲法	1・2前	2	1	専修大学 法学部 講師 (平29.4)	
98	兼任	講師	ハマ タツキ 巴山 竜来 <平成31年4月>		博士(理学)		経営数学基礎演習(線形代数A) 経営数学基礎演習(線形代数B) 数理科学1a 数理科学1b 数理科学2a 数理科学2b	1・2前 1・2後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 講師 (平27.4)	
99	兼任	助教	ハセガワ トオル 長谷川 徹 <平成31年4月>		博士(哲学)		倫理学	1・2前・後	4	2	専修大学 文学部 助教 (平28.4)	
100	兼任	講師	イヨンジ 李 英珠 <平成32年4月>		修士(文学)		コア語中級1a コア語中級1b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平14.4)	
101	兼任	講師	ハセガワ トオル 余瀬 龍 <平成32年4月>		修士(文学)		選択ドイツ語1a 選択ドイツ語1b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平27.4)	
102	兼任	講師	ウチカド リョウコ 内門 亮子 <平成31年4月>		学士(教育学)		日本の文化	1・2前	2	1	専修大学 文学部 非常勤講師 (平18.4)	
103	兼任	講師	ウラヤマ ケンカウ 浦山 健太郎 <平成32年4月>		修士(文学)		フランス語中級2a フランス語中級2b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	株式会社度十社(翔進予備校) 専任講師 (平23.4)	
104	兼任	講師	オウボウ アキラ 大久保 明 <平成33年4月>		修士(商学)		リスク・マネジメント論	3・4前	2	1	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平16.4)	
105	兼任	講師	オオサキ ヨシヲ 大貫 良史 <平成32年4月>		修士(経済学)		スペイン語中級1a スペイン語中級1b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 文学部 非常勤講師 (平26.9)	
106	兼任	講師	オガサワ ケンジ 小笠原 健二 <平成31年4月>		修士(国際学)		インドネシア語初級1a インドネシア語初級1b インドネシア語上級1a インドネシア語上級1b	1・2・3・4前 1・2・3・4後 3・4前 3・4後	1 1 1 1	1 1 1 1	専修大学 商学部 非常勤講師 (平19.4)	
107	兼任	講師	オガワ ナオヤ 尾河 直哉 <平成32年4月>		修士(文学)		選択イタリア語1a 選択イタリア語1b 言語文化研究(ヨーロッパ)1	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前	1 1 2	1 1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平27.4)	
108	兼任	講師	オノ ジュンイチ 小野 純一 <平成32年4月>		修士(東洋学)		選択アラビア語1a 選択アラビア語1b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	東洋大学 客員研究員 (平24.3)	
109	兼任	講師	カシ シゲキ 梶 重樹 <平成31年4月>		修士(文学)		世界の文学 文学と現代世界 ロシア語初級2a ロシア語初級2b	1・2前 1・2後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 1 1	1 1 1 1	専修大学 商学部 非常勤講師 (平7.4)	
110	兼任	講師	キム ナヒコ 金 娜玄 <平成32年4月>		修士(文学)		選択ロシア語1a 選択ロシア語1b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 商学部 非常勤講師 (平15.4)	
111	兼任	講師	クツリル、イメルダ クツリル、イメルダ <平成32年4月>		修士(教育学)		インドネシア語中級1a インドネシア語中級1b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平11.4)	
112	兼任	講師	ゴトウ ヤスヒキ 後藤 康行 <平成31年4月>		博士(歴史学)		歴史の視点 歴史と地域・民衆	1・2前 1・2後	2 2	1 1	専修大学 文学部 非常勤講師 (平29.4)	
113	兼任	講師	コシヤ ミチコ 古宮 路子 <平成31年4月>		博士(言語学)		ロシア語中級1a ロシア語中級1b 世界の言語と文化(ロシア語)	2・3・4前 2・3・4後 1・2・3・4後	1 1 2	1 1 1	日本学術振興会 特別研究員(PD) (平29.4)	

教 員 の 氏 名 等

(経営学部ビジネスデザイン学科)

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年 齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週 当 たり 平 均 日 数
114	兼任	講師	サクライコウジ 桜井 厚二 <平成32年4月>		修士(文学)		ロシア語中級2a ロシア語中級2b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平12.6)	
115	兼任	講師	ササム マサヒコ 笹村 正彦 <平成32年4月>		学士(商学)		ビジネス研究C	2・3・4前	2	1	笹村公認会計士事務所 代表 (平9.9)	
116	兼任	講師	サトウ マサオ 佐藤 雅男 <平成31年4月>		修士(文学)		哲学	1・2前・後	4	2	専修大学 文学部 非常勤講師 (平7.4)	
117	兼任	講師	スギタ ヨシキ 杉田 芳樹 <平成32年4月>		修士(文学)		ドイツ語中級2a ドイツ語中級2b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平28.4)	
118	兼任	講師	タカハシ ミチエ 高橋 美智恵 <平成31年4月>		修士(キャリアデザ イン学)		キャリア入門 キャリア科目1 キャリア科目2	1前・後 2・3・4前 2・3・4後	4 2 2	2 1 1	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平26.4)	
119	兼任	講師	タナカ クニコ 田中 訓子 <平成31年4月>		修士(文学)		フランス語初級1a フランス語初級1b	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	1 2	1 2	大学書林国際語学アカデミー 講師 (平6.10)	
120	兼任	講師	タナカ マサカズ 田中 正邦 <平成31年4月>		修士(文学)		フランス語初級2a フランス語初級2b	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	1 2	1 2	専修大学 文学部 非常勤講師 (平5.4)	
121	兼任	講師	チヅツヒ 崔 誠姫 <平成32年4月>		修士(社会学)		コリア語中級2a コリア語中級2b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平26.4)	
122	兼任	講師	トリツク アユチ 鳥塚 あゆち <平成31年4月>		修士(文学)		世界の言語と文化(スペイン語)	1・2・3・4後	2	1	青山学院大学 国際政治経済学部 助教 (平28.4)	
123	兼任	講師	ナガイ タカミ 永井 匠 <平成32年4月>		修士(文学)		選択中国語1a 選択中国語1b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平9.4)	
124	兼任	講師	ニシノ コウスケ 西野 浩介 <平成33年4月>		修士(経営学)		ビジネス・マーケティング サービス・マーケティング	3・4前 3・4後	2 2	1 1	(株)三井物産戦略研究所 室長 (平24.3)	
125	兼任	講師	ハスイケ タカヒロ 蓮池 隆広 <平成31年4月>		修士(文学)		インドネシア語初級2a インドネシア語初級2b インドネシア語中級2a インドネシア語中級2b 世界の言語と文化(インドネシア語)	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 1・2・3・4後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平25.4)	
126	兼任	講師	ハットリ アサコ 服部 あさこ <平成31年4月>		博士(社会学)		社会学入門 現代の社会学	1・2前・後 1・2前・後	4 4	2 2	専修大学 人間科学部 非常勤講師 (平30.4)	
127	兼任	講師	ハマガウ コウコ 濱賀 祐子 <平成31年4月>		修士(法学)		政治学入門 政治の世界	1・2前 1・2後	2 2	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平13.4)	
128	兼任	講師	プロジェクト プロジェクト <平成33年4月>		学士(技術学)		フランス語上級1a フランス語上級1b	3・4前 3・4後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平14.4)	
129	兼任	講師	マツシタ タケヒロ 松下 丈宏 <平成31年4月>		修士(教育学)		教育学入門	1・2前	2	1	首都大学東京 都市教養学部 助教 (平20.5)	
130	兼任	講師	ミキタ マサリ 右田 将徳 <平成32年4月>		修士(経営学)		連結会計	3・4前	2	1	新日本有限責任監査法人 パートナー (平21.7)	
131	兼任	講師	ミサワ ミチオ 三澤 三知夫 <平成31年4月>		修士(文学)		中国語初級1a 中国語初級1b 中国語中級2a 中国語中級2b	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後 2・3・4前 2・3・4後	1 2 1 1	1 2 1 1	専修大学 文学部 非常勤講師 (平20.4)	
132	兼任	講師	ミナミタニ ヨシミ 南谷 奉良 <平成31年4月>		修士(文学)		英語圏文学への招待	1・2前	2	1	専修大学 商学部 非常勤講師 (平25.4)	
133	兼任	講師	ミワ シゲル 箕輪 茂 <平成32年4月>		博士(国際関係 論)		スペイン語中級2a スペイン語中級2b 選択スペイン語1a 選択スペイン語1b	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	1 1 1 1	1 1 1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平28.4)	
134	兼任	講師	ミヤガワ ヒロシ 宮川 宏 <平成32年4月>		修士(経営学)		会計システムとソリューションA 会計システムとソリューションB	3・4前 3・4後	2 2	1 1	目白大学 経営学部 講師 (平29.4)	
135	兼任	講師	モガミ ケンジ 最上 健児 <平成32年4月>		修士(経営学)		マーケティングとソリューションA マーケティングとソリューションB	3・4前 3・4後	2 2	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平9.4)	
136	兼任	講師	モリタ ヨシフミ 森田 悦史 <平成32年4月>		修士(工学)		民法A 民法B	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	国士舘大学 法学部 教授 (平12.4)	
137	兼任	講師	ヤナギ アヤコ 柳 綾子 <平成32年4月>		修士(ビジネス ロー)		税金の基礎	2・3・4後	2	1	税理士法人恒輝 (榎本税務会計事務所)職員 (平25.9)	
138	兼任	講師	ヤマグチ トシヒロ 山口 俊洋 <平成32年4月>		修士(文学)		選択フランス語1a 選択フランス語1b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 ネットワーク情報学部 非常勤講師 (平22.4)	
139	兼任	講師	ヤマダ ヨシテル 山田 義照 <平成32年4月>		博士(経営学)		コスト・マネジメント	3・4前	2	1	玉川大学 工学部 准教授 (平19.4)	
140	兼任	講師	ヤマモト ノブヤ 山本 展也 <平成32年4月>		修士(経済学)		税務会計論	3・4前	2	1	山本会計事務所 所長 (商56.4)	
141	兼任	講師	ヨコフタ トシヤス 横藤田 稔泰 <平成31年4月>		博士(歴史学)		スペイン語初級1a スペイン語初級1b	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	1 2	1 2	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平24.4)	